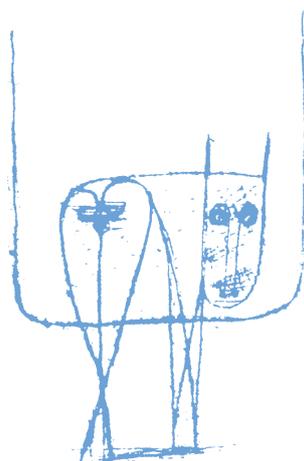

神奈川県立近代美術館

年2021報

ANNUAL REPORT



神奈川県立近代美術館

年2021報

ANNUAL REPORT

目次

[凡例]

- ・本年報に記載する人物は、原則として敬称略とする。
- ・各学芸員の役職は「職員一覧」(p.62)を参照のこと。

あいさつ	3
展覧会活動	
2021(令和3)年度展覧会 会期・観覧者数一覧	4
葉山館	5
鎌倉別館	16
教育普及活動	
2021(令和3)年度 教育普及事業実績一覧	22
団体来館受入状況	23
美術図書室	24
美術館紹介・広報 掲載実績	25
刊行物	26
2021(令和3)年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業	27
2021(令和3)年度教育普及事業報告	
京都市立銅駝美術工芸高等学校と神奈川県立近代美術館の協働ワークショップから考える多様な学び ——こどもたち、作家、学芸員をつなぐオンライン研修の実践	28
作品蒐集管理活動	
2021(令和3)年度 購入・寄贈・寄託状況	32
2021(令和3)年度 新収蔵作品一覧	32
館外貸出作品一覧	46
修復報告	47
2021(令和3)年度 修復作品一覧	54
美術館資料の保存と活用	55
調査研究活動	
調査研究の発表・執筆等	58
外部資金の活用	58
講師派遣・外部委員等就任	58
運営・管理報告	
概況(沿革・所掌事務・施設の状況)	59
PFI事業の概要	59
収入・支出の状況	59
関係法規	60
組織	61
職員一覧	62

あいさつ

『神奈川県立近代美術館 2021 年度年報』を刊行いたします。

2020 年、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、多くのひとがコロナウイルスとの「闘い」という言葉を口にし、政治的な指導者もそれに「打ち勝つ」という覚悟を「東京 2020 オリンピック」に向けて表明しました。しかし、オリンピックが開催された 2021 年においても、完全な終息からはほど遠く、なんとかウイルスと共存し、より安心と安全な状態を日々工夫して探っていくしかない状況となりました。美術館の活動も感染拡大予防対策のために制限が課され、美術館スタッフは県の医療支援に参加するなど変則勤務が続きました。

さらに、2022 年 2 月にはロシアによるウクライナへの侵攻が開始され、ヨーロッパでの大規模な戦乱の行く末は、現時点でも不透明なままです。

こうした現状を踏まえて、美術館もまた、将来のパンデミックや戦争や自然災害のより深刻な現出に備えなければなりません。美術館の基本は、情報も含めたそのコレクションです。コレクションがない場合は展示施設に留まります。たとえ一点であってもコレクションがあれば、そこから持続可能性を高めていくことが可能です。コレクションを大切に展示公開に努力すれば、そのつながりから作品や情報が集まってくるからです。

2021 年は、鎌倉の鶴岡八幡宮境内に神奈川県立近代美術館が開館して 70 年という節目に当たります。記念展として年度初めから夏休みまで、葉山館で「空間の中のフォルム—アルベルト・ジャコメッティから桑山忠明まで」展を開催いたしました。第二次世界大戦後、日本で最初に「近代美術館」という名称を掲げて当館は出発しました。近代美術館としての歩みは、戦後の近現代彫刻の展開とまさに軌を一にするものであり、それは展覧会活動ばかりでなく、収蔵作品に色濃く反映しています。1951 年の時点での展示や収蔵の努力は、すでに幽明を異にする次世代に引き継がれています。まさしく 20 世紀後半から現在にいたる美術状況を当館の彫刻コレクションは物語ってくれるものなのです。

同展と同時開催された「若林奮 新収蔵作品」展は、個人収集家の河合孝典氏が長年を費やして集めた初期から晩年までの若林奮の作品 100 数点が当館に同氏のご厚意によりまとめて寄贈され、それを公開したものでした。また生誕 110 年を記念する「香月泰男展」は修復を終えたシベリア・シリーズを中心にその全貌を紹介する貴重な機会となりました。同時にコレクションから「内なる風景」と題して、戦争や抑留体験に関わる作品や香月泰男とつながりのある作品を紹介しました。「矢萩喜從郎 新しく世界に関与する方法」展は、1980 年代はじめから、日本のデザイン界に実践と理論によって大きな刺激を与えつづけている多ジャンル横断的な表現者・矢萩喜從郎の全貌を紹介する公立美術館での初めての展示となりました。コレクションからは「アンリ・マティスの挿絵本」を特集しました。葉山では次年度にかけて「奥谷博—無窮へ」を館全体のスペースを使って大規模な回顧展として開催しました。画家の故郷である高知県の宿毛と現在創作の拠点としている葉山という土地柄が、いかにその画業の靈感源になっていることを証する展示となりました。

鎌倉別館では、改修工事の延長により開幕が遅れましたが、「町田市立博物館所蔵 岩田色ガラスの世界展—岩田藤七・久利・糸子—」を町田市立博物館の全面協力を得て開催することができました。当初の予定から遅れたものの現代日本を代表する鎌倉在住の写真家の個展「フィリアー今 道子」展も、国内の美術館での初めての回顧展となりました。鎌倉別館では最後に「山口勝弘展『日記』(1945—1955)に見る」という、調査研究の報告としての性格も備えた展覧会を実現できました。従来の作品データが、日記の記述の裏づけによって、さらに信頼に値するものになった機会でもありました。

それらすべてに当館のコレクションと情報が生かされています。今後もまた寄託を含めた収蔵作品と資料、そしてそれにかかわる情報こそがわたしたちの活動を支えてくれることを改めて確認した一年でした。

最後になりましたが、このような楽観からほど遠い状況下にあっても、多くの関係各位に美術館活動に対する寛容なご理解とご協力、そして多くの励ましをいただきました。ここに記して心より謝意を表したいと思います。

2023 年 2 月

神奈川県立近代美術館長
水沢 勉

展覧会活動

2021(令和3)年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料		観覧者数 [人]			合計	巡回先
						有料	無料	うち 中学生 以下		
葉山館 企画展	フランス・ペーコン バリー・ジュール・ コレクションによる	[1/9] 4/1 4/11	10日 (21日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	3,226 (5,511)	943 (1,581)	170 (328)	4,169 [7,092]	渋谷区立松濤美術館
	開館70周年記念 空間の中のフォルム —アルベルト・ジャコメッティ から桑山忠明まで	4/24 9/5	118日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	800円 650円 400円 100円	9,711	2,376	840	12,087	
	生誕110年 香月泰男展	9/18 11/14	51日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000円 850円 500円 100円	7,856	1,766	222	9,622	宮城県美術館、新潟市美術館、 練馬区立美術館、足利 市立美術館
	矢萩喜俊郎 新しく世界に参与する方法	11/27 1/30	52日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	3,093	1,376	289	4,469	
	奥谷博—無窮へ	2/12 3/31 [4/3]	42日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	2,976	1,117	179	4,093	高知県立美術館
小計			273日			26,862	7,578	1,700	34,440	
葉山館 コレクション展	イギリス・アイルランドの美術 —描かれた物語	[1/9] 4/1 4/11	10日 (21日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	3,255 (5,595)	943 (1,581)	170 (328)	4,198 [7,176]	
	若林 奮 新収蔵作品	4/24 9/5	118日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	9,906	2,376	840	12,282	
	内なる風景	9/18 11/14	51日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	8,073	1,766	222	9,839	
	アンリ・マティスの挿絵本	11/27 1/30	52日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	4,010	1,376	289	5,386	
小計			231日			25,244	6,461	1,521	31,705	
鎌倉別館 企画展	町田市立博物館所蔵 岩田色ガラスの世界展 —岩田藤七・久利・糸子—	9/21 11/14	39日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	1,474	821	120	2,295	栃木県立美術館、岐阜県現 代陶芸美術館
	フィリアー今 道子	11/23 1/30	56日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	2,833	1,412	235	4,245	
	山口勝弘展 『日記』(1945—1955)に見る	2/12 3/31 [4/17]	42日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	859	449	196	1,308	
小計			231日			5,166	2,682	551	7,848	
合 計 [12 展覧会]						57,272	16,721	3,772	73,993	

※「フランス・ペーコン バリー・ジュール・コレクションによる」および「イギリス・アイルランドの美術—描かれた物語」の会期は2021.1/9～4/11。
3/31以前の日数、観覧者数については昨年度の年報を参照。()内は昨年度と今年度の合計の日数と観覧者数。

※「奥谷博—無窮へ」の会期は2022.2/12～4/3。

※「町田市立博物館所蔵 岩田色ガラスの世界展—岩田藤七・久利・糸子—」は鎌倉別館改修工事の延長により9/21～9/30臨時休館。

※「山口勝弘展『日記』(1945—1955)に見る」の会期は2022.2/12～4/17。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、2021.4/24～9/5、9/18～10/24、2022.1/21～3/21はオンラインによる事前予約制を実施。

葉山館

760

開館 70 周年記念 空間の中のフォルム—アルベルト・ジャコメッティから桑山忠明まで

Forms in Space: from Alberto Giacometti to Tadaaki Kuwayama

現代の彫刻家は、空間の中の多様なフォルムを追求してきた。神奈川県立近代美術館は、1951年の開館以来、こうした同時代の彫刻・立体作品を積極的に収集、展示、保存している。その70年の歩みを記念する本展は、9つの特集コーナーと、その他の当館を代表する収蔵品を交えて延べ98点の作品で構成した。アルベルト・ジャコメッティ《裸婦小立像》(1946年頃)や桑山忠明のインスタレーション《無題》(2004年)、32年ぶりに展示する最上壽之の大型木彫《トントンビョウシノアシビョウシ》(1989年)のほか、マルタ・パン《モニュメント—桜》(1995年)や宮崎進《無題》(1990年頃)、小杉武久《Interspersion for Light and Sound 光と音の点在》(2000年/再制作2020年)など、新収蔵品も公開した。本展覧会は、空間とさまざまなフォルムの豊かな対話を鑑賞する貴重な機会となった。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：4月24日(土)～9月5日(日)

会場：展示室2・3・4

休館日：月曜日(5月3日、8月9日は除く)

開催日数：118日

出品総点数：98点

総観覧者数：12,087人

担当学芸員：靱山昌夫、高嶋雄一郎 広報：吉田有璃子

関連企画

1) 館長トーク 6月19日(土) 話し手：水沢勉



ポスター



会場風景

撮影：山本 糾

報告書

PDF版

印刷時サイズ：29.7 × 21.0cm、79 ページ、無料

編集：神奈川県立近代美術館
発行：神奈川県立近代美術館
発行所：美術出版社 デザインセンター
制作：株式会社 erA
発行日：2021年9月5日

目次

形態・空間・場所（水沢 勉）
I 持続—彫刻を収集・展示・保存する（橋口由依）
II 間奏—彫刻の間（水沢 勉）
III 形態—彫刻家／画家（長門佐季）
IV 虚実—向井良吉と毛利武士郎（西澤晴美）
V 写像—形態の「体験」をとどめる（菊川亜騎）
VI 饗宴—鉄鋼シンポジウム（朝木由香）
VII 木魂—砂澤ビッキとデイヴィッド・ナッシュ（高嶋雄一郎）
VIII 再生—トントンビョウシノアシビョウシ（靱山昌夫）
IX 空間—桑山忠明「作品としての展示室」（三本松倫代）
X 多様—神奈川県立近代美術館の彫刻・立体作品から（靱山昌夫）
パネル展示：神奈川県立近代美術館の野外彫刻（橋口由依）
展覧会にみる彫刻史：神奈川県立近代美術館の草創期の活動から（菊川亜騎）
出品リスト

関連記事

▼展評・解説など

- ・水沢 勉「空間の中のフォルム 開館 70 周年記念 アルベルト・ジャコメッティから桑山忠明まで 県立近代美術館 上 今に続く彫刻の変化」『神奈川新聞』2021年7月26日、11 面
- ・靱山昌夫「空間の中のフォルム 開館 70 周年記念 アルベルト・ジャコメッティから桑山忠明まで 県立近代美術館 中 異なる人間の共通点」『神奈川新聞』2021年8月2日、17 面
- ・靱山昌夫「空間の中のフォルム 開館 70 周年記念 アルベルト・ジャコメッティから桑山忠明まで 県立近代美術館 下 作品上で変幻する空間」『神奈川新聞』2021年8月9日、17 面

▼展覧会紹介：2紙(6回)／12誌(20回)

▼情報掲載：4紙(39回)／10誌(44回)

▼テレビ

- ・NHK 日曜美術館アートシーン 7月4日



報告書

葉山館

761

コレクション展 若林 奮 新収蔵作品

From Museum Collection: The Works of Isamu Wakabayashi - Donations from Takanori Kawai

当館では戦後を代表する彫刻家、若林奮の個展を、1973年に公立美術館として最初に開催して以来、1997年、2015年の3回にわたり行ってきた。本展は、企画展「空間の中のフォルム」とあわせ、2020年度、個人収集家の河合孝典氏より寄贈された若林奮の作品を紹介した。河合氏が20年をかけて収集した若林作品は、彫刻をはじめ素描、版画、オブジェに加え、貴重な手製年賀状なども含めると総数100点余におよぶ。これらは1960年代、鉄の彫刻家として注目された若林が、晩年に至るまでに銅や鉛、木、硫黄といったさまざまな素材と向き合いながら思索を深め、「自然」と「人間」との関係性を彫刻によって追求した創作世界を映し出している。当館の若林コレクションは「振動尺」以前の作が中心であったことから、今回の寄贈により、一層充実したコレクションとなった。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：4月24日(土)～9月5日(日)
場所：展示室1
休館日：月曜日(5月3日、8月9日は除く)
開催日数：118日
出品総点数：作品61点、資料40点
総観覧者数：12,282人
担当学芸員：朝木由香、菊川亜騎 広報：鈴木敬子

カタログ
タイトル：若林 奮 河合コレクション
サイズ：21.4 × 14.8cm、88ページ、販売価格：1,850円(税込)
編集：神奈川県立近代美術館
執筆：水沢 勉、河合孝典、若林 奮 [再録]、朝木由香
発行者：河合孝典
協力：WAKABAYASHI STUDIO、ケンジタキギャラリー
デザイン：梯 耕治
撮影：山本 紉
製作：株式会社 erA

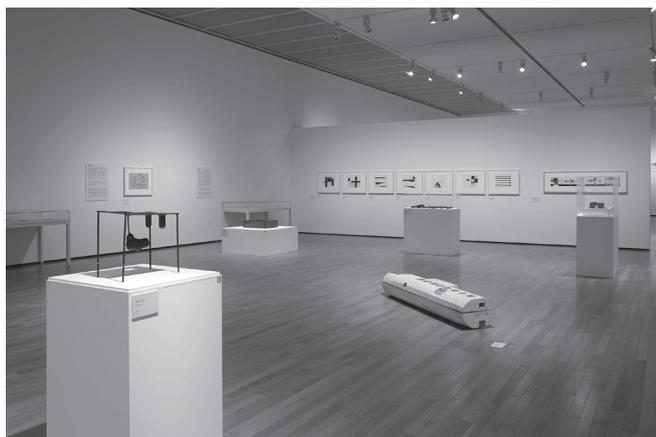
目次
刊行に寄せて(水沢 勉)
若林奮作品の収集(河合孝典)
図版
「若林 奮 新収蔵作品」展会場風景
河合コレクション
他と自分の間の距離(若林 奮)
河合コレクション 若林奮作品リスト
資料一展覧会解説(朝木由香)
若林 奮 略年譜

関連記事

- ▼展評・解説など
 - ・[署名無]「COLUMN 個人コレクションから辿る 若林奮の振動する視覚」『アートコレクターズ』2021年9月号(No.150)、p.30
- ▼展覧会紹介：2誌(16回)
- ▼情報掲載：6誌(17回)
- ▼ウェブ 展覧会紹介：5件



チラシ



会場風景

撮影：山本 紉



カタログ

葉山館

762

生誕 110 年 香月泰男展

KAZUKI Yasuo: A Retrospective

太平洋戦争とシベリア抑留の体験を描いた「シベリア・シリーズ」で戦後洋画史に確固たる地位を築いた香月泰男の生誕 110 年を記念して開催した回顧展。当館では 54 年ぶりとなる。本展覧会は東京美術学校時代から最晩年まで、シベリア・シリーズ全 57 点を含む代表作 125 点を制作年順に展覧し、香月泰男の画業の全容を紹介した。「一大叙事詩」として読み取られることの多いシベリア・シリーズを「解体」し、同時期に制作された他の作品とあわせて画家の創作活動における同シリーズの位置づけを再検証。あわせて資料や素描を紹介し、これまで「シベリアの画家」としてのイメージに隠れがちだった香月芸術の多彩な魅力に迫った。

主 催：神奈川県立近代美術館

監 修：山口県立美術館、香月泰男美術館

企画協力：一般社団法人インディペンデント

会 期：9月18日(土)～11月14日(日)

場 所：展示室 1・2・3

休 館 日：月曜日（9月20日は除く）

開催日数：51 日

出品総点数：146 点（資料含む）（巡回展 146 点）

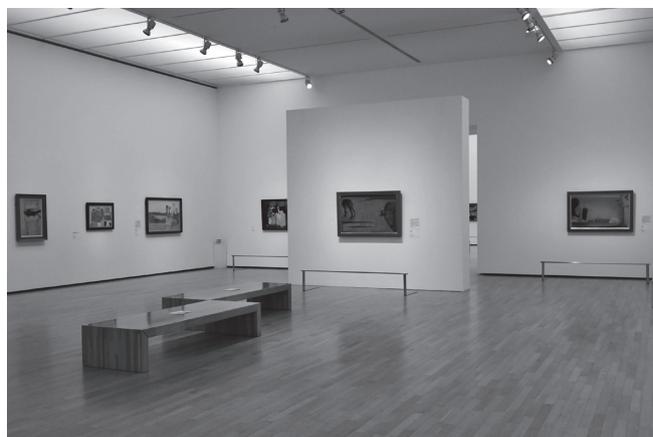
総観覧者数：9,622 人

担当学芸員：長門佐季、橋口由依 広報：鈴木敬子

巡 回 先：宮城県美術館、新潟市美術館、練馬区立美術館、
足利市立美術館



ポスター



会場風景 1



会場風景 2

カタログ

サイズ：25.8×18.7cm、278ページ、販売価格：2,400円（税込）

執筆：水沢 勉、萬屋健司（山口県立美術館）、喜多孝臣（練馬区立美術館）、江尻 潔（足利市立美術館）、小椋山祐幹（宮城県美術館）、上池仁子（新潟市美術館）、橋口由依、長門佐季、丸尾いと（香月泰男美術館）

編集：宮城県美術館、神奈川県立近代美術館、新潟市美術館、練馬区立美術館、足利市立美術館

発行：一般社団法人インディペンデント

デザイン：桑畑吉伸

翻訳：小川紀久子

印刷：光村印刷株式会社

目次

「私」の対話—あいさつにかえて（水沢 勉）

清澄な抒情と追憶のシベリア—香月泰男の造形とその展開（萬屋健司）

I 1931—49 逆光のなかのファンタジー

II 1950—58 新たな造形をもとめて

III 1959—68 シベリア・シリーズの画家

IV 1969—74 新たな展開の予感

シベリア・シリーズの土壌—1930年代から40年代の日本的油絵をめぐる香月泰男の制作について（喜多孝臣）

画家の生命／絵の生命 香月泰男の「手」（小椋山祐幹）

梅檀にふりそそぐ光（江尻 潔）

シベリア・シリーズ—そのプロセスとモチーフの変遷について（長門佐季）

「シベリア・シリーズ」香月泰男の自筆解説文（小椋山祐幹編）

年譜（香月泰男美術館編）

展覧会歴（香月泰男美術館編）

文献目録（長門佐季編）

出品リスト

関連記事

▼展評・解説など

・大西若人「評「生誕110年 香月泰男展」展「シベリア」に至る試行錯誤」『朝日新聞』2021年10月5日夕刊、3面

・高野清見「香月泰男 生誕110年回顧展 抑留と「画風の変遷」着目」『読売新聞』2021年10月7日、13面

・山根聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 葉山「生誕110年 香月泰男展」シベリヤ抑留体験 鎮魂の思いを昇華」『産経新聞』2021年10月25日、20面

・志賀信夫「陰翳逍遙 第44回 不思議な抽象性 香月泰男」『トーキングヘッズ叢書』(No.88) 2021年11月 p.43

・石川健次「Art Scene「生誕110年 香月泰男展」『サンデー毎日』2021年10月17日号（第100巻第49号） p.91

ほか12件

▼展覧会紹介：3紙(3回)／11誌(13回)

▼情報掲載：4紙(23回)／9誌(15回)

▼テレビ

・NHK 日曜美術館アートシーン 10月3日

▼ウェブ

・白洲信哉「白洲式“見る眼の育て方”第50話 近代発祥の御用邸と近代美術館 葉山 香月泰男展」2021年10月7日 <https://www.esquire.com/jp/culture/column/a37850384/culture-column-shinya21-1015/>

・杉原環樹「シベリア・シリーズ」全57点を一挙展示。神奈川県立近代美術館 葉山「生誕110年 香月泰男展」レポート「トウキョウアートビート」2021年10月20日 https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/kazuki_yasuo_hayama

・読売新聞美術展ナビ編集班「レビュー シベリアを描き続けた生涯「生誕110年 香月泰男展」神奈川県立近代美術館」「美術展ナビ」2021年11月1日 <https://artexhibition.jp/topics/news/20211031-AEJ541566/>

・「キュレーターが語る 話題の展覧会の作り方 VOL.05 神奈川県立近代美術館 企画課長 長門佐季氏」「アートアジェンダ」2021年11月10日 <https://www.artagenda.jp/feature/news/20211110>



カタログ

葉山館

763

コレクション展 内なる風景

Landscapes of Memory from Museum Collection

同時開催の「生誕 110 年 香月泰男展」にあわせ、香月が東京美術学校で師事した藤島武二、作風に影響を受けた梅原龍三郎、生前に親交のあった野見山暁治、柳原義達、高山辰雄、松田正平、佐野繁次郎ら関連作家の作品をコレクションから精選して展示した。また、澤田哲郎の《シベリヤの密葬》、宮崎進の《すべてが沁みる大地》(3点)を香月と同様にシベリア抑留体験を持つ画家の作品として取り上げた。松本竣介《立てる像》、鬚光《満州風景》、浜田知明《ヘルメット》、《忘れえぬ顔 B》、田中岑《丘原》といった、過酷な戦時下を生きた作家たち 14 人の作品 23 点を通して、それぞれの戦争の記憶と、生と死というテーマへの多様な取り組みを振り返った。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：9月18日(土)～11月14日(日)
場所：展示室 4
休館日：月曜日(9月20日は除く)
開催日数：51日
出品総点数：23点
総観覧者数：9,839人
担当学芸員：西澤晴美 広報：鈴木彩乃

関連記事

▼展評・解説など

- ・西澤晴美、聞き手・伊東哉子「私のイチオシコレクション 神奈川県立近代美術館 葉山 戦地へ仲間を見送った青年」『朝日新聞』2021年10月5日夕刊、4面
- ・山根聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 葉山「生誕 110 年 香月泰男展」コレクション展「内なる風景」同時開催」『産経新聞』2021年10月25日、20面

▼情報掲載：4誌(4回)



会場風景

葉山館

764

矢萩喜従郎 新しく世界に関与する方法

Kijuro Yahagi: New Ways of Meeting the World

グラフィックやサインデザインからコンセプチュアル・アート、写真、彫刻、建築、評論など、多面的な活動で国際的に評価を得た矢萩喜従郎の約35年にわたる仕事をたどる回顧展。矢萩自身による会場デザインおよび作品解説とともに、展示室をはじめ展示ロビーと展示通路の全面にわたる空間構成を行い、評論書（美術図書室で特集配架）を除く上記の多彩な仕事を作品と写真パネルで紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館
協力：株式会社キジュウロウ・ヤハギ、株式会社フレームマン、茅ヶ崎市美術館

会期：11月27日(土)～2022年1月30日(日)

場所：展示室1・2・3

休館日：月曜日(2022年1月10日は除く)、12月29日(水)～2022年1月3日(月)

開催日数：52日

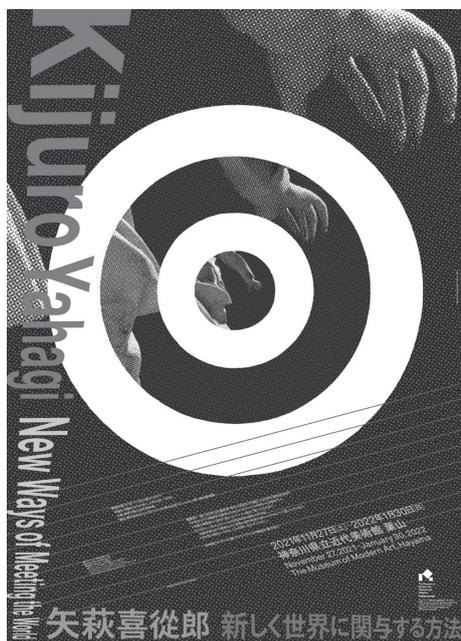
出品総点数：作品194件516点、写真パネル27件17点

総観覧者数：4,469人

担当学芸員：三本松倫代、高嶋雄一郎 広報：鈴木彩乃

関連企画

1) アーティスト・トーク 12月18日(土) 講師：矢萩喜従郎、聞き手：水沢勉



ポスター (B1)



ポスター (B2)

カタログ

サイズ：25.7 × 18.2cm、174 ページ、販売価格：2,400 円（税込）

執筆：矢萩喜従郎、水沢 勉、三本松倫代

翻訳：小川紀久子、株式会社 Gengo

編集：神奈川県立近代美術館、株式会社キジュウロウ・ヤハギ

デザイン：矢萩喜従郎

印刷・製本：ニューカラー写真印刷株式会社

発行：神奈川県立近代美術館

目次

発見的 (heuristic) であること—矢萩喜従郎を突き動かすもの (水沢 勉)

動態としての現象 (矢萩喜従郎)

図版 (解説：矢萩喜従郎)

展覧会への付記 (三本松倫代)

略歴

出品リスト

関連記事

▼展評・解説など

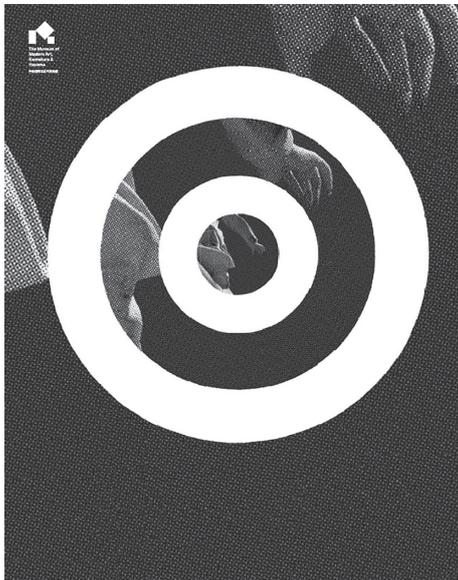
・児島やよい「VERY VOGUE ART 世界との関わりを考えて、新しい私を発見。」『VOGUE』2022年1月号、p.203

・山根聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 葉山「矢萩喜従郎 新しく世界に関与する方法」展 視覚への深い思索 「世界初」試み重ね」『産経新聞』2022年1月10日、18 面

・「矢萩喜従郎「多面体」の軌跡 神奈川・葉山で企画展」『読売新聞』2022年1月22日夕刊、6 面

▼展覧会紹介：3紙(3回)／7誌(9回)

▼情報掲載：6紙(25回)／10誌(27回)



カタログ



会場風景

撮影：矢萩喜従郎

葉山館

765

コレクション展 「アンリ・マティスの挿絵本」

Illustrated Books by Henri Matisse from Museum Collection

20世紀前半、言葉とイメージを自立した関係でとらえ、詩人と画家が共作する「挿絵本」という新たなジャンルの興隆がみられた。マティスにおいては1940年代以降、素描や詩画集、切り絵などに情熱を傾けたことで知られる。本展では、彼が編集者テリアードと共同制作した詩画集『ジャズ』(1947年)や『シャルル・ドルレアン詩集』(1950年)、雑誌『ヴェルヴ』を紹介した。また、これらは日本画家の山口蓬春旧蔵であることに着目し、1951年に日本で開催された「マティス 礼拝堂・油絵・素描・挿絵本展」を糸口に、蓬春がマティスの挿絵本を受容した経緯の一端をたどった。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：11月27日(土)～2022年1月30日(日)

場所：展示室4

休館日：月曜日(2022年1月10日は除く)、12月29日(水)～
2022年1月3日(月)

開催日数：52日

出品総点数：作品40点、資料3点

総観覧者数：5,386人

担当学芸員：朝木由香、菊川亜騎、岩井智子 広報：吉田有璃子

関連記事

▼展覧会紹介：1紙(3回)／1誌(2回)

▼情報掲載：3紙(6回)／3誌(6回)



会場風景

撮影：矢萩喜從郎

葉山館

766

奥谷博—無窮へ

HIROSHI OKUTANI: Towards Infinity

1934年に高知県幡多郡宿毛町（現在の宿毛市）に生まれ、東京藝術大学美術学部油画科で林武に師事し、1966年に独立美術協会会員となって同会を中心に活躍する洋画家、奥谷博の回顧展。奥谷は1973年から葉山町に居住し、2007年に文化功労者に選ばれ、17年に文化勲章を受章している。抽象画が流行した20世紀後半の美術界において、奥谷は具象画を追求し、とりわけ1960年代半ばに厚塗りから薄塗りにへの絵画技法を切り替えて以降、緊密な構成の中に色彩を大胆に対比させつつ、繊細な筆致を重ねて描くという独自の、幻想性さえも感じさせる画風を確立した。その対象は風景から、静物、動物、自身や家族、世界遺産や名刹の仏像と多岐に渡るが、それらに対する深い洞察は、宿毛で過ごした少年時代から首尾一貫している。本展覧会では、1950年代から現在に至る代表作72点に、上京前の宿毛で描いた作品38点を加えて、奥谷博の尽きることのない創作の全貌を紹介した。

協力：日本芸術院

会期：2022年2月12日(土)～4月3日(日)

場所：展示室1・2・3・4

休館日：月曜日（3月21日は除く）

開催日数：42日

出品総点数：110点（巡回展110点）

総観覧者数：4,093人

担当学芸員：靱山昌夫、高嶋雄一郎 広報：鈴木敬子

巡回先：高知県立美術館

関連企画

1) アーティスト・トーク 4月2日(土) 講師：奥谷博、聞き手：水沢勉



ポスター



会場風景

撮影：山本 紉

カタログ

サイズ：29.6 × 22.6cm、165 ページ、販売価格：3,300 円（税込）、ISBN：978-4-763-02132-8

執筆：奥谷 博、高階秀爾（美術評論家）、水沢 勉、塚本麻莉（高知県立美術館）、靱山昌夫

年譜文献編集：渡邊美喜

撮影：タケミアート

発行者：足立欣也

発行所：株式会社求龍堂

編集：靱山昌夫、清水恭子（求龍堂）

プリンティングディレクション：中塚康（求龍堂）

デザイン：神田宇樹（people design office）

印刷・製本：株式会社東京印書館

目次

奥谷藝術—絵画の詩法で歌う生命讃歌（高階秀爾）

藝術無終—ART IS NEVER FINISHED—（奥谷 博）

奥谷博 無窮動の絵画（水沢 勉）

図版

奥谷博の宿毛時代（塚本麻莉）

宿毛時代の作品

奥谷博の《鏡の中の自画像と骨》（靱山昌夫）

奥谷博略年譜（渡邊美喜編）

奥谷博主要参考文献目録（渡邊美喜編）

作品リスト

関連記事

▼展評・解説など

・田中糸れ奈「大回顧展 『奥谷博—無窮へ』 87 歳 果てしない底力 洋と和の融合めざして」『朝日新聞』2022年2月7日夕刊、5 面

・水沢 勉「展覧会 Preview 奥谷博—無窮へ 「無窮への意思」『美術の窓』No.481、2022年2月、pp.132-133

・奥谷 博「神奈川県立近代美術館「奥谷博—無窮へ」開催記念 40 年前と同じ場所に立ち、いま思うこと」『美じょん新報』第 270 号、2022年3月20日、pp.1-2

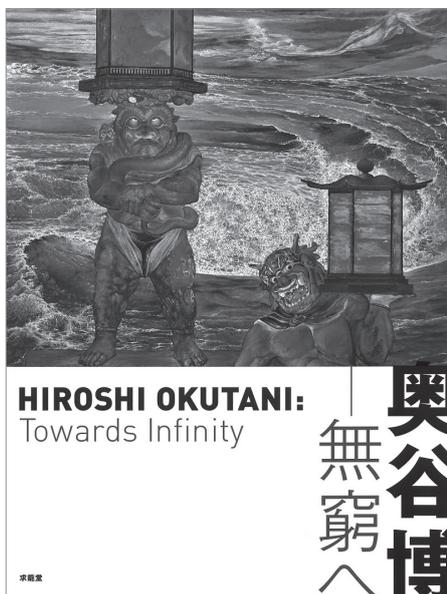
▼展覧会紹介：5紙(6回)／11誌(20回)

▼情報掲載：5紙(23回)／7誌(13回)

・tvk「NEWSハーバー Way to Go! ～企画展紹介 奥谷博—無窮へ～」2022年3月18日放送

▼ラジオ：1 件

▼ウェブ 展覧会紹介：15 件



鎌倉別館

767

町田市立博物館所蔵 岩田色ガラスの世界展 —岩田藤七・久利・糸子—

IWATA Toshichi, Hisatoshi and Itoko: The Pioneers of Japanese Modern Glass Art

近代ガラス工芸の礎を築いた岩田藤七は宙吹き技法によるやわらかな造形に鮮やかな色彩をまとわせた作品で知られ、ガラス工芸を芸術の域に高めたことで知られる。その長男・久利は化学的知識を駆使した緻密で流麗なガラスの世界を作り上げ、久利の妻・糸子は岩田工芸硝子株式会社を受け継ぎ清新なガラス作品を制作している。本展は日本のガラス工芸を拓いた岩田家の作品を町田市立博物館のコレクション約60点から紹介し、制作時のスケッチブックとともに展覧した。また岩田藤七が鎌倉を拠点とした文学者や美術家と親しくしたことから、本展では藤七と有島生馬、山口蓬春、小倉遊亀らの交流をふりかえり作品を当館所蔵品22点から紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館、神奈川新聞社

協力：町田市立博物館

助成：芸術文化振興基金

会期：2021年9月21日(火)～11月14日(日)

＊鎌倉別館改修工事の延長により9月21(火)～9月30日(木)臨時休館

休館日：月曜日

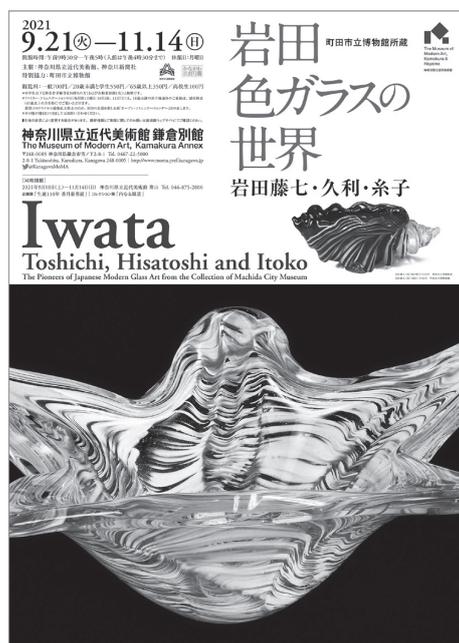
開催日数：39日

出品総点数：90点（巡回展67点）

総観覧者数：2,295人

担当学芸員：菊川亜騎、長門佐季 広報：八木めぐみ

巡回先：栃木県立美術館、岐阜県現代陶芸美術館



ポスター



会場風景

カタログ

サイズ：20.0×22.0cm、119ページ、販売価格：2,500円（税込）

監修：岩田マリ

執筆：齊藤晴子（町田市立博物館）、鈴木さとみ（栃木県立美術館）、
守屋靖裕（岐阜県現代陶芸美術館）、菊川亜騎

編集：齊藤晴子、鈴木さとみ、守屋靖裕、菊川亜騎、中島小百合・望
月友詔（神奈川新聞社）

翻訳：株式会社インターグループ

制作：神奈川新聞社

印刷・製本：ニューカラー写真印刷株式会社

発行：神奈川新聞社

目次

岩田藤七・久利・糸子：作家の生涯（齊藤晴子）

図版

岩田藤七

岩田久利

岩田糸子

コラム

岩田藤七と鎌倉のひとびと—交流の軌跡をたどる（菊川亜騎）

もう一人のパイオニア 各務鑑三 クリスタルガラスの世界（守屋靖裕）

岩田久利の黒色ガラス—「闇」に潜む光と彩（鈴木さとみ）

岩田藤七と官展（齊藤晴子）

作家略歴

主要参考文献

関連記事

▼展評・解説など

・宮代栄一「美の履歴書 697 たゆたう姿 モデルは「貝」岩田藤七」『朝日新聞』2021年5月25日朝刊、2面

・齊藤晴子「展覧会スポットライト 町田市立博物館所蔵「岩田色ガラスの世界展—岩田藤七・久利・糸子—」」『炎芸術』2021夏5月号、No.146、pp.126-129

・齊藤晴子「岩田ガラスの世界展（上）「げてももの」は自虐か」『神奈川新聞』2021年10月18日朝刊、7面

・菊川亜騎「岩田ガラスの世界展（下）鎌倉の芸術家を魅了」『神奈川新聞』2021年10月21日朝刊、7面

・高橋円「ミュージアム・ナビ 岩田色ガラスの世界展—岩田藤七・久利・糸子— 県立近代美術館鎌倉別館 [鎌倉市]」『神奈川新聞』2021年10月29日朝刊、4面

ほか8件

▼展覧会紹介：2紙(83回)／4誌(4回)

▼情報掲載：3紙(13回)／8誌(8回)



カタログ

鎌倉別館

768

フィリア—今道子

philia—KON Michiko

写真家、今道子は、創形美術学校で版画を学び、写真を用いたリトグラフなどで非現実的なイメージを追求するなかで、1980年前後から本格的に写真の制作を始めた。市場に並ぶ魚や野菜などの食材や、靴や帽子といった日常的なモノを素材にそれらを組み合わせたオブジェを創り、自然光で撮影して印画紙に焼き付ける独自の手法を用いる。その精緻な構成と詩的喚起力に富んだモノクロームの世界は、最初の写真集『EAT』（1987年）以来一貫しており、第16回木村伊兵衛写真賞受賞（1991年）をはじめ、国内外で高い評価を得てきた。日本の美術館では初めての個展となる本展では、鎌倉を拠点に40年にわたり制作してきた作家の軌跡を、初期の代表作から最新作までを、カラー、ポラロイドを含む約100点からたどった。

主催：神奈川県立近代美術館
協力：PGI、株式会社フォトクラシック、巷房
助成：公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団
会期：11月23日(火)～2022年1月30日(日)
休館日：月曜日(2022年1月10日は除く)、12月29日(水)～
2022年1月3日(月)

開催日数：56日

出品総点数：106点

総観覧者数：4,245人

担当学芸員：朝木由香、靱山昌夫 広報：八木めぐみ

関連企画

1) アーティストトーク 1月15日(土) 話し手：今道子(写真家)



ポスター



会場風景 1

撮影：小野田桂子



会場風景 2

撮影：小野田桂子

カタログ

サイズ：28.0×22.8cm、192ページ、販売価格：【通常版】4,180円(税込)、
ISBN:978-4-336-07265-8／【サイン入り特装版】7,700円(税込)、
ISBN:978-4-336-07298-6

著者：今道子
執筆：高橋睦郎、中森康文、水沢 勉、柿沼裕朋
編集：朝木由香
和文英訳：ボリー・バートン、ジェフリー・アングルス
協力：PGI
造本・レイアウト：田中義久、西倉美朔
印刷：株式会社アイワード
プリンティング・ディレクター：浦有輝
製本：株式会社博勝堂
発行者：佐藤今朝夫
発行所：株式会社国書刊行会
担当：永島成郎

目次

フィリア（今道子）
神のアトリエ 今道子に（高橋睦郎）
図版
今道子 作品リスト 1979-2020（朝木由香 編）
空豆の器の中で眠っていたかっ—今道子インタビュー（聞き手・構成：
柿沼裕朋）
静物写真としてのラジカリズム—今道子の写真（中森康文）
イメージの地肌 今道子（水沢 勉）
展覧会歴
文献

リーフレット

サイズ：21.0×15.0cm（A3 四つ折り）、会場無料配布
編集：朝木由香、八木めぐみ
発行：神奈川県立近代美術館

目次

「フィリア—今道子」（朝木由香）
作品リスト

関連記事

▼展評・解説など

- ・朝木由香「抜け殻の記憶を見つめて」『版画芸術』2021年冬 No.194、p.113
- ・山根聡「かながわ美の手帖：県立近代美術館鎌倉別館 フィリア—今道子展」『産経新聞』2021年12月27日日刊、20面
- ・石川健次「Art Scene:フィリア—今道子」『サンデー毎日』2022年1月2・9日合併号（第101巻第1号）、p.93
- ・大西若人「文化評:フィリア—今道子展 生と死 凍結させた虚構世界」『朝日新聞』2022年1月5日夕刊、3面
- ・タカザワケンジ「文化 美術評：今道子個展『フィリア』 時間のない場所にいる不思議」『東京新聞』2022年1月14日夕刊、3面
- ・高橋 円「イマカナ文化：フィリア—今道子 県立近代美術館鎌倉別館」『神奈川新聞』2022年1月17日朝刊、13面
- ・藤田一人「文化 美術評」『公明新聞』2022年1月21日日刊、5面
- ・赤塚佳彦「文化：生死の境界 超現実を撮る『フィリア—今道子』展」『日本経済新聞』2022年1月22日朝刊、36面
- ・福住 廉「文化：『フィリア—今道子』展 曖昧な領域を写し出す」『山陽新聞』22面ほか共同通信社配信各地方紙 2022年1月28日～
- ・「REVIEW 編集部の展覧会見て歩き『今道子 生物と静物のあいだ』 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館」『芸術新潮』2022年2月号（第73巻第2号）、p.113
- ・平井倫行「だから静かなものがほしい『フィリア—今道子』展」『現代詩手帖』2022年4月、p.99

▼その他（書評、受賞）

- ・柴崎友香「読書面:写真・今道子、高橋睦郎ほか執筆『フィリア—今道子』」『読売新聞』2022年1月9日朝刊、23面
- ・平井倫行「今道子著『フィリア—今道子』（国書刊行会）を読む あなたがここにいてほしい」『図書新聞』3545号、2022年6月4日、p.8
- ・「写真協会賞に今道子さん」『読売新聞』2022年4月14日朝刊、23面

▼展覧会紹介：2紙(5回)/8誌(8回)

▼情報掲載：5紙(10回)/11誌(15回)

▼テレビ

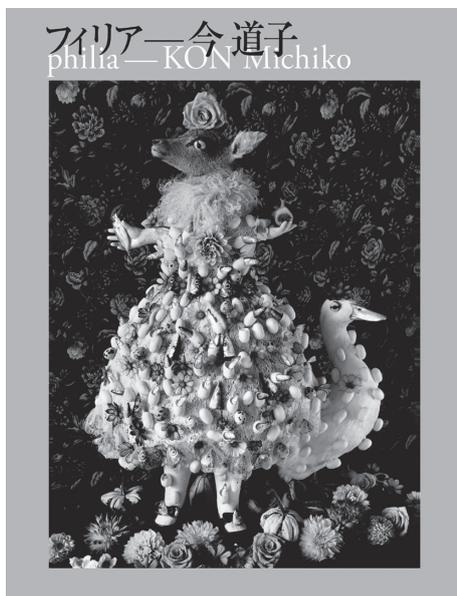
- ・NHK 日曜美術館アートシーン 今道子(出演) 2022年1月16日

▼ウェブ 展覧会紹介 6件

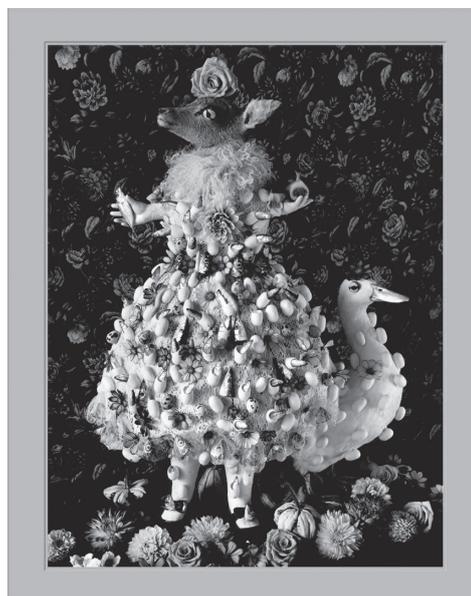
- ・「Fashion Press」2021年8月4日
<https://www.fashion-press.net/news/76041> ほか5件

▼ウェブ 展評・解説など

- ・飯沢耕太郎「レビュー:フィリア—今道子」『artscape』2021年12月15日
https://artscape.jp/report/review/10172878_1735.html
- ・米倉昭仁「怖いけど、きれいな グロテスクでなまめかしい魚の目に魅せられた写真家・今道子」[インタビュー記事]『AERA dot』2021年12月21日
<https://dot.asahi.com/dot/2021122100010.html>
- ・八木めぐみ「会場案内動画」フィリア—今道子『かなチャン TV』2021年12月27日 <https://www.youtube.com/watch?v=kZMcZQ-bGpY>



カタログ（通常版）



カタログ（特装版）

鎌倉別館

769

山口勝弘展『日記』(1945-1955)に見る

Looking at Katsuhiro Yamaguchi: Through his Diaries, 1945-1955

戦後美術の新しい局面を切り拓いた、日本のメディアアートの先駆者である山口勝弘は、戦後間もない1945年から1955年までの間に16冊の日記を残している。そこには日々の制作、訪れた展覧会やコンサート、読書、交友関係といった記録が簡明に記されており、山口自身の創作や思索を探るうえで重要であるばかりでなく、彼が参加したグループ「実験工房」をはじめとする戦後の美術の動きを実証的に検証する上でも非常に重要なものである。本展では近年、調査研究を進めてきた山口の日記から見えてくる、アメリカやヨーロッパの芸術動向の吸収、北代省三や福島秀子といった造形作家と、武満徹や鈴木博義ら若手音楽家による「実験工房」の結成、「APN」や「オートスライド」制作などの活動の経緯を、関連作家の作品・資料とともに紹介した。また、山口の初期を代表するシリーズ〈ヴィトリヌ〉の誕生と展開に迫り、その多彩な活動の出発点を振り返った。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2022年2月12日(土)～4月17日(日)

休館日：月曜日(3月21日を除く)

開催日数：42日

出品総点数：作品80点、資料84点

総観覧者数：1,308人

担当学芸員：西澤晴美、三本松倫代 広報：八木めぐみ



ポスター



会場風景

撮影：齋藤さだむ

カタログ

サイズ：25.7×18.2 cm、32 ページ、販売価格：800 円（税込）

編集：神奈川県立近代美術館

執筆：水沢 勉、西澤晴美

製作：瞬報社写真印刷株式会社

発行：神奈川県立近代美術館

目次

ごあいさつ（水沢 勉）

山口勝弘日記から見えてくるもの（西澤晴美）

図版（解説：西澤晴美）

実験工房

APN

ヴィトリノー

山口勝弘 略年譜

出品リスト

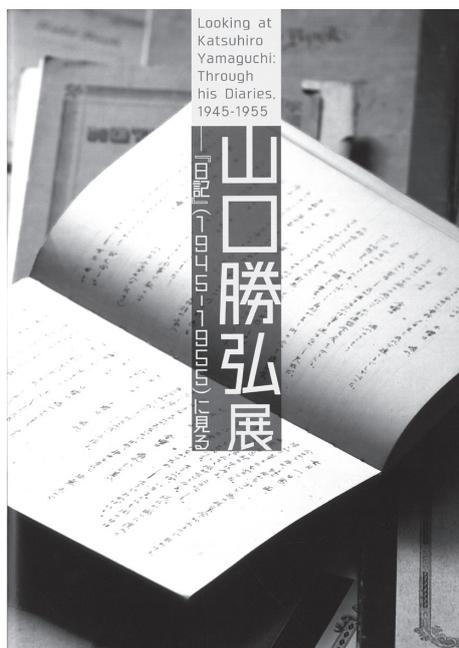
関連記事

▼展評・解説など

- ・藤島俊会「神奈川の文化時評 美術 藤島俊会 山口勝弘展 日記でたどる「実験工房」の軌跡」『神奈川新聞』2022年3月7日、15 面
- ・大西若人「美の履歴書 738 ガラス越し なにを見た「ヴィトリノー No.37」山口勝弘」『朝日新聞』2022年3月15日夕刊、2 面
- ・山根聡、西澤晴美「かながわ美の手帖 県立近代美術館 鎌倉別館「山口勝弘展—『日記』（1945—1955）に見る」 開封された占領期 若者たちの創作熱」『産経新聞』2022年4月4日、18 面
- ・高橋円「ミュージアム・ナビ 山口勝弘展「日記」（1945—1955）に見る県立近代美術館 鎌倉別館（鎌倉市）」『神奈川新聞』2022年4月8日、4 面

▼展覧会紹介：1紙(1回)／1誌(1回)

▼情報掲載：3紙(15回)／6誌(11回)



カタログ

教育普及活動

2021(令和3)年度 教育普及事業実績一覧

受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・学校連携プログラム等)

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止したイベント等は【中止】と記した。

	事業名	事業内容				事業実績	
		テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数
講演会等	「矢萩喜從郎 新しく世界に關与する方法」アーティスト・トーク ※図1	作家と館長による対談	矢萩喜從郎(デザイナー・建築家)、水沢 勉	R3.12.18	講堂	事前申込制	17名
	企画展「フィリアー今道子」アーティスト・トーク	作家と館長による対談	今道子(写真家)、水沢 勉	R4.1.15	別館展示室	事前申込制	23名
ワークショップ	夏のおたね21/みんなの100線	「若林 奮 新収蔵作品」に關連した、缶の中に様々な素材を使って風景を作るワークショップ	八木めぐみ、吉田有瑠子	R3.8.8 ※午前午後各1回	講堂	事前申込制	18名
	夏のおたね21/みんなの100線 ※図3	「若林 奮 新収蔵作品」に關連した、缶の中に様々な素材を使って風景を作るワークショップ	八木めぐみ、吉田有瑠子	R3.8.26 ※午後1回	講堂	事前申込制	7名
トーク	企画展「開館70周年 空間の中のフォルム」館長トーク	館長による野外彫刻解説	水沢 勉	R3.6.19	葉山館庭園	事前申込制	2名
県立社会教育施設活用講座	県立社会教育施設活用講座「工芸」の可能性／第1回【中止】	「つくるからみる工芸、つかうからみる工芸」	皆川明(ミナベルホネンデザイナー)	R3.9.25	鎌倉商工会議所会館地下ホール	事前申込制	
	県立社会教育施設活用講座「工芸」の可能性／第2回【中止】	「デザインを引き立てる工芸の魅力」	深澤直人(プロダクトデザイナー、日本民藝館館長)	R3.10.9	鎌倉商工会議所会館地下ホール	事前申込制	
	県立社会教育施設活用講座「工芸」の可能性／第3回【中止】	「日本のガラス工芸史における岩田藤七・久利・糸子」	斎藤晴子(岩田展監修、町田市立博物館学芸員)	R3.10.16	鎌倉商工会議所会館地下ホール	事前申込制	
	県立社会教育施設活用講座「工芸」の可能性／第4回【中止】	「西洋ガラス—器からアートへ」	土田ルリ子(富山市ガラス美術館副館長)	R3.10.30	鎌倉商工会議所会館地下ホール	事前申込制	
	県立社会教育施設活用講座「工芸」の可能性／第5回【中止】	「二人の先生と、私のこと」	吉田喜彦(陶芸家)	R3.11.6	鎌倉商工会議所会館地下ホール	事前申込制	
地域連携	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第1回 ※図4	「開館70周年記念 空間の中のフォルム—アルベルト・ジャコメッティから桑山忠明まで」	靱山昌夫	R3.7.2	葉山町教育委員会大会議室	事前申込制	14名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第2回【中止】	「若林奮 新収蔵作品」	朝木由香	R3.8.31	葉山町教育委員会大会議室	事前申込制	
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第3回【中止】	「生誕110年 香月泰男」	長門佐季	R3.9.24	葉山町教育委員会大会議室	事前申込制	
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第4回【中止】	「内なる風景」	西澤晴美	R3.10.15	葉山町福祉文化会館	先着順	
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第5回【中止】	「矢萩喜從郎 新しく世界に關与する方法」	三本松倫代	R3.12.17	葉山町福祉文化会館	先着順	
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第6回【中止】	「アンリ・マティスの挿絵本」	朝木由香	R4.1.21	葉山町福祉文化会館	先着順	
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第7回【中止】	「奥谷 博—無窮へ」	靱山昌夫	R4.2.18	葉山町福祉文化会館	先着順	
	近代美術館入門講座(逗子市共催連続講座)【中止】	「奥谷 博—無窮へ」	靱山昌夫	R4.2.25	逗子市役所会議室	先着順	
実習・研修等受入	博物館学芸員実習	計6日間/4大学(女子美術大学、多摩美術大学、千葉大学、中央大学)	高嶋雄一郎、鈴木彩乃	R3.8.3~8.13	葉山館	事前申込制	36名
	研修(京都市立銅駝美術工芸高等学校1年生)【中止】	オンライン美術研修	靱山昌夫	R4.2.4	オンライン葉山館会議室	事前申込制	
	研修(京都市立銅駝美術工芸高等学校1年生)	オンライン美術研修	靱山昌夫、鈴木敬子	R4.2.25	オンライン葉山館会議室	事前申込制	30名
	研修(京都市立銅駝美術工芸高等学校1年生)	オンライン美術研修	奥谷 博(画家)、靱山昌夫、鈴木敬子、菊川亜駿、橋口由依	R4.3.9	オンライン葉山館会議室	事前申込制	30名
	研修(京都市立銅駝美術工芸高等学校1年生)	オンライン美術研修	靱山昌夫、鈴木敬子、吉田有瑠子、鈴木彩乃	R4.3.10	オンライン葉山館会議室	事前申込制	30名
受講者人数総数(視聴・送付を除く)							207名

団体来館受入状況

団体種別	件数等
教育機関等	1件
一般	地方公共団体・生涯学習センター等の団体：0団体／延べ0回0名 その他団体：1団体/延べ1回15名

「Museum Box 宝箱」貸出

内容	件数等
貸出総個数	39個
貸出先	4校
貸出回数	延べ4回
利用総人数	259名
内訳概要	綾瀬市1ヶ所、横浜市1ヶ所、三浦市1ヶ所、京都市2ヶ所

「教材お届け便」発送

内容	件数等
送付総個数	221個
送付先	3施設
送付回数	延べ4回
内訳概要	医療センター：2施設／116個 その他：1施設／105個
地域	横浜市4ヶ所

美術図書室

鈴木めぐみ

1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録 2022年3月末現在) 104,184冊
- ・逐次刊行物タイトル数 和 2,383 タイトル 洋 368 タイトル
- ・2021年度新規図書・AV・図録登録数 5,647冊

2) 特別コレクション

- ・矢代幸雄文庫の洋書登録
- ・青木茂文庫の受入、登録
- ・斎藤義重文庫登録

3) 閲覧サービス

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応
 - ▷飛沫防止透明パーティションの設置(カウンター、閲覧席)
 - ▷入室者への手指消毒・非接触型体温計による検温の協力の要請
 - ▷座席(7席)、同時利用者数(7名)、満席時の利用時間(2時間)の制限
 - ▷図書室入口やエントランスへの満席表示の掲示
 - ▷電話による事前予約の優先
 - ▷閲覧済み資料は返却用ブックトラックに別置き、必要に応じて消毒し、翌日以降に配架
 - ▷チラシコーナーについては、10月26日より、数を絞って再開(ポスターを掲示しているものを中心に、関東圏のみ)
 - ▷視聴覚コーナーは引き続き休止
 - ▷適切な換気や消毒(閲覧机、カウンター等)の実施

《対応の参考にした資料》

日本図書館協会「図書館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」「図書館資料の取り扱いについて」
神奈川県立図書館「県立図書館における新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアル」など

- ・2021年度 開室日数 273日
- ・2021年度 入室者数 2,821名 1日平均10名
- ・2021年度 複写枚数 1,535枚 1日平均6枚
- ・2021年度 レファレンス受付件数 80件
- ・レファレンス事例

「昔の図録は紙面に絵が貼ってあるが、このような形態を何と
いうのか」

「足立源一郎の山岳絵画についての本が見たい」

「1950年代に神奈川県立近代美術館で開催した展覧会の図録
(目録)はあるか、閲覧可能か?」

「香月泰男の資料で、1967年に求龍堂から出版されているもの
はあるか」

「ラファージの『画家東遊録』はあるか」

「練馬区立美術館開催の“モダニズム”がつく展覧会の図録」
など

4) 展覧会関連資料の展示

- ・美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」として
わかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにし

ている。

葉山館の展覧会

「開館70周年記念 空間の中のフォルム—アルベルト・ジャコ
メッティから桑山忠明まで」(4月24日—9月5日)
富山県立近代美術館編『毛利武士郎展』富山県立近代美術館、
1999年

世田谷美術館編『向井良吉展』世田谷美術館、2000年
神奈川県立近代美術館編『砂澤ビッキ展 木魂を彫る』読売
新聞社・美術館連絡協議会、2017年
神奈川県立近代美術館編『桑山忠明展 HAYAMA』神奈川
県立近代美術館、2012年 など計55冊。

「コレクション展 若林 奮 新収蔵作品」(4月24日—9月5日)
酒井忠康『若林 奮 犬になった彫刻家』みすず書房、2008年
若林 奮『若林 奮 I.W』書肆山田、2004年
神奈川県立近代美術館編『若林 奮：河合コレクション』河合
孝典、2021年 など計17冊。

「生誕110年 香月泰男展」(9月18日—11月14日)
香月泰男『シベリア画集』新潮社、1971年
田原昌子ほか企画・編集『アートコレクション 香月泰男美術館』
香月泰男美術館、2020年
下関市立美術館編『香月泰男と1940-50年代の絵画：時代の
造形詩—モダニズムから新たな地平へ 没後35年』下関市
立美術館、2009年 など計31冊。

「コレクション展 内なる風景」(9月18日—11月14日)
原田 光『鳥海青児 絵を耕す』せりか書房、2015年
日動画廊制作『澤田哲郎と言う作品 / Tetsuro Sawada』日動
画廊、1995年
多摩美術大学美術館編『宮崎進：すべてが沁みる大地』多摩
美術大学美術館、2017年 など計37冊。

「矢萩喜從郎 新しく世界に関与する方法」(11月27日—2022
年1月30日)
キジウロウ ヤハギ編『矢萩喜從郎 / アトラクティブ・ヴィジ
ョン』アー・ドゥ・エスパブリシング、2009年
CCGA 現代グラフィックアートセンター編『矢萩喜從郎：触
触、視弾、そして眼差しの記憶』CCGA 現代グラフィックアートセ
ンター、2002年
『デザインの現場 Vol.6 No.37』美術出版社、1989年 など
計50冊。

「コレクション展 アンリ・マティスの挿絵本」(11月27日—
2022年1月30日)
ヒラリー・スパーリング『マティス：知られざる生涯』白水社、
2012年
山梨県立美術館編『ピカソ、マティス、シャガール イメージ
をめぐる冒険：20世紀巨匠たちの挿絵本』山梨県立美術館、
2009年
『美術手帖 vol.56 no.855』美術出版社、2004年 など計23冊。

「奥谷博—無窮へ」(2022年2月12日—4月3日)
奥谷 博『奥谷博画集：HIROSHI OKUTANI』求龍堂、1992年

三越編『奥谷博展：藝術無終』三越、2016年
『Atelier: アトリエ 通巻 467』アトリエ出版社、1966年など
計 68 冊。

鎌倉別館の展覧会

「町田市立博物館所蔵 岩田色ガラスの世界展—岩田藤七・久利・糸子—」(9月21日—11月14日)
北海道立近代美術館編『岩田藤七 ガラス幻想・縄文的モダニスト』北海道新聞社、2001年
町田市立博物館編『岩田藤七・久利・糸子：スケッチブックとガラス作品』町田市立博物館、2014年
郡山市立美術館編『日本ガラス工芸の先達たち：藤七・鎌三そして潤四郎』郡山市立美術館、2020年など計 26 冊。

「フィリアー今 道子」(11月23日—2022年1月30日)
Michiko Kon『Impact』Match and Company、2011年
今 道子『EAT』小学館、1991年
足利市立美術館編『瞬く皮膚、死から発生する生』足利市立美術館、2020年など計 32 冊。

「山口勝弘展『日記』(1945—1955)に見る」(2022年2月12日—4月17日)
山口勝弘『生きている前衛：山口勝弘評論集』水声社、2017年
山口勝弘『山口勝弘日記：1948-1955』大谷省吾、2022年
発電所美術館編『闇 2000 光：山口勝弘展』入善町教育委員会、2000年など計 36 冊。
このほか、季節にあわせた資料展示も行った。

5) 美術図書館横断検索

・2011年6月より「美術図書館横断検索(ALC)」に参加しており、横断検索の実施や加盟館の展覧会図録の速やかな相互発送により、利用者へのサービス向上に努めている。

参考 2021年度アクセス数
検索合計(項目別・フリーワード・絞込) 117,558
トップページ 45,923

美術館紹介・広報・掲載実績

1) 美術館紹介記事

「スローな時間を過ごす葉山 自然に囲まれながらゆったりとアートが楽しめる 神奈川県立近代美術館 葉山」『ことりっぷ Magazine』vol.28、2021年4月、p.27
「波、雲、光…。自然の変化に気づく 余裕ができて、ひとりの時間が楽しみに 星野知子さん」『ゆうゆう 保存版』第21巻7号、(2019年3月号掲載記事再掲)、2021年5月号増刊、pp.40-43
「教室に行こう 278 県立横浜南養護学校(横浜市南区) 美術館で豊かな学び オンラインで学校とつなぎ、疑似体験も」『神奈川新聞』2021年6月7日、7面
「お得きっぷで行く!夏の大満足 1万円旅 「葉山女子旅きっぷ」で欲張り体験!潮風が心地よいピーチヨガ体験と海を望む美術館」『ノジュール』177号、2021年7月号、pp.34-35
「神奈川県立近代美術館 葉山と鎌倉、2つの場所から近代美術を発信」『PRIME』第55号、2021年8月、pp.24-25
「京急×南海コラボ企画「京急のおトクなきっぷ」を使って三浦

半島満喫トリップ」葉山女子旅きっぷ(神奈川県立近代美術館 葉山)『Natts』vol.251、2021年11月、p.4
「特集「文化の秋を歩いて見つけよう」」『広報葉山』No.620、2021年11月、pp.1-4

2) 収蔵作品・作家ほか紹介記事

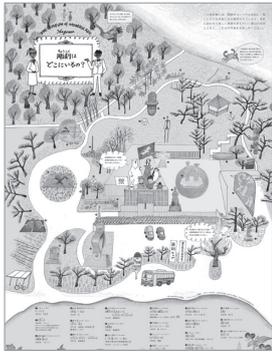
酒井忠康「作家の肖像 第18回 若林奮」『美術準備室』No.18、2021年4月、pp.18-19
後小路萌子「アジア太平洋戦争と松本竣介の「転向」」『デアルテ 九州藝術学会誌』第37号、2021年6月30日、pp.5-27
「神奈川県立近代美術館 作品紹介」『PRIME』第55号、2021年8月、pp.26-27
道面雅量「生きて 採録 サンパウロ展 日本代表に選ばれ出品 美術家 宮崎進さん 14 (1922年1月15日～2018年5月16日)」『中国新聞』2021年8月17日、3面
「特別展 文化勲章受章記念 澄川喜一展」『新美術新聞』No.1572、2021年9月11日、p.2
工藤香澄「ビジュツカンノススメ アートを楽しむ4つのヒント」『新美術新聞』No.1578、2021年9月11日、2面
「今月の展覧会ガイド「ビジュツカンノススメ アートを楽しむ4つのヒント」横須賀美術館」『アートコレクターズ』No.152、2021年11月、p.102
海原弘之「答えのない対話楽しむ 横須賀美術館哲学カフェ」『創年日日タイムズ』第36号、2021年12月5日、p.1
山口道孝「連載 鶴沼物語 13 鶴沼の劉生と逗子の義太郎」『かまくら春秋』No.621、2021年1月号、pp.66-68
西田健作「美の履歴書 731 色彩も心も捨てたわけは 「初年兵哀歌(歩哨)」浜田知明」『朝日新聞』2022年1月25日夕刊、2面
「[私の10点] 渡辺豊重」『ギャラリー』第443号、2022年3月、pp.7-27
江川佳秀「とくしま人物列伝 其の46 山下菊二」『いのち輝く』No.99、2022年春、pp.18-21
菅野仁美「荘司福のスケッチ 宮城県美術館の収蔵品から」『宮城県美術館年報・研究報告』令和3年度、pp.90-99

3) ホームページ閲覧数(2021年4月～2022年3月)

ホームページ訪問者数 総数 541,626人
参照ページ 3,915,461

1) 彫刻マップ「彫刻はどこにいるの？」

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 デザイン：軸原ヨウスケ (COCHAE)
 イラスト：大神慶子
 印刷：株式会社 野毛印刷社
 59.4×42.0cm、表：プロセス4色
 無料配布
 2021年7月改訂



3) 2020 年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 印刷：有限会社リーヴル
 29.7×21.0cm、64ページ、特色1図、単色88図
 無料配布
 2022年2月発行
 あいさつ／展覧会活動／教育普及活動／作品蒐集管理活動／調査研究活動／運営・管理報告



5) 美術館ルールカード

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 イラスト：しりあがり寿
 デザイン：さがえまさえ
 印刷：有限会社リーヴル
 14.8×10.0cm、オフセット4色
 無料配布
 2020年3月発行



2) 夏のたね 2021「みんなの100線」

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 デザイン：中西要介
 印刷：株式会社 アトミ
 プリキ缶：10.5(直径)×4.5(高さ)cm
 ワークシート：10.0×72.0cm、
 表・裏：オフセット4色
 無料配布
 2021年7月発行



4) 美術館たより『たいせつな風景』31号

特集：工芸の可能性
 編集・発行：神奈川県立近代美術館
 制作：株式会社 野毛印刷社
 20.9×14.5cm、13ページ、オフセット4色、
 特色1色
 無料配布
 2020年2月発行
 あいさつ(水沢 勉)／つくるからみる工芸、つかうからみる工芸(皆川 明)／工芸の可能性(深澤直人)／二人の先生と、私のこと(吉田喜彦)／作品解説 岩田藤七《鉢「長崎を偲ぶ」》(菊川 亜騎)



2021(令和3)年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業

梶山昌夫

令和3年度に神奈川県では新型コロナウイルス感染症の第4波から第6波に応じて、4月20日から8月1日までまん延防止等重点措置、8月2日から9月30日まで緊急事態宣言、1月21日から3月21日までまん延防止等重点措置がとられた。当館でも、「県立の博物館における新型コロナウイルス感染症拡大予防対策ガイドライン」に従い、講座やワークショップなどの教育普及事業は、事前予約制で実施した。また、リスクへの万全の対応が整わない場合には、慎重を期して中止とした（「2021(令和3)年度 教育普及事業実績一覧」を参照）。

一方で、令和2年度に続いて、博物館学芸員実習はウェブ会議ツールを用いて原則オンライン上で実施した（1日は展覧会の自由見学とした）。また、かねてから研修の受け入れを協議してきた京都市立銅駝美術工芸高等学校からも、オンライン上で

1年生30名を受け入れた。この研修は、当館、水戸芸術館、森美術館の3館で異なるプログラムを実施し、それぞれに参加した生徒が発表によって情報を交換するものであった。当館におけるプログラムについては、鈴木敬子が別途報告している通りである。

令和3年度中には414回Twitterで美術館情報を発信し、その内、動画「海辺の小景」は10回、「谷戸の小景」は11回配信している。

「教材お届け便」として、令和3年度は国立病院機構横浜医療センターなど4か所に221の美術教材を提供した。しかし、令和2年度に実施した「〇と□」がつくるみんなの輪」は、教材受け入れ施設が新型コロナウイルスの感染症のまん延防止対策に追われる状況となり、令和3年度は残念ながら成立しなかった。



図1. 「矢萩喜從郎 新しく世界に関与する方法」アーティストトーク
日時：12月18日(土)午後2時～3時
場所：葉山館 講堂



図2. 「フリーア—今道子」団体来館 一般社団法人日本写真学会
日時：12月16日(木)午後1時30分～17時
場所：葉山館 講堂・鎌倉別館 展示室



図3. 夏のたね「みんなの100線」ワークショップ
日時：8月8日(日)午後10時～12時/午後2時～4時/8月26日(木)午後2時～4時
場所：葉山館 講堂



図4. 「開館70周年記念 空間の中のフォルム—アルベルト・ジャコメッティから桑山忠明まで」
第1回近代美術館入門講座
日時：7月2日(金)午前10時～11時
場所：葉山町教育委員会 大会議室

2021(令和3)年度教育普及事業報告

京都市立銅駝美術工芸高等学校と神奈川県立近代美術館の 協働ワークショップから考える多様な学び —こどもたち、作家、学芸員をつなぐオンライン研修の実践

鈴木 敬子

概要

神奈川県立近代美術館では2020年2月以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面での教育普及事業に代わりウェブ会議システムによるオンライン研修を実施している。本稿では、2022年2月と3月に実施した、京都市立銅駝美術工芸高等学校と葉山館、そして画家・奥谷博のアトリエを中継したオンライン研修と、ワークショップ「美術的人生すごろく」について報告する。

1. はじめに

1-1. 京都市立銅駝美術工芸高等学校について

京都市立銅駝美術工芸高等学校（以下「銅駝美術高校」という。）は、1880（明治13）年に京都御苑内に日本初の美術学校「京都府画学校」として創立された歴史ある学校である。堂本印象、加山又造、草間彌生など多数の著名な美術家たちが卒業生として名を連ねている。

同校の主な教育目標は次の通りである。

- ・多様なものごとに触れ美しさや本質を見出す「感じる心」を豊かにする
- ・主体的に取り組み広い視野で柔軟に深く思考できる「考える力」を伸ばす
- ・幅広い美術の知識や技能を学び自分の思いや考えを形にする「表現する力」を高める

1-2. 事業実施までの経緯

銅駝美術高校では、毎年1年生対象の美術見学旅行を実施してきた。これまでは、瀬戸内・直島方面などへ2泊3日での鑑賞中心の研修旅行であったが、体験型の学びや多様な人々に関わる経験を取り入れた研修への切り替えを検討する中、水戸芸術館と森美術館、当館へワークショップを含むオンライン研修を依頼し、各館1クラス30名ずつ受け入れることとなった。当館へは、2018年10月に教員2名が研修旅行のための視察に来館して以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりその実施が繰り返し延期されていたが、2021年秋に銅駝美術高校からの提案により研修旅行から3館のオンライン研修へ変更して実施することとなった。

2. オンライン研修の概要

2-1. 学習の目的と意義

銅駝美術高校からの研修に関する要望は次の通りである。

- ①美術館やギャラリー、オルタナティブスペース等での作品鑑賞
 - ②アーティストやクリエイター、異分野・他領域の人との対話、協働活動
 - ③グローバルとローカルの両方の視点を盛り込んだ活動
 - ④リモートワークを取り入れた、インタラクティブな学び
- 学習内容は、これらの要望を踏まえ、銅駝美術高校1年3組

研修担当教員2名と当館普及課長、筆者の4名で、3～4回のオンライン会議を経て練り上げられた。

最初の会議で、当館から提案した学習計画は、葉山館で開催中の企画展「奥谷博—無窮へ」の作品紹介、画家・奥谷博と学生とのリアルな対話、奥谷や学芸員による生徒作品の講評であった。生徒作品は、奥谷がしばしば自画像を描いていることから、生徒自身の自画像を提案したが、この企画は一旦保留となった。次の会議では、研修担当教員から学習計画の修正提案があった。奥谷へは制作を長く続ける上での、モチベーションやモチーフへのこだわりについて、当館学芸員へは、美術館の役割や公共機関への支援について話を聞きたいという内容であった。またあわせて、アウトプットとして「作家人生すごろく」を制作したいという希望も上った。この学習計画には、生徒自身が作品を制作するだけでなく、柔軟で豊かに美術活動が続けていく考えを持ってほしい、そのために公共機関や社会といかに繋がっていくかを考えてもらいたいという意図が含まれている。また、すごろく制作では、どうすれば「あがり」なのか、様々な道を考えて制作すること、必須条件として「筆を折らないこと（創作をやめないこと）」が加えられていた。その源には、研修担当教員自身の美大生時代から、大手電機メーカーのデザイナーとして働いていた頃までの経験や苦悩から得たものを人生の先輩として学生たちに伝えたいという深い思いがあったが、そのことに筆者が気づいたのは、3日目の授業で教員がこれまでの人生を語ったときであった。

この修正提案に対し、当館も同意して、学習内容の方向性が定まった。しかし、必須条件である「筆を折らないこと（創作をやめないこと）」に対しては、より選択肢を広く残す必要があると指摘し、最終的なワークショップのコンセプトは次の通りになった。

—「美術的人生すごろく」とは

美術とともに社会を生きていく人生を、考えるためのすごろく。作家人生、学芸員人生、コレクター人生、仕事をしながら趣味的に作品を作ったり、仕事自体がクリエイティブなものだったり。コンペで受賞したり、公的な補助金をもらったり。美術に関わる様々な道筋と「あがり」を考えながら、3人1組のチームに分かれてオリジナルのすごろくを作りましょう。出来たすごろくは、他の人たちにも遊んでもらう予定です。「楽しくやりましょう！」

2-2. 実施概要

4日間のオンライン研修実施概要は次の通りである。

日 時	2022年2月4日(金) 1日目
	25日(金) 2日目
	3月9日(水) 3日目
	10日(木) 4日目
時 間	9:00～16:00 内
場 所	京都市立銅駝美術工芸高等学校 教室 神奈川県立近代美術館 葉山 会議室 画家 奥谷博アトリエ
対 象	1年3組 美術クラス (30名)
講 師	奥谷博 (画家) 靱山昌夫 (学芸員 普及課長) 菊川亜騎 (学芸員 作品貸出担当) 橋口由依 (学芸員 保存修復担当)

鈴木敬子（学芸員 教育普及担当）

※講師は、作品制作の経験がある者が担当した

内 容 講座とワークショップ

方 法 ウェブ会議システムを活用したオンラインによる
ワークショップや講演

スタッフ 技術サポート、作品講評など 3名

2-3. 当日のスケジュールと内容

【1日目】

9：00 出欠確認、概要説明

9：10 すごろく試遊、分析

9：55 普及課長による講義

- ・ 神奈川県立近代美術館 葉山について
- ・ 美術館の役割や使命について
- ・ 美術館やその周囲で働く人々について
- ・ 質疑応答

※初日前日にコロナウイルス感染者が発生し、当日は学級閉鎖となったため、自宅で美術館ウェブサイトを活用し当館について調べる自主学習に変更となった。レポート課題は次の通りである。

- ・ どんな美術館？
- ・ どんな人が、どんな仕事をしている？
- ・ 社会との連携を強めるためにどんなことをしている？
- ・ 「〇と□」はどんなワークショップ？
- ・ 学芸員の方に聞いてみたいことは？
- ・ 奥谷博はどのような作家ですか？
作品から感じたこと、考えたことを書いてください
- ・ 神奈川県立近代美術館の教材「すごろくびじゅつかん」を参考に、自分たちはどのような「美術的人生すごろく」を作りたいか考えてみよう



図1. 葉山館との中継の様子

【2日目】

9：00 出欠確認

普及課長による講義

- ・ 企画展「奥谷博—無窮へ」展覧会と作家の紹介
- ・ 質疑応答

10：18 明日に向けて講師への質問を考える

10：40 次回の説明

講師は、事前に用意された生徒からの質問に答えながら講義を行った。

【3日目】

9：00 出欠確認

9：03 3組研修主担当、副担当自身の「美術的人生」の紹介

9：30 学芸員との対話

(保存修復担当、作品貸出担当、教育普及担当)

10：30 すごろく制作

12：30 午前の部終了

14：00 画家・奥谷博との対話

15：30 すごろく制作

16：00 次回の説明

講師は、事前に用意された生徒からの質問に答えながら講義を行った。学生時代のエピソードや学芸員になるまでの経緯、仕事をする上での価値観など、内容は多岐にわたった。

アトリエから中継した奥谷博との対話では、長年の制作活動から感じたことや、海外での豊富な体験などが語られた。愛用している筆を詳しく説明する場面もあり、生徒たちの関心に応える研修となった。



図2. 奥谷博のアトリエの中継の様子



図3. 銅駝美術高校との中継の様子

【4日目】

9：05 すごろく制作

12：50 現状まとめ→提出 午前の部終了

14：30 クラス内発表（9チーム×5分）

16：00 次回の説明

最後に当館から総評と入賞3チームを発表した。

当初は、学校から9つのすごろくについて上位3作品の順位付けを依頼されていたが、リモート中継を通じて熱心に取り組む姿勢を見て、順位はつけがなくなり、普及課長の提案により造形賞、企画賞、アイデア賞の3賞を設けた。



図4. すごろく制作



図5. すごろく試遊

る。将来について無限の可能性を感じられるように多種多様な職業を考えた。オリジナルキャラクターを作り、より楽しめるように工夫した。

「名画になったぼくの人生」(H班)【アイデア賞】

作品が主人公になり、絵画の気持ちをコミカルに表現している。皆に愛される名画になるまでのストーリー性のあるすごろくを作成した。

これらの入賞作品以外にも、人生の多様な捉え方やユニークな発想が多く認められた。その一部を以下に紹介する。

- ・先生方のエピソードを盛り込み、リアリティを追求した。困難を乗り越え、夢に向かって踏み出す。美術に興味のある人だけではなく、いろんな人に遊んでもらいたい。(B班)
- ・ひとりの人間の美術的人生を追ったドキュメンタリーめすごろくを制作した。様々な人間ドラマがあり、1コマ1コマ楽しくプレイできるようになっている。(D班)
- ・画家を目指すおじさんが、宇宙人と出会い、世界ツアーをして宇宙へはばたく、現実・非現実ミックス人生ゲームを制作した。(G班)

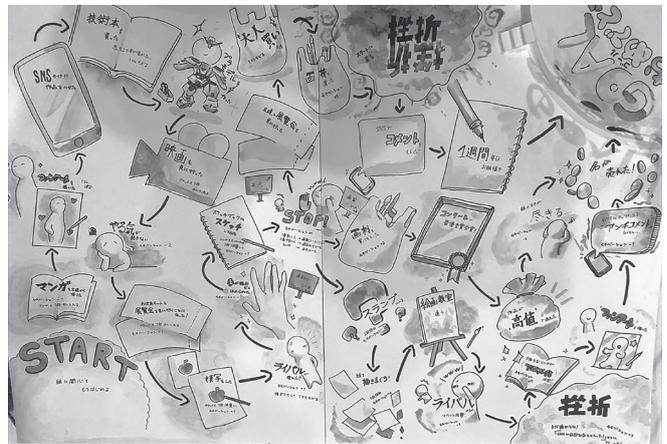


図6. すごろく完成作品(造形賞)

【5日目】

学年発表会

1組は、森美術館とダンスカンパニー「んまつーポス」により、「身体表現による鑑賞」をテーマに研修を実施した。発表では、生徒が作成したショートムービーやメタバースの画像を鑑賞した。

2組は、水戸芸術館現代美術センターの芸術監督による研修を実施し、「社会と美術館」をテーマに学んだ内容を発表した。美術家・きむらとしろうじんの「妄想屋台」に基づいて制作したドローイングも紹介した。

3組は、神奈川県立近代美術館学芸員や画家・奥谷 博との対話を参考に、美術に関わる人生をシミュレーションする9つの「美術的人生すごろく」の内、受賞3チームが、それぞれのすごろくについて発表した。

3. 作品とアンケートについて

3-1. 「美術的人生すごろく」が発信するメッセージ

3組の受賞3チームの「美術的人生すごろく」の発表は次の通りである。

「気持ちで体験！美術的日常生活すごろく」(C班)【造形賞】

ゴールが終わりではなく通過点であるというメッセージや、誰もが主人公と感ずることができるすごろくを作成した。水彩絵の具の透明度で気持ちを表現し、立体感を出し、視覚的に楽しいすごろくになるように工夫した。

「進路発見！キャリアアップすごろく」(F班)【企画賞】

スタート地点とゴール地点で同じ問いかけをすることにより、自分の将来について考えることができる仕掛けをしてい

3-2. ふりかえりレポートのまとめ

研修後に生徒が作成したふりかえりレポートから生徒の声を紹介する。

【学芸員の話から感じたこと、考えたこと、より深く知りたことなど】

- ・リアルな仕事の話を知ることができた。学生時代の話や、自分のやりたいことのためにどう動いたらよいかなど様々な学びを得ることができ、将来の選択肢がさらに広がった。
- ・学生時代の研究の話がとても興味を持って聞くことができた。自分の調べたいことを追求する姿がとてもカッコよかった。
- ・今回、「人の人生に普通なんてない」「自分の人生には無限の可能性がある」と感じた。
- ・作品が美術館に展示されるまでには、たくさんの人との関わりや技術が不可欠なのだと思う。
- ・自分で修復の道具を手作りして一番良いものにしようとしていることを知り、最低限ではなく、完璧を目指すことを人生の目標にしようと思った。
- ・「アートを学ぶのではなく、アートによって学ぶ」という視点が面白いと感じた。「お互いの良さや違いを求め合う」ことを重視していてアートの力を感じられると思った。
- ・色々な人に美術を感じてもらうために、障がい者の方々にもなんとか伝えようという工夫がいいなと思い、相手の事もしっかりと考えることを忘れずにしたいと感じた。

【作家の話から感じたこと、考えたこと、より深く知りたいことなど】

- ・話がとても面白く、時間があっという間に感じた。奥谷先生は美術を本当に愛しておられるのだと感じた。
- ・制作の裏側やちょっと笑えるエピソード、経験の大切さ、画家としての生き方をたくさん学んだ。
- ・美術に一番大切なことは、才能や技術よりも経験であり、経験や思い出が作品制作に役立つのだと思った。
- ・「やったことは全て自分のためになる」という言葉が一番心に刺さった。
- ・現代ではなかなか出来できない話を聞いてワクワクした。感受性が豊かなうちに色々なところへ行きたい。
- ・どんな物事にも人生にとって役割や理由があることを感じた。自分の目標を達成させるには忍耐が必要なことを学んだ。
- ・私の人生はまだまだこれからなので、いやなことあきらめずに将来の自分のため頑張ろうと思った。
- ・何事にも興味を持ってやってみるといいとおっしゃっていたので、積極的に挑戦したいと思う。

【すごろく制作に取り組んで感じたこと、考えたことなど】

- ・美術的視点で設定し創作したことが面白かった。
- ・自分達で調べたり、講師の先生方のエピソードを取り入れられることがあり、自分達のためになったと思う。
- ・自分の悩みをもとに制作してみて、面白いものになった。
- ・生きていく中で挫折などもあるが、その先に良いことがきつとあることを感じてほしいと思った。
- ・自分の進路を考え、人生の理想像を思い直す良い機会だった。もっと知見を広げ、この活動での学びを活かしたい。
- ・すごろくはクオリティの高い自信のある作品ができた。
- ・自分を過小評価しがちだったが、自分に誇りと自信を持ってどうやって改善するかを考えることが大切なのだと感じた。アイデアを評価していただき嬉しかった。
- ・コロナの影響でグループワークが減っていたが、今回の「人生すごろく」制作でみんなとイベントができて楽しく、嬉しかった。
- ・班のメンバーで試行錯誤して作ったすごろくが賞をもらうことができてよかった。こだわった部分や工夫した部分がたくさんあって他の班にない良いものができた。
- ・他の班の発表も面白く、発想がとても参考になった。
- ・どの班もオリジナリティがあり、同じお題でも同じものはなく、自分にはない考え方を知ることができた。
- ・改めて美術というものを考えた。美術とともに生きていく形のあり方は様々で、どの在り方でもその人の心を豊かにすることができるし、社会においてもそれぞれ違う角度から貢献することができると思った。

【あなたにとって「アートの力」とはなんですか。】

- ・つくる人も見る人も精神的に何かしらの刺激を与える力。
- ・人生における武器であり、強み。将来の選択肢の幅が広がる。自分の世界観や考え、能力を示すもの。
- ・自分の心の中や、言葉では表しにくい気持ちを表現するもの。
- ・知らなかった世界に出会える機会を与えてくれるもの。
- ・国境を超えて人と人を繋ぐ力。架け橋。言葉や人種に関係なく、つながりあい、心を通わせ、互いを豊かにする手段である。

- ・気持ちを代弁してくれるもの。障がい者や人種に関係なく、様々なものが表現できる。
- ・他の人の感情を作品から読み取ることができるもの。
- ・人の感情を動かしたり、幸せを感じさせてくれる力。
- ・アートは人間の想像力、表現力を最大限に引き出すことができると思う。すべてはアートに還元されるのだと思う。人の可能性をより広めてくれる大きな力だと思う。
- ・人々を勇気づけるもの、人々が関わり合ったり、アートを使って被災地を応援したりすることができる。
- ・自分も行動を起こしたくなる影響力、伝染力がある力。誰もが楽しめる力。

4. まとめ

ここで再び、銅駝美術高校から提示された学習の目的を振り返りたい。

- ①美術館やギャラリー、オルタナティブスペース等での作品鑑賞
- ②アーティストやクリエイター、異分野・他領域の人との対話、協働活動
- ③グローバルとローカルの両方の視点を盛り込んだ活動
- ④リモートワークを取り入れた、インタラクティブな学び

3回のオンライン研修は、学校と奥谷博のアトリエ、美術館をインターネットで繋ぎ、高校生と作家や学芸員との対話によるインタラクティブな学びを実現できた。また、その内容は、異分野・他領域の人との対話、協働活動、地域から世界に及ぶ幅広い内容であり、当初提示された学習の目的は十分に達成できたと言える。

一方、生徒によるふりかえりレポートでは、「今回の研修は、自分の人生について考える良い機会となった」「選択肢が広がった」と記入した生徒が多く見受けられた。また、「自分の人生には無限の可能性がある」「自分を過小評価しがちだったが、自分に誇りと自信を持ってどうやって改善するかを考えることが大切なのだと感じた」といった前向きなコメントも多く見受けられた。このことから、高校生と、作家、学芸員をつなぐ対話の時間は、物事の見方や考え方を広げ、新しい価値をつくる創造的で多様な学びであったことが窺える。

また、ワークショップ「美術的人生すごろく」では、生徒個人の表現力、想像力を活かしつつ、人と人とのつながりや相互理解、多様性を受け入れることに繋がったと考えられる。こうした「アートによる学び」で涵養される感性や創造性こそ、一人一人が豊かな人生を送るうえで大切なのではないだろうか。

今回の学校と美術館との協働、連携を通じて、美術館は、収蔵作品のみならず、作家の方々や美術館を取り巻く人々を含め教育資源が豊富であることや、現代の多様化する教育のニーズに十分対応できることを再認識する機会となった。

美術館は開かれた学びの場として、豊富な教育資源が有効に活用され、「アートによる学び」が広く一般に普及することを願っている。

参考文献

- ・京都市立銅駝美術工芸高等学校 学校紹介冊子平成31年度版
- ・坂本紹一「共生の時間の誕生から変遷、そしてこれから」『千葉大学教育学部附属中学校研究紀要』2014年3月

作品蒐集管理活動

2021(令和3)年度 購入・寄贈状況 2022(令和4年)年3月31日

現在

(作品)	
購入件数	3件
新規寄贈件数	451件
管理替件数	16件
収蔵総件数	15,685件

(資料)

新規寄贈件数	29件
--------	-----

2021(令和3)年度 寄託状況 2022(令和4年)年3月31日現在

(作品・資料)

寄託総件数	1,093件
-------	--------

2021(令和3)年度 新収蔵作品一覧

[凡例]

- ・寸法の単位はcmである。イメージ寸法と支持体寸法および変更がある場合の制作年と発行年は「/」で区切り記載した。
- ・署名年記は、書込みの位置を示して記した。・■は判読不能/困難文字を示す。
- ・表/裏両面に描かれている場合、タイトル、寸法、書名は「//」で区切って記載した。

購入

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
油彩画・アクリル画など								
岡崎未来	空と線 IX	2021	木炭、水干絵具、白麻紙、パネル	130.0	162.0			第56回神奈川県美術展
進藤裕代	大地 II	2010	油絵具、カンヴァス	162.0	161.9		yasuyo shindo	第59回神奈川県女流美術家協会展
彫刻・インスタレーション								
若林 奮	不詳	1960年代	陶	5.7	5.9	25.2		

管理替え

油彩画・アクリル画など								
諏訪直樹	PH-11-8603	不詳	アクリル絵具、綿布	135.0	135.0			
中上 清	無題	1988	アクリル絵具、カンヴァス	191.0	90.5			
田中 岑	朝、そして僕は	1976-1980	油絵具、カンヴァス	72.8	53.2			
難波田龍起	灰色の街	1981	油絵具、カンヴァス	116.6	90.8			
日本画								
近藤弘明	白光	1982	紙本着彩	64.0	49.0			
版画(日本)								
諏訪直樹	湖山の記憶	不詳	リトグラフ、シルクスクリーン、紙	54.2	72.2			
宮脇愛子	UTSUROHI 86A	1986	シルクスクリーン、紙	33.0/45.5	44.5/58.0		右下:Aiko、左下:16/20	
宮脇愛子	UTSUROHI 86B	1986	シルクスクリーン、紙	33.0/45.5	44.6/58.0		右下:Aiko、左下:16/20	
宮脇愛子	UTSUROHI 86C	1986	シルクスクリーン、紙	33.0/45.5	44.6/58.0		右下:Aiko、左下:16/20	
宮脇愛子	UTSUROHI 86D	1986	シルクスクリーン、紙	39.7/50.0	55.5/65.0		右下:Aiko、左下:16/20	
宮脇愛子	UTSUROHI 86E	1986	シルクスクリーン、紙	39.7/50.0	55.0/65.0		右下:Aiko、左下:16/20	
斎藤 清	月雲(1)	1980	木版、紙	44.5/54.0	75.5/82.5			
深沢幸雄	酒場にて	1983	メゾチント、紙	36.5	69.0			
深沢幸雄	陸橋の上をゆく人	1984	メゾチント、紙	49.7	36.4			
彫刻・インスタレーション								
掛井五郎	トックリセーター	不詳	ブロンズ	44.0	18.0	7.0		
橋本正司	'87-10-B	1987	ブロンズ	55.0	48.0	43.0		

寄贈

<青木 茂氏寄贈>

素描・水彩画など

木村荘八	『大同石佛寺』表紙原画	1920	墨、紙	28.5	40.0		右下：大正十一年発行／中：大同石佛寺 木下李太郎 木村荘八／左：日本美術学院版	
木村荘八	『大同石佛寺』表紙案原画	1920	水彩、鉛筆、紙	26.7	37.3		左：大正十一年・春 右：日本美術学院版／中央：大同石佛寺・木下李太郎 木村荘八	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
木村荘八	『大同石佛寺』「第21圖 東華樓第二室」原画	1920	水彩、インク、紙(厚紙に貼り込み)	22.5	13.8		上:第二室(寢室)	
木村荘八	『大同石佛寺』「第20圖 (通信帖の一頁)」原画	1920	水彩、インク、厚紙	21.4	15.1		中下:第一室	
木村荘八	『大同石佛寺』「第120圖 途中風景(一)」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	9.2	13.2			
木村荘八	『大同石佛寺』「第122圖 燭臺」原画	1920	水彩、紙	18.4	6.7			
木村荘八	『大同石佛寺』「第124圖 途中風景(二)」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	8.5	14.0			
木村荘八	『大同石佛寺』「第125圖 石佛寺東客殿(一)」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	16.0	19.6			
木村荘八	『大同石佛寺』「第126圖 東客殿(第二室寢室)」原画	1920	水彩、紙	22.5	17.6			
木村荘八	『大同石佛寺』「第145圖 白玉堂肖像」原画	1920	墨、紙(厚紙に貼り込み)	18.3	11.8		右上:白玉堂 台紙左下:1 右下:145図	
木村荘八	『大同石佛寺』「第158圖 石窟分布見取圖」原画	1920	水彩、紙	17.9	26.8		台紙左下:8	
木村荘八	『大同石佛寺』「第175圖 第一窟アーチ見取圖」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	14.1	22.4			
木村荘八	『大同石佛寺』「第176圖 裝飾窟模様」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	17.4	14.1			
木村荘八	『大同石佛寺』「第177圖 裝飾窟模様」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	22.7	14.2			
木村荘八	『大同石佛寺』「第178圖 塔の一」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	22.5	14.1			
木村荘八	『大同石佛寺』「第180圖 供養人物」原画	1920	水彩、インク、紙	18.4	26.7			
木村荘八	『大同石佛寺』「第181圖 音楽する天使」原画	1920	鉛筆、紙	14.2	22.6			
木村荘八	『大同石佛寺』「第182圖 音楽する天使」原画	1920	鉛筆、紙	22.6	14.1		台紙右下:152	
木村荘八	『大同石佛寺』「第187圖 通信原稿の一頁」原画	1920	水彩、インク、紙	30.7	11.2			その煙草とジャムの罐を机上に(仕事から帰つて来て)見た時には全くうれしかつが。こんな心持も亦無い経験だ。かういふ煙草だ。チェンメン、即ち北京の前門、英國製である。うまくはない。五十本入り。ジャムは巖好(非常にいい)のアンズ製が来て思はずマンヂウ一つ食ひすぎた。
木村荘八	『大同石佛寺』「第203圖 釋迦傳見取圖」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	22.8	18.3			
木村荘八	『大同石佛寺』「第203圖 釋迦傳見取圖 弓技圖」原画	1920	水彩、紙	18.5	26.6		左下:大正九年九月十五日、木村荘八 光と写生帖と一緒に持ち写す。	
木村荘八	『大同石佛寺』「第204圖 釋迦傳見取圖 後宮嬉遊圖」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	18.4	26.7		右上:La vie de plaisirs dans le gynécée	
木村荘八	『大同石佛寺』「第206圖 第二窟の塔柱南側脇侍、左側のもの」原画	1920	鉛筆、紙	32.9	24.3		左下:九月26日 古寺祭壇下部/左方アーチ人物	
木村荘八	『大同石佛寺』「第207圖 第三窟内・佛像寫生」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	22.4	14.2		左下:九月二十■日	
木村荘八	『大同石佛寺』「第209圖 東端第一窟の像・西面のものの寫生」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	22.3	14.2			
木村荘八	『大同石佛寺』「第211圖 西方諸窟造像の一」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	14.2	22.3			
木村荘八	『大同石佛寺』「第212圖 西方諸窟造像の二」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	22.1	14.2			
木村荘八	『大同石佛寺』「第216圖 飛天諸形(2)」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	22.5	14.2			
木村荘八	『大同石佛寺』「第216圖 飛天諸形(3)」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	22.6	14.2		右下:九月十六日	
木村荘八	『大同石佛寺』「第217圖 龕わく、及び飛天(一)」原画	1920	鉛筆、水彩、紙	24.2	33.0		下:九月二十二日 中央下:西方窟	
木村荘八	『大同石佛寺』「第217圖 龕わく、及び飛天(二)」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	10.9	15.8			
木村荘八	『大同石佛寺』「第217圖 龕わく、及び飛天(三)」原画	1920	鉛筆、紙	17.5	12.2			
木村荘八	『大同石佛寺』「第217圖 龕わく、及び飛天(四)」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	20.9	18.5		台紙左下:3	
木村荘八	『大同石佛寺』「第218圖 浮彫模様等(1)」原画	1920	水彩、紙	18.5	27.0			
木村荘八	『大同石佛寺』「第218圖 浮彫模様等(2)」原画	1920	鉛筆、紙	25.1	18.4			
木村荘八	『大同石佛寺』「第218圖 浮彫模様等(3)」原画	1920	鉛筆、紙	5.8	11.1			
木村荘八	『大同石佛寺』「第218圖 浮彫模様等(4)」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	19.5	14.2		右下:九月二十■日	
木村荘八	『大同石佛寺』「第221圖 雲崗風景の一」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	14.1	22.6		中下:西部崖中央 九月十■日	
木村荘八	『大同石佛寺』「第222圖 雲崗風景の二」原画(右)	1920	水彩、鉛筆、紙	14.3	22.6		中上:大同雲崗石佛窟山西■	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
木村荘八	『大同石佛寺』「第222圖 雲崗風景」原画(左)	1920	水彩、鉛筆、紙	14.2	22.5		左上:九年九月十日	
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 窟見取圖」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	12.3	17.7			
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 窟見取圖」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	12.3	17.8		左上:中央部	
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 窟見取圖」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	12.2	18.5			
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 窟見取圖」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	12.5	17.8		右上:木村荘八	
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 窟見取圖」原画	1920	鉛筆、水彩、紙	12.2	18.6			
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 窟見取圖」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	12.4	17.7			
木村荘八	『大同石佛寺』「第226圖 所見・四圖」原画(1)	1920	水彩、紙	31.8	21.4		右:東端の景/大正九年九月十七日午後、石佛古寺より東方を見る/左下:(一)	
木村荘八	『大同石佛寺』「第226圖 所見・四圖」原画(2)	1920	水彩、インク、紙	31.5	21.5		右下:(二)	
木村荘八	『大同石佛寺』「第226圖 所見・四圖」原画(3)	1920	水彩、インク、紙	31.6	21.5		右下:(三)	
木村荘八	『大同石佛寺』「第226圖 所見・四圖」原画(4)	1920	水彩、インク、紙	31.5	21.4		左下:木村荘八写 左中:山*の窟石佛古寺より裏手谷写/右下:(四)	
木村荘八	『大同石佛寺』「第227圖 大同風物散見四圖」原画	1920	水彩、紙	31.7	21.4		中:木村荘八写 右上:大同風物散見/中:木村荘八写/右下:旅の写生帖より/左西方崖所見/馬場東端	
木村荘八	『大同石佛寺』「第227圖 大同風物散見四圖」原画	1920	水彩、紙	31.5	21.4		左下:大正九年秋 左上:馬場の両端/左下:於大同雲崗石佛寺	
木村荘八	『大同石佛寺』「第228圖 大同風物散見(1)」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	14.1	20.1		中下:九月	
木村荘八	『大同石佛寺』「第228圖 大同風物散見(2)」原画	1920	鉛筆、紙	14.1	12.6			
木村荘八	『大同石佛寺』「第228圖 大同風物散見(3)」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	14.1	22.4		左上:かくの如き石塊Fの辺りに散在す	
木村荘八	『大同石佛寺』「第228圖 大同風物散見(4)」原画	1920	水彩、鉛筆、紙	14.2	22.5		右下:チュー	
木村荘八	『大同石佛寺』(2)[雲崗]	1920	鉛筆、紙	20.0	14.0		中下:221×1920 ■雲崗/台紙左下:2	
木村荘八	『大同石佛寺』(9) [飛天]	1920	インク、鉛筆、紙	19.8	15.4			
木村荘八	『大同石佛寺』(10)[音楽する天使]	1920	インク、鉛筆、紙	16.5	10.4			
木村荘八	『大同石佛寺』(11)[音楽する天使]	1920	インク、鉛筆、紙	9.5	15.8			
木村荘八	『大同石佛寺』(14) [大正九年九月十五日頃より]	1920	インク、鉛筆、紙	13.7	18.8			
木村荘八	『大同石佛寺』(51) [大正九年十月十五日 山西省大原 天龍山西方崖 西端石崖 天井飛天]	1920	インク、紙	13.7	19.2		右上:大正九年十月十五日 山西省大原 天龍山西方崖 西端石崖 天井飛天	
木村荘八	「東方窟洞内部」原画	1920	鉛筆、紙	12.5	18.6		右上:右崖上部窟正面	
木村荘八	[紫陽花]	1942	水彩、インク、鉛筆、紙	25.4	34.2			
木村荘八	床の間の棚	不詳	水彩、インク、鉛筆、紙	25.2	33.1			
木村荘八	[ナイフとフォーク]	不詳	鉛筆、紙	24.3	28.8		右下:木	
木村荘八	[電話をかける人]	不詳	鉛筆、紙	24.2	28.7			
木村荘八	[かがむ女性]	不詳	鉛筆、紙	24.0	28.8			
木村荘八	挿絵原画草稿[和装の女性]	不詳	インク、紙	24.3	31.6			
木村荘八	[国周画木村写]	不詳	インク、紙	13.8	9.6		日本橋のおかめか毛糸の上っぱりを着たのは 近年の藝妓風俗の先駆だつた 明治三年国周画木村写	
版画(日本)								
赤松麟作	大阪城 版画集『大阪三十六景』より	1947	木版、紙	22.5/28.7	30.0/39.6		左下:大阪城 麟作	
赤松麟作	浪花ぼし 版画集『大阪三十六景』より	1947	木版、紙	22.5/28.7	30.0/39.6		左下:浪花ぼし 麟作	
赤松麟作	天神ぼし 版画集『大阪三十六景』より	1947	木版、紙	22.5/28.7	30.0/39.6		右下:天神ぼし 麟作	
赤松麟作	御堂筋 版画集『大阪三十六景』より	1947	木版、紙	22.5/28.7	30.0/39.6		右下:御堂筋 麟作	
赤松麟作	住吉神社 版画集『大阪三十六景』より	1947	木版、紙	22.5/28.7	30.0/39.6		左下:住吉神社 麟作	
赤松麟作	天王寺 版画集『大阪三十六景』より	1947	木版、紙	22.5/28.7	30.0/39.6		右下:天王寺 麟作	
赤松麟作	川口 版画集『大阪三十六景』より	1947	木版、紙	22.5/28.7	30.0/39.6		右下:川口 麟作	
赤松麟作	高津神社 版画集『大阪三十六景』より	1947	木版、紙	22.5/28.7	30.0/39.6		左下:高津神社 麟作	
赤松麟作	動物園 版画集『大阪三十六景』より	1947	木版、紙	22.5/28.7	30.0/39.6		右下:動物園 麟作	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
赤松麟作	大正橋 版画集『大阪三十六景』より	1947	木版、紙	22.5/28.7	30.0/39.6		右下:大正橋 麟作	
〈栗田政裕氏寄贈〉								
版画(日本)								
栗田政裕	『イマジオ&ボエティカ』第56号	2021	木口木版、紙	21.8	18.1			刊:ボックスウッドクリエーション、限定99部うち36。発行日:2021年8月。
〈ホセイン・ゴルバ氏寄贈〉								
素描・水彩画など								
ゴルバ,ホセイン	孤独	1984-1985	インク、紙	21.4	13.4			18点組
ゴルバ,ホセイン	マルティーナと火と剣	1985	インク、紙	20.9	13.5			30点組
ゴルバ,ホセイン	セックスは花のようだ	1985	インク、紙	20.7	14.7			30点組
彫刻・インスタレーション								
ゴルバ,ホセイン	「時間の彫刻」のプロジェクト	1991	木材、フレスコ用の下地材、テンペラ、銅板	60.0	70.0	8.2	裏面:1991 H.GOLBA	
ゴルバ,ホセイン	接ぎ木一見知らぬ日本兵の友人へ	2015	紙、インク、布	14.5; 29.5	9.5; 23.5	6.2; 10.3		
〈佐藤瑠璃氏寄贈〉								
日本画								
吉田克朗	Work	1990	胡粉、金泥、黒鉛、墨、紙	L) 160.3; R) 160.3	L) 177.0; R) 177.0		左隻左下:克 右隻右下:克	二曲一双
〈島田久子氏寄贈〉								
日本画								
長谷川路可	[瀬戸内風景]	1934	絹本着彩、パネル装	111.8	105.0			
〈下川 勝氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
下川 勝	遊歩行ノートより一みかも-I	2013	ブロンズ	19.2	21.6	21.0	底面:Masaru	
下川 勝	遊歩行ノートより一みかも-II	2013	ブロンズ	6.9	71.0	29.8	底面:Masaru	
〈鷲見和紀郎氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
鷲見和紀郎	EVIDENCE	2006	ブロンズ、蛍光管、コンクリート、真鍮	L) 189.0; R) 195.2	L) 40.0; R) 35.5	L) 31.0; R) 35.5		左右(L, R)2点組
〈田中まさ江氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
田中惟之	ヨットハーバー	1989	油絵具、カンヴァス	130.3	193.9			
〈中尾太郎氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
中尾 誠	ヒトはひと I	1964	油絵具、カンヴァス	65.2	91.0			
中尾 誠	鎌倉風景	1973	油絵具、カンヴァス	73.0	91.1			
中尾 誠	隔たりの消息「僕らはそれを晩に飲む」 パウル・ツェランに	1995	油絵具、カンヴァス	162.0	112.3			
中尾 誠	隔たりの消息「夜明けの黒いミルク」 パウル・ツェランへ	1995	油絵具、カンヴァス	162.1	112.1			
中尾 誠	皮膚に	2005	油絵具、カンヴァス	97.2	130.4			
中尾 誠	皮膚に	2015	油絵具、カンヴァス	60.8	72.8			
中尾 誠	皮膚に	2015	油絵具、カンヴァス	60.8	72.8			
〈中村弭子氏寄贈〉								
版画(日本)								
上條陽子	玄黄	1987	リノカット、紙	43.5/56.0	49.8/62.5		右下:陽87 中下:玄黄	
〈野見山暁治氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
野見山暁治	山のものと	2010	油絵具、カンヴァス	91.4	117.0			
野見山暁治	知らない景色	2012-2018	油絵具、カンヴァス	145.5	112.0			
〈濱 素紀氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
若林 奮	不詳[銅板(10枚)のオブジェ]	1960年代	銅板	3.5	3.0	1.9		
若林 奮	[ペーパーナイフ(飾り付)]	1960年代	木、金属	19.5; 5.0	2.7; 3.7	0.7; 0.7	飾り裏面:若	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
〈堀内冬彦氏寄贈〉								
版画(日本)								
堀内正和	咬みあう二つの形	1977	シルクスクリーン、紙	38.0	48.4		下左:A.P. 下右:Horiuti	
堀内正和	三つの矩形	1977	シルクスクリーン、紙	38.2	48.3		下左:A.P. 下右:Horiuti	
堀内正和	coup dedé	1991	版画、紙	43.0	60.2		下左:AP 下右:Horiuti '91	
堀内正和	三つの矩形	不詳	シルクスクリーン、紙	37.9	46.3			
スケッチブック								
堀内正和	スケッチブック(1)	1960年代	紙(スケッチブック)	31.4	25.0			
堀内正和	スケッチブック(2)	1960年代	紙(スケッチブック)	25.0	21.0			
堀内正和	スケッチブック(3)	不詳	紙(スケッチブック)	41.5	29.8			
堀内正和	スケッチブック(4)(西洋美術史概説／現代美術講義…)	不詳	紙	27.8	19.5			
堀内正和	スケッチブック(5)	不詳	紙(スケッチブック)	31.5	24.7			
堀内正和	スケッチブック(6)	不詳	紙(スケッチブック)	36.8	28.5			
堀内正和	スケッチブック(7)	不詳	紙(スケッチブック)	21.7	25.0			
堀内正和	スケッチブック(8)(初期デッサン)	不詳	紙(スケッチブック)	25.2	19.0			
堀内正和	スケッチブック(9)	不詳	紙(スケッチブック)	26.2	19.3			
堀内正和	スケッチブック(10)	不詳	紙(スケッチブック)	21.5	25.0			
堀内正和	スケッチブック(11)	不詳	紙(スケッチブック)	21.2	25.3			
堀内正和	スケッチブック(12)	不詳	紙(スケッチブック)	21.5	25.2			
堀内正和	スケッチブック(13)	不詳	紙(スケッチブック)	21.6	25.1			
堀内正和	スケッチブック(14)	不詳	紙(スケッチブック)	21.7	25.3			
堀内正和	スケッチブック(15)	不詳	紙(スケッチブック)	36.0	26.3			
堀内正和	スケッチブック(16)	不詳	紙(スケッチブック)	25.5	36.5			
堀内正和	デッサンノート(1)(1966-)	1966-	紙(大学ノート)	25.2	17.8			
堀内正和	デッサンノート(2)	1960年代	紙、紙テープ	25.1	18.8			
堀内正和	デッサンノート(3)(Eバラ組・38点)	1960年代	紙(計算用紙)	25.2	17.7			
堀内正和	デッサンノート(4)(1969-1973)	1969-1973	紙(ペーパーパッド)	26.3	19.8			
堀内正和	デッサンノート(5)	不詳	紙(大学ノート)	21.0	14.8			
堀内正和	デッサンノート(6)(いたざら書き)	不詳	紙(計算用紙)	25.2	17.7			
堀内正和	デッサンノート(7)	不詳	紙(計算用紙)	25.1	17.6			
堀内正和	デッサンノート(8)(発想の原点)	不詳	紙(計算用紙)	25.1	17.6			
堀内正和	デッサンノート(9)(25点)	不詳	紙(計算用紙)、紙テープ	25.1	17.6			
堀内正和	デッサンノート(10)(原稿デッサン)	不詳	紙(計算用紙)	25.2	17.7			
堀内正和	デッサンノート(11)	不詳	紙(計算用紙)	26.3	19.5			
堀内正和	デッサンノート(12)	不詳	紙(ペーパーパッド)	29.0	21.5			
堀内正和	デッサンノート(13)(19点)	不詳	紙(計算用紙)	25.5	18.4			
堀内正和	デッサンノート(14)(デッサン帳・43点)	不詳	紙(計算用紙)	25.9	18.0			
堀内正和	デッサンノート(15)(バラ組・A20点)	不詳	紙(ペーパーパッド)	28.5	21.5			
素描・水彩画など								
堀内正和	慶州石窟庵内周壁半肉彫像 1-3	十大弟子 1940年代	墨、紙	25.5	36.7		上左:慶州石窟庵内周壁半肉彫像	
堀内正和	慶州石窟庵内周壁半肉彫像 4-7	十大弟子 1940年代	墨、紙	25.5	36.7			
堀内正和	慶州石窟庵内周壁半肉彫像 8-10	十大弟子 1940年代	墨、紙	25.5	36.7			
堀内正和	[未来派風の家]	1940年代	墨、色紙	27.0	24.0			
堀内正和	釣り人	1940年代	墨、色紙	27.0	24.0		下右:正和 印「味」	
堀内正和	馬上人物	1940年代	墨、岩絵具、色紙	27.0	24.0		下右:印「和」 上右:印 ■せを／馬に寝て／残夢月 遠し／茶のけむり	
堀内正和	馬上人物	1940年代	墨、鉛筆、紙	24.8	27.8		下右:昭和戊子新■試案／ 堀之内■	
堀内正和	椿	1940年代	墨、色紙	27.0	24.0		下左:正和 印「和」	
堀内正和	船頭	1940年代	墨、色紙	27.0	24.0		下左:正和 印「和」	
堀内正和	杵と臼	1940年代	墨、紙	18.3	25.7		下右:印「和」	
堀内正和	鶏と杵と臼	1940年代	墨、紙	25.7	36.8		下右印「蘇」	
堀内正和	鶏	1940年代	墨、紙	26.0	36.8			
堀内正和	風景、蓮	1940年代	墨、紙	29.5	41.3		下右:做慈大■／和山人寫 印「正和」	
堀内正和	風景、山	1940年代	墨、紙	30.5	42.5		下右:和山人寫 印「正和」	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
堀内正和	川、苔	1940年代	墨、紙	29.3	24.7		下左:和山人寫	
堀内正和	松	1940年代	墨、紙	41.4	35.8		下右:倣襲賢/和道人寫	印
堀内正和	竹林、橋	1940年代	墨、紙	21.0	29.5		下左:倣■■■■/和山人寫	
堀内正和	船頭と岸	1940年代	墨、紙	24.0	33.0			
堀内正和	橋、樹々	1940年代	墨、紙	33.0	24.0			
堀内正和	家、雑木林	1940年代	墨、紙	23.8	32.8			
堀内正和	山、家々、樹々	1940年代	墨、紙	32.8	23.9			
堀内正和	岩、松	1940年代	墨、紙	24.0	33.0			
堀内正和	岩、木々	1940年代	墨、紙	33.0	24.0			
堀内正和	梅の花	1940年代	鉛筆、紙	36.7	25.8			
堀内正和	ヤブコウジ	1940年代	鉛筆、紙	25.0	18.0			
堀内正和	ピワ	1940年代	鉛筆、紙	25.7	36.8			
堀内正和	カボチャ	1940年代	水彩絵具、鉛筆、紙	25.7	36.8			
堀内正和	花	1940年代	鉛筆、水彩絵具、紙	36.8	25.7			
堀内正和	アザミ	1940年代	鉛筆、紙	36.8	25.7			
堀内正和	あやとり	1940年代	鉛筆、紙	25.7	36.8			
堀内正和	山	1940年代	鉛筆、紙	36.3	26.5			
堀内正和	かやぶき屋根の家	1940年代	鉛筆、紙	21.0	30.0			
堀内正和	山	1940年代	鉛筆、紙	17.8	25.0			
堀内正和	馬小屋	1940年代	鉛筆、紙	36.8	25.9			
堀内正和	寺	1940年代	鉛筆、紙	25.7	36.8			
堀内正和	山	1940年代	鉛筆、紙	36.8	25.9			
堀内正和	木	1940年代	鉛筆、紙	34.0	27.6			
堀内正和	花	1940年代	鉛筆、紙	29.5	21.0			
堀内正和	小屋、顔など	1940年代	鉛筆、紙	26.9	45.0			
堀内正和	牡丹	1940年代	鉛筆、紙	37.0	26.0			
堀内正和	花	1940年代	鉛筆、紙	25.7	36.5			
堀内正和	牡丹	1940年代	鉛筆、紙	36.8	26.0			
堀内正和	梅	1940年代	鉛筆、紙	36.8	25.8			
堀内正和	椿	1940年代	鉛筆、紙	36.8	26.0			
堀内正和	馬	1940年代	鉛筆、紙	25.7	36.9			
堀内正和	木	1940年代	鉛筆、紙	36.9	25.7			
堀内正和	梅	1940年代	鉛筆、紙	25.7	36.7			
堀内正和	アイリス	1940年代	鉛筆、紙	36.7	25.7			
堀内正和	山村	1940年代	鉛筆、紙	36.7	25.8			
堀内正和	梅	1940年代	鉛筆、紙	36.8	25.8			
堀内正和	木	1940年代	鉛筆、紙	25.7	36.8			
堀内正和	寺	1940年代	鉛筆、紙	25.7	36.8		下右:和山人寫	
堀内正和	自画像	1940年代	鉛筆、紙	27.5	26.0			
堀内正和	自画像	1940年代	鉛筆、紙	27.7	24.1			
堀内正和	子どもの横顔他	1940年代	水彩絵具、鉛筆、紙	36.6	25.7			
堀内正和	赤ん坊	1940年代	鉛筆、紙	36.7	25.7			
堀内正和	子どもの顔	1940年代	鉛筆、紙	36.5	27.0			
堀内正和	母子	1940年代	鉛筆、色鉛筆、紙	36.8	25.7			
堀内正和	乳飲み子	1940年代	鉛筆、紙	18.4	21.5			
堀内正和	子どもの顔	1940年代	鉛筆、紙	21.0	30.3			
堀内正和	女の子	1940年代	鉛筆、色鉛筆、紙	25.2	20.8			
堀内正和	老人の顔	1940年代	鉛筆、紙	36.7	25.8			
堀内正和	裸体	1940年代	鉛筆、紙	36.5	25.8			
堀内正和	背中	1940年代	鉛筆、紙	25.3	17.8			
堀内正和	背中	1940年代	鉛筆、紙	25.3	17.8			
堀内正和	裸婦	1940年代	鉛筆、紙	25.3	17.8			
堀内正和	裸婦3体	1940年代	鉛筆、紙	25.3	17.8			
堀内正和	足組む裸婦//座る裸婦	1940年代	鉛筆、紙	25.3	17.7			
堀内正和	裸婦	1940年代	鉛筆、紙	25.9	18.2		下右:horioti	
堀内正和	裸婦//裸婦	1940年代	鉛筆、紙	25.3	17.8			
堀内正和	しゃがむ裸婦//ひざまづく裸婦	1940年代	鉛筆、紙	25.3	17.8			
堀内正和	裸婦//裸婦	1940年代	鉛筆、紙	25.3	17.8			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
堀内正和	男	1940年代	鉛筆、紙	60.8	43.0			
堀内正和	裸婦	1940年代	鉛筆、紙	61.0	43.0			
堀内正和	裸体	1940年代	鉛筆、紙	59.4	43.0			
堀内正和	裸婦	1940年代	鉛筆、紙	60.8	42.8			
堀内正和	裸婦	1940年代	鉛筆、紙	48.2	39.8		下右:Horiuchi	
堀内正和	女の顔	1940年代	鉛筆、紙	60.8	43.0			
堀内正和	男の上半身	1940年代	鉛筆、紙	60.8	42.7			
堀内正和	眼鏡をかけた男	1940年代	鉛筆、紙	61.2	43.0			
堀内正和	男の顔	1940年代	鉛筆、紙	61.0	43.0			
堀内正和	人、馬	1940年代	墨、紙	27.5	38.0			
堀内正和	津軽照子『村のこよみ』表紙原画	1940年代	墨、水彩絵具、紙	25.7	36.7			
堀内正和	座る裸婦	1940年代	鉛筆、紙	60.8	43.0			
堀内正和	裸婦	1940年代	鉛筆、紙	61.0	43.0			
堀内正和	裸婦	1940年代	鉛筆、紙	60.6	43.0			
堀内正和	座る裸婦	1940年代	鉛筆、紙	62.5	43.5			
堀内正和	座る女	1940年代	鉛筆、紙	61.0	43.0			
堀内正和	帽子の女	1940年代	鉛筆、紙	61.0	43.0			
堀内正和	座る裸婦	1940年代	鉛筆、紙	48.2	39.8			
堀内正和	裸婦	1940年代	鉛筆、紙	51.0	37.8			
堀内正和	裸婦	1942	鉛筆、紙	43.4	61.0		下右:17 Mar/XXXXII	
堀内正和	淳子	1946	鉛筆、紙	28.3	23.8			
堀内正和	木苺	1948	水彩、鉛筆、紙	25.7	36.8		右:昭和廿三年五月廿七日	
堀内正和	子どもの顔	1948	鉛筆、紙	36.8	25.6		右:昭和廿三年六月七日	
堀内正和	川、家連なり	1948	鉛筆、紙	25.8	36.8		下左:昭和廿三年十月廿七日	
堀内正和	船	1948	鉛筆、紙	25.8	36.8		下右:昭和廿三年十月廿八日	
堀内正和	藁を編む人	1948	鉛筆、色鉛筆、紙	26.0	36.7		下左:昭和廿三年十月廿八日	
堀内正和	船	1948	鉛筆、紙	25.7	36.8		下左:昭和廿三年十月廿九日 / 1948	
堀内正和	赤ん坊	1948	鉛筆、紙	36.5	26.7		下右:23年6月7日	
堀内正和	ドローイング	1950-60年代	水彩絵具、鉛筆、紙	54.2	38.0		下右:Horiuti	
堀内正和	ドローイング	1950年代	鉛筆、紙	25.8	35.8			
堀内正和	ドローイング[横の作品]	1950年代	鉛筆、紙	25.8	35.8			
堀内正和	ドローイング[横の作品]	1950年代	鉛筆、紙	25.7	35.7			
堀内正和	チンチン電車を動かす機械	1950年代	鉛筆、インク、紙	21.1	27.4			
堀内正和	ドローイング	1950年代	鉛筆、紙(二つ折り)	27.2	19.6			
堀内正和	ドローイング	1950年代	鉛筆、紙	26.0	35.8			
堀内正和	[かげの美女たち(マネキン)]	1950年代	墨、紙	25.0	33.5			
堀内正和	[かげの美女たち(マネキン)]	1950年代	墨、紙	18.3	26.7			
堀内正和	横顔	1951	鉛筆、紙	24.4	20.0		下右:28 juin 1951	
堀内正和	女性の顔	1951	鉛筆、紙	15.3	17.8			
堀内正和	女性の顔	1951	鉛筆、紙	25.2	17.8		下右:1951	
堀内正和	女性の顔	1951	鉛筆、紙	38.3	29.5		下右:horiuti 23 sept.1951	
堀内正和	ドローイング	1960年代	インク、紙	27.3	38.4			
堀内正和	オソクマワル早クマワル	1960年代	インク、紙	35.8	25.8			
堀内正和	ドローイング [のどちんことはなのあな]	1960年代	インク、鉛筆、紙	28.5	27.1			
堀内正和	ひとみのなかのひとみはゆれている	1960年代	鉛筆、インク、紙	28.5	27.3			
堀内正和	臍爆発の実験	1960年代	インク、紙	27.7	21.4			
堀内正和	ひとみのなかのひとみ	1960年代	鉛筆、紙	18.1	25.3			
堀内正和	ストーブの上におく彫刻	1960年代	鉛筆、紙	18.0	25.4			
堀内正和	ドローイング	1960年代	インク、鉛筆、紙(四つ折り)	27.5	19.7		内面:Horiuti	
堀内正和	ドローイング(サイコロ)	1960年代	鉛筆、紙	18.1	25.5			
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9			
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9			
堀内正和	ドローイング [のどちんことはなのあな]	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9			
堀内正和	ドローイング (なかに入ってみる彫刻…)	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9			
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9		ギリシア語の書込みあり	
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9			
堀内正和	ドローイング (entre-percer …) [えくぼのある正六面体]	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	37.9	17.2			
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9			
堀内正和	ドローイング[指の股もまた股である]	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9			
堀内正和	ドローイング[OMPHALOS]	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9			
堀内正和	ドローイング(つまらないものを…)	1960年代	鉛筆、紙	37.9	17.2			
堀内正和	ドローイング(disproportion)	1960年代	鉛筆、紙	37.9	17.2			
堀内正和	ドローイング(シャッポをぬいだデ・ベン)	1960年代	鉛筆、紙	37.9	17.2			
堀内正和	サイコロと人差指	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9			
堀内正和	サイコロのタマゴ	1960年代	鉛筆、紙	17.2	37.9			
堀内正和	ドローイング[丸が四角に四角が丸に]	1960年代	鉛筆、紙	21.3	58.7			外面下中:12 上右:13
堀内正和	ドローイング	1960年代	インク、色鉛筆、紙	27.7	21.4			下右:1
堀内正和	ドローイング	1960年代	インク、鉛筆、紙	21.4	27.7			下右:2
堀内正和	ドローイング	1960年代	インク、鉛筆、紙	21.4	27.7			下右:3
堀内正和	ドローイング(三角さん/氏のいいぶん 舌戦)	1960年代	鉛筆、紙	27.7	21.4			下右:4
堀内正和	ドローイング	1960年代	インク、鉛筆、紙	20.1	27.3			下右:5
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	27.3	20.1			下右:6
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	27.3	20.1			下右:7
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	27.3	20.1			下右:9
堀内正和	胴忘れた人/考える足	1960年代	鉛筆、紙	20.1	27.3			下右:10
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	20.1	27.3			下右:11
堀内正和	ドローイング	1960年代	インク、紙	21.4	27.7			下右:14
堀内正和	ドローイング	1960年代	インク、紙	27.7	21.4			下右:15
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	22.0	31.5			下右:16
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙//鉛筆、紙	22.0	31.5			表下右:17 / 覗かれた内側 // 裏下右:18 / シャッポをぬいだデ・ベ・ソ氏
堀内正和	ドローイング[OMPHALOS]	1960年代	鉛筆、インク、紙	22.0	31.5			下右:19
堀内正和	ドローイング[OMPHALOS]	1960年代	鉛筆、インク、紙	22.0	31.5			下右:20
堀内正和	ドローイング[OMPHALOS]	1960年代	鉛筆、インク、紙	22.0	31.5			下右:21
堀内正和	ドローイング(あの手この手のへそ のぞき) [OMPHALOS]	1960年代	鉛筆、紙	22.0	31.5			下右:22
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	27.0	22.0			下右:23
堀内正和	ドローイング(おへそが見える)	1960年代	鉛筆、インク、紙	22.0	31.5			下右:24
堀内正和	ドローイング(お尻のように大きな ほっぺた)	1960年代	鉛筆、インク、紙	22.0	31.5			下右:25
堀内正和	ドローイング(visière visionnaire)	1960年代	鉛筆、インク、紙	22.0	31.5			下右:26
堀内正和	ドローイング(Si je devais écrire, ...)	1960年代	鉛筆、インク、紙	22.0	31.5			下右:27
堀内正和	ドローイング[OMPHALOS]	1960年代	鉛筆、紙	22.0	31.5			下右:33
堀内正和	ドローイング(あの手この手でへそ のぞき/オムファロスのはゼロのシム ポルだ) [OMPHALOS]	1960年代	鉛筆、インク、紙	22.0	31.5			下右:34
堀内正和	ドローイング(Buste de ...)	1960年代	鉛筆、紙	27.3	20.1			下右:36
堀内正和	ドローイング[Cubes et Tubes]	1960年代	鉛筆、紙	27.0	19.5			下右:37
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	20.1	27.3			下右:44
堀内正和	ドローイング(ひとみのなかのひと のひとみ/遠い日の人)	1960年代	鉛筆、紙	20.1	27.3			下右:45
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	20.1	27.3			下右:46
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	20.1	27.3			下右:47
堀内正和	ドローイング(cube aux fossettes)	1960年代	鉛筆、インク、紙	20.1	27.3			下右:49
堀内正和	ドローイング(摩止可俱天狗)	1960年代	鉛筆、インク、紙	27.7	21.4			下右:54
堀内正和	ドローイング	1960年代	インク、紙	35.7	25.3			
堀内正和	ドローイング[うらがえる円錐]	1960年代	インク、紙	35.8	24.6			
堀内正和	ドローイング[海の風]	1960年代	鉛筆、紙	36.0	25.0			
堀内正和	ドローイング	1960年代	鉛筆、紙	35.9	24.5			下右:8
堀内正和	ドローイング	1960年代	インク、紙	28.5	63.0			
堀内正和	ドローイング(1/Bavardage)	1960年代	ペン、紙	28.5	63.0			表中下:1
堀内正和	D氏の骨ぬきサイコロ	1964	インク、紙	35.9	24.5			下右:3/1964
堀内正和	ドローイング	1965	鉛筆、紙	28.6	63.0			下左:1965
堀内正和	ドローイング	1965	鉛筆、紙	27.4	38.7			下右:1965
堀内正和	ドローイング	1966	鉛筆、インク、紙	28.5	31.8			下右:1966
堀内正和	Cube et Tubes	1966	鉛筆、紙	39.3	27.3			下左:1966

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
堀内正和	Cube et Tubes	1966	鉛筆、紙	39.2	27.0		下右:1966	
堀内正和	Cubes et Tubes	1966	鉛筆、紙	39.3	27.3		下右:1966	
堀内正和	[Cubes et Tubes]	1966	鉛筆、紙	39.0	27.2		下右:1966	
堀内正和	迂回路標識	1969	鉛筆、紙	35.6	24.5		下:1969	
堀内正和	三つの矩形	1970年代	水彩絵具、紙	38.5	53.8			
堀内正和	咬みあう二つの形	1970年代	水彩絵具、紙	38.2	53.2			
堀内正和	ジグザグ立方体のつくり方	1970年代	水彩絵具、鉛筆、紙	51.0	63.5		下右:Horiuti	
堀内正和	ドローイング	1970年代	色鉛筆、方眼紙	28.0	32.0			
堀内正和	ドローイング	1970年代	色鉛筆、方眼紙	31.1	33.6		下右:Horiuti	
堀内正和	ハートの切り方	1970年代	インク、鉛筆、コラージュ、紙	37.2	28.5			
堀内正和	ドローイング[ねじれ三角]	1970年代	鉛筆、紙	24.2	17.6			
堀内正和	ドローイング[ねじれ三角]	1970年代	鉛筆、紙	24.2	17.6			
堀内正和	ドローイング	1970年代	鉛筆、紙	24.2	17.6			
堀内正和	ドローイング[ひねくれプリズム]	1970年代	鉛筆、紙	17.6	24.2			
堀内正和	ドローイング	1970年代	鉛筆、紙	24.2	17.6			
堀内正和	ドローイング	1970年代	鉛筆、インク、紙	24.2	17.6			
堀内正和	ドローイング[球の切り方]	1970年代	鉛筆、紙	29.7	21.0		下右:Horiuti	
堀内正和	ドローイング[球の切り方]	1970年代	鉛筆、紙	29.7	21.0		下右:Horiuti	
堀内正和	ひねくれプリズム	1975	インク、紙	11.9	13.0			
堀内正和	不詳	1977	色鉛筆、紙	50.5	65.6		下右:1980 Horiuti	
堀内正和	ジグザグ立方体	1977	ペン、紙	54.3	71.8		下右:Horiuti	
堀内正和	不詳	1978	鉛筆、インク、紙	45.7	53.0		下左:1978 Horiuti	
堀内正和	Cinq vues de 《deux cubes et demis》 [二つ半の立方体]	1979	インク、紙	51.0	66.0		下右:Horiuti	
堀内正和	Trois cubes [三つの立方体]	1980	インク、紙	54.6	71.5		下右:1980 Horiuti	
堀内正和	Trois cubes [三つの立方体]	1980	インク、紙	54.6	72.3		下右:1980 Horiuti	
堀内正和	上げたり下げたり	1980年代	鉛筆、方眼紙	25.2	37.1			
堀内正和	傾く形	1980年代	インク、紙	51.0	42.7		下右:Horiuti	
堀内正和	稜線による三点連結立方体	1980年代	インク、水彩絵具、紙	30.0	34.0			
堀内正和	稜線による三点連結立方体	1980年代	水彩絵具、紙	29.8	34.0			
堀内正和	稜線による三点連結立方体	1980年代	水彩絵具、ペン、紙	29.0	34.0		下右:Horiuti	
堀内正和	稜線による三点連結立方体	1980年代	水彩絵具、ペン、紙	29.8	34.0		下右:Horiuti	
堀内正和	三つ半の立方体	1980年代	インク、紙	38.2	32.4		下右:Horiuti	
堀内正和	ドローイング	1985年頃	鉛筆、紙	27.3	38.4		下左:1985?	
堀内正和	[大小三角立ちん棒]	1989-1990	鉛筆、方眼紙	25.2	37.1			
堀内正和	[大小三角立ちん棒]	1990	インク、紙	34.2	30.0		下:Horiuti/1990	
堀内正和	水平と垂直に犯された卵球	1990頃	ボールペン、方眼紙	28.3	21.0			
堀内正和	正四面体群を支える正三面柱	1991	ボールペン、鉛筆、紙	37.9	17.2			
堀内正和	マラルディの角度	1996	インク、紙	21.3	29.0			
堀内正和	いのちみち…	不詳	水彩絵具、墨、紙	24.0	33.0			
堀内正和	いのちみち…	不詳	水彩絵具、墨、紙	33.0	24.0			
堀内正和	女性の顔	不詳	墨、鉛筆、紙	16.6	19.0		下右:horiuti	
堀内正和	裸婦	不詳	鉛筆、紙	54.6	39.7			
堀内正和	裸婦	不詳	鉛筆、紙	51.4	37.3			
堀内正和	裸婦	不詳	鉛筆、紙	53.9	42.5			
堀内正和	女の顔	不詳	鉛筆、紙	56.5	45.5			
堀内正和	裸婦	不詳	鉛筆、紙	54.7	39.8			
堀内正和	女の顔	不詳	鉛筆、紙	54.6	39.7			
堀内正和	女の顔	不詳	鉛筆、紙	54.6	39.0			
堀内正和	女の顔	不詳	鉛筆、紙	55.1	39.0			
堀内正和	女の顔	不詳	鉛筆、紙	48.5	39.0			
堀内正和	裸婦	不詳	鉛筆、紙	55.3	39.4			
堀内正和	手	不詳	鉛筆、紙	54.0	40.0			
堀内正和	座る裸婦	不詳	鉛筆、紙	54.8	39.6			
堀内正和	座る裸婦	不詳	鉛筆、紙	54.7	39.5			
堀内正和	裸婦	不詳	鉛筆、紙	51.5	39.5			
堀内正和	裸婦	不詳	鉛筆、紙	50.3	39.0			
堀内正和	裸婦	不詳	鉛筆、紙	50.3	40.0			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
堀内正和	後ろ向きの裸婦	不詳	鉛筆、紙	56.4	44.3			
堀内正和	裸婦	不詳	鉛筆、紙	50.0	42.5			
堀内正和	脚を伸ばして座る裸婦	不詳	鉛筆、紙	39.5	51.5			
堀内正和	裸婦	不詳	鉛筆、紙	50.4	39.0			
堀内正和	裸婦	不詳	鉛筆、紙	53.0	39.0			
堀内正和	女の顔	不詳	鉛筆、紙	54.8	39.0			
堀内正和	女の顔	不詳	鉛筆、紙	54.8	39.0			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	25.8	35.8			
堀内正和	ドローイング	不詳	ボールペン、紙	35.7	25.8			
堀内正和	14面体サイコロ	不詳	インク、紙	38.3	27.1			
堀内正和	ドローイング	不詳	インク、紙	31.1	28.5			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、インク、紙	27.3	38.6			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	38.7	27.2			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	38.4	27.2			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	38.8	27.2			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	25.2	18.0			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	18.1	25.5			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	25.5	18.1			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	18.1	25.5			
堀内正和	ドローイング [箱は空にかえっていき／球もまた空にかえってゆく]	不詳	鉛筆、紙	18.0	25.2			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	25.2	18.0			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	25.2	18.0			
堀内正和	SOS SOS	不詳	鉛筆、紙	24.0	17.6			
堀内正和	ひねくれプリズム	不詳	鉛筆、紙	23.8	17.6			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	29.5	20.7			
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	25.0	17.5			
堀内正和	便利丁法波形鋸	不詳	インク、鉛筆、紙	25.5	36.2			
堀内正和	音楽会	不詳	インク、絵具、紙	23.2	20.3			
堀内正和	サイコロ党の末端組織	不詳	鉛筆、紙	27.4	20.0		上右・下右:8	
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	35.5	24.4		下右:9	
堀内正和	ドローイング (これはひとつのリングである)	不詳	インク、紙	17.8	25.0		上右:24 上左と下左に書込み	
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	22.0	31.5		下右:28	
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	22.0	31.5		下右:29	
堀内正和	ドローイング [のどちんことはなのあな]	不詳	鉛筆、紙	22.0	31.5		下右:30 下中:球のなかの方形のなかの球のなかの方形	
堀内正和	ドローイング(リングの運命)	不詳	鉛筆、紙	22.0	31.5		下右:31	
堀内正和	ドローイング(空も有も方向の差だ)	不詳	鉛筆、紙	22.0	31.5		下右:32	
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、インク、紙	21.0	29.7		下右:35	
堀内正和	ドローイング(miroir parfait)	不詳	鉛筆、紙	27.3	20.1		下右:38	
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	27.3	20.1		下右:39	
堀内正和	ドローイング(恐縮至極氏の肖像)	不詳	鉛筆、紙	27.3	20.1		下右:40	
堀内正和	ドローイング (ここまでおいで／デルタまでの距離／遠いデルタ)	不詳	鉛筆、紙	20.1	27.3		下右:41	
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	20.1	27.3		下右:42	
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	20.1	27.3		下右:43	
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	20.1	27.3		下右:48	
堀内正和	ドローイング	不詳	インク、紙	27.7	21.4		下右:50	
堀内正和	ドローイング [立方体をななめに通りぬける円筒]	不詳	インク、紙	27.3	20.1		下右:51	
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、紙	19.6	27.3		下右:52	
堀内正和	舌戦	不詳	鉛筆、インク、紙	21.0	27.8		下右:53 誤算	
堀内正和	ドローイング	不詳	鉛筆、ボールペン、紙	29.6	21.0			
堀内正和	Fooliteen Clock	不詳	インク、紙	51.1	41.6			
堀内正和	Fooliteen Clock	不詳	水彩、インク、紙	46.2	38.0			
堀内正和	Fooliteen Clock	不詳	水彩、鉛筆、紙	50.1	65.1		下右:Horiuti	
堀内正和	不詳	不詳	インク、紙	9.0	13.6		枠内右:Horiuti	
堀内正和	不詳	不詳	鉛筆、紙	54.3	38.5			

彫刻・インスタレーション

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
堀内正和	噛み合う筥	1973	木	62.0	42.0	42.0		
堀内正和	三つの立方体	1977	木	21.0	43.0	26.0		
堀内正和	三々五々の四面体	1990	ステンレス・スチール	83.5	16.0	18.0		
堀内正和	三つの直方体 B	1993	木	28.0	28.0	23.0		

〈本庄俊男氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

川口起美雄	Across the Universe	2020	テンペラ、油絵具、 チョーク、板	162.0	245.1		左下:Kimio Kawaguchi	
-------	---------------------	------	---------------------	-------	-------	--	--------------------	--

〈宮崎とみゑ氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

宮崎 進	すべてが沁みる大地	不詳	蜜蝋、油絵具、麻布、合板	35.0	25.6	2.8	右下に書込みあり	
------	-----------	----	--------------	------	------	-----	----------	--

〈山本隆志氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

重松岩吉	支那の賭博室	1921	油絵具、カンヴァス	60.7	50.3			
原 精一	兵隊の肖像	1939	油絵具、カンヴァス	41.4	32.0		画面右下:Hara 裏面:池田 少佐殿 / 於武昌陣中 / 原精 一 / 昭和十四年 / 一月	

〈横田 茂氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

矢野美智子	無題	1994	石膏、アクリル絵具、石、 鉛筆、インク、木パネル	84.0	59.5			
-------	----	------	-----------------------------	------	------	--	--	--

彫刻・インスタレーション

矢野美智子	無題	1994	木、石膏、アクリル絵具	24.5	15.0	18.0		
矢野美智子	無題	1994	木、石膏、アクリル絵具	15.0	25.0	25.0		
矢野美智子	無題	1994	木、石膏、アクリル絵具、 クリスタル(石)	13.0	14.2	13.1		
矢野美智子	無題	1994	木、石膏、アクリル絵具、 真鍮	24.5	21.0	10.0		
矢野美智子	無題	1994	木、石膏、アクリル絵具、 真鍮、トルコ石	13.0	18.0	18.0		
矢野美智子	無題	1994	木、石膏、アクリル絵具、 ローズクォーツ(石)	7.5	30.0	25.5		
矢野美智子	無題	1994	木、石膏、アクリル絵具、 真鍮、ラピスラズリ(石)	19.5	20.0	7.0		
矢野美智子	無題	不詳	木、石、金属、アクリル絵具	34.0	10.0	5.1		

関連資料

〈青木 茂氏寄贈〉

坪井小五郎(正五郎) ; 小杉未醒	『うしのよだれ』	1909	印刷、紙	17.7	10.3			発行者:鈴木種次郎
中澤臨川	『ナポレオンの人格と運命』	1920	印刷、紙	19.7	13.2			発行:大鑑閣
富田溪仙	『絵事循環』	1930	印刷、紙	33.5	18.3			編輯発行:佐藤梅軒
小杉未醒	『工房小閑』	1934	印刷、紙	19.4	14.0			発行:竹村書房 / 青木文庫印
松下 高;高山謙治	『鮭鱒聚苑』	1942	印刷、紙	21.6	15.7			発行:水産社 / 鮭皮装 / 青木文庫印
不詳	『小學習画帖』第一	1887	石版、紙	14.3	21.8			文部省編輯局蔵版
本多錦吉郎	『新式畫學本』三卷	1897	印刷、紙	14.5	21.7			発行:金港堂
本多錦吉郎	『新式畫學本』七卷	1897	印刷、紙	14.5	21.7			発行:金港堂
本多錦吉郎	『新式畫學本』六卷	1897	印刷、紙	14.5	21.7			発行:金港堂
温古堂編集部	『世事畫報』第一卷第一号 創刊号	1899	印刷、紙 (石版入り)	25.9	18.5			画面右下:Hara 裏面:池田 少佐殿 / 於武昌陣中 / 原精 一 / 昭和十四年 / 一月
温古堂編集部	『世事畫報』第一卷第三号	1899	印刷、紙 (石版入り)	25.9	18.5			多色木版:信陽堂 岡村竹四 郎 表紙:温古堂 / 編輯発 行:中川九郎 / 発行:金昌堂 / 明治31年9月7日
小山正太郎	『中等臨畫』第三編	1900	印刷、紙	18.8	26.3			発行:東京成美堂
小山正太郎	『中等臨畫』第六編	1907	印刷、紙	18.8	26.3			発行:東京成美堂
小山正太郎	『中等臨畫』第五編	1908	印刷、紙	18.8	26.3			発行:東京成美堂
小山正太郎	『中等臨畫』第四編	1908	印刷、紙	18.8	26.3			発行:東京成美堂
小山正太郎	『中等臨畫』第貳編	1908	印刷、紙	18.8	26.3			発行:東京成美堂
博文館	『文章世界』	1906	印刷、紙	22.4	15.2			
博文館	『冒険世界』第一卷第七号	1908	印刷、紙	25.7	18.0			発行:博文館
博文館	『冒険世界』第三卷第四号	1909	印刷、紙	25.7	18.0			発行:博文館

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、方眼紙	55.7	42.7			
堀内正和	構想メモ	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	インク、方眼紙	23.3	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	21.0	29.7			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	36.5			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	インク、方眼紙	36.0	49.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	インク、方眼紙	31.0	29.7			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、方眼紙	29.6	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、方眼紙	29.6	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、方眼紙	14.6	18.7			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、方眼紙	21.0	29.6			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、方眼紙	29.6	21.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	21.0			8枚
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	31.2	21.7			表紙:基本製図? 33点
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	31.0	21.0			表紙:方眼紙 33点
堀内正和	構想メモ(tetra…)	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	21.0	29.7			
堀内正和	構想メモ(trois…)	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ(円の面積)	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	21.0	29.7			
堀内正和	構想メモ(海の風の支柱)	1962	インク、方眼紙	29.7	21.0		右下:堀内 1962	
堀内正和	構想メモ(体積が等しい14の三角柱)	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ(体積が等しい五つの三角柱)	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ(体積が等しい五つの半円柱)	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ(体積が等しい五つの半円柱)	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ(体積が等しい五つの半円柱)	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ(立方体は東の終点と…)	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	21.0	29.7			
堀内正和	構想メモ(雙生立方体誕生)	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ[のどちんことはなのあな]	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ[体積が等しい14の三角柱]	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ[体積が等しい五つの半円柱]	不詳	インク、方眼紙	63.5	21.0			
堀内正和	構想メモ[大小三角立ちん棒]	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	31.3	38.0			
堀内正和	構想メモ[大小三角立ちん棒]	不詳	インク、方眼紙	29.7	39.1			
堀内正和	構想メモ[大小三角立ちん棒]	不詳	インク、方眼紙	30.0	21.0			
堀内正和	構想メモ[大小三角立ちん棒]	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	21.0			
堀内正和	構想メモ[立方体の四等分]	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	46.6	37.0			
堀内正和	構想メモ[立方体の四等分]	不詳	インク、方眼紙	29.7	21.0		右下:Horiuti	
堀内正和	構想メモ断片	不詳	鉛筆、インク、方眼紙	29.7	6.5			
堀内正和	構想メモ断片	不詳	鉛筆、方眼紙	16.5	21.1			
堀内正和	構想スケッチ 一式 詳細							
堀内正和	《アップルカップル》試作	不詳	色鉛筆、鉛筆、 フロッタージュ、紙	—	—			10枚組
堀内正和	メモ	不詳	色鉛筆、紙	19.5	27.2			
堀内正和	メモ(堀内正和展作品明細)	不詳	コピー、紙	29.7	21.0			
堀内正和	メモ(木型)	不詳	鉛筆、紙	27.3	39.5			
堀内正和	メモ(傘(やく)は笛)	不詳	インク、紙	18.2	25.7			
堀内正和	構成パーツ	不詳	鉛筆、紙	22.0	22.0			
堀内正和	構成パーツ	不詳	鉛筆、紙	23.0	20.9			
堀内正和	構成パーツ	不詳	鉛筆、色鉛筆、紙	20.0	30.6			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、紙	30.5	21.2			
堀内正和	構想メモ	不詳	インク、段ボール	20.0	31.5			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、紙	34.2	25.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、インク、紙	18.5	32.4			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、紙	21.1	58.1			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、色鉛筆、紙	21.1	57.6			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、紙	38.4	54.2			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、紙	25.4	18.0			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、紙	20.8	31.3			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、紙	20.0	40.8			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、紙	29.6	20.8			
堀内正和	構想メモ	不詳	鉛筆、紙	21.1	58.5			
堀内正和	構想メモ(多面体)	不詳	鉛筆、紙	42.6	51.0			
堀内正和	構想メモ[稜線による三点連結立方体]	不詳	インク、鉛筆、紙	30.6	34.5			
堀内正和	構想メモ[稜線による三点連結立方体]	不詳	鉛筆、紙	34.5	31.0			
堀内正和	図面	不詳	鉛筆、紙	38.2	54.3			
堀内正和	図面	不詳	鉛筆、紙	38.2	54.0			

館外貸出作品一覧

開催初日が2021年4月1日から2022年3月31日までの展覧会に限る
(巡回展の場合は、第一会場の会期による)

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」会場(当初会期順)
1	1	佐藤 敬《内部の殻》	「空間に生きる画家 猪熊弦一郎」香川県立ミュージアム(4月17日～6月6日 *7月4日まで延長)
2	2	高橋由一《江の島園》	「映えるNIPPON 江戸～昭和 名所を描く」府中市美術館(5月22日～7月11日)
3	3	三岸節子《小運河の家》	「貝殻旅行 三岸好太郎・節子展」北海道立三岸好太郎美術館(6月26日～9月1日)、砺波市美術館(9月13日～11月7日*会期変更 9月11日～)、神戸市立小磯記念美術館(11月20日～2022年2月13日)、一宮市三岸節子記念美術館(2022年2月19日～4月10日)
4	4～6	香月泰男《冬の川》、《ニース》、《聖堂》	「生誕110年 香月泰男展」宮城県美術館(7月3日～9月5日)、新潟市美術館(11月27日～2022年1月23日)、練馬区立美術館(2022年2月6日～3月27日)、足利市立美術館(2022年4月5日～5月29日)
5	7	澄川喜一《MASK VI》	「文化勲章受章記念 澄川喜一彫刻展」清瀬市郷土博物館(7月3日～8月1日)
6	8～26	ミニオ＝バルウエルロ・保田, シルヴィア《窓から》、《木々と木の葉》、《聖女の足》、《花の咲く野》、《家族の肖像(4)》、《羊の毛を刈る(1)》、《羊の毛を刈る(2)》、《樹下に遊ぶ幼児イエスと聖母(シートNo.73)》、《門口の聖母子など(シートNo.80)》、《青空と鳥など(シートNo.69)》、《群像など(シートNo.71)》、《天使;彫刻を学ぶ少年(シートNo.14)》、《鳥(カラス)(シートNo.72)》、《テント;舟;うずくまる人など(シートNo.49)》、《聖ペテロ:地獄の門アイデア・スケッチ(シートNo.50)》、《箱から出る人物・小部屋で鳥を待つ人(シートNo.103)》、《地獄の門》のためのスケッチなど(シートNo.18)》、《聖ペテロとイエス;漁師たちなど(シートNo.39)》、《地獄の門》のアイデア(シートNo.19)	「Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる」東京都美術館(7月22日～10月9日)
7	27	片岡球子《火山(浅間山)》	「長野県立美術館グランドオープン記念 森と水と生きる」長野県立美術館(8月28日～11月3日)
8	28,29	荻須高德《ル・ベック》、《Une cour(中庭)》	「生誕120年記念荻須高德展」「えき」KYOTO(9月10日～10月17日)、稲沢市荻須記念美術館(10月23日～12月19日)、ひろしま美術館(2022年1月3日～3月13日)
9	30～33	古賀春江《窓外の化粧》図書資料:谷譲次『もだん・でかめろん』、龍膽寺雄『放浪時代』、阿部金剛『シュールレアリスム論』	「ビジュツカンノススメ アートを楽しむ4つのヒント」横須賀美術館(9月18日～11月7日)
10	34～36	糸園和二郎《黄色い水》、《黒い水》、《雨の沼》	「生誕110年記念 糸園和二郎展」大分県立美術館(9月18日～10月31日)、中津市歴史博物館(11月20日～2022年1月10日)
11	37～42	山口蓬春《秋 下図》、《春 下図》、《梨(春下図)》、《とちの木(秋下図)》、《スケッチブック(15) 奥入瀬「椽」など(19枚)》、《スケッチブック(19)「楓」のためのスケッチ(24枚)》	「山口蓬春芸術の神髄 四季の連作と皇居宮殿の杉戸絵」山口蓬春記念館(10月2日～11月28日)
12	43	石垣栄太郎《街》	「和歌山の近代美術の精華」和歌山県立近代美術館(10月23日～12月19日)
13	44～49	上田薫《午後の番組B》、《流れA》、《ピンの底A》、伊庭靖子《Untitled》、《Untitled》、《untitled》	「上田薫とリアルな絵画」茨城県近代美術館(10月26日～12月12日)
14	50～65	浜田知明《群盲》、《初年兵哀歌(銃架のかげ)》、《初年兵哀歌(便所の伝説)》、《初年兵哀歌(歩哨)》、《初年兵哀歌(ぐにゃぐにゃとした太陽がのぼる)》、《初年兵哀歌(風景)》、《初年兵哀歌(歩哨)》、《初年兵哀歌-風景(一隅)》、《初年兵哀歌(廟)》、《風景》、《風景》、《絞首台》、《刑場(B)》、《よみがえる亡霊》、吉原治良《作品(黒地に白四角)》、多田美波《Phase-Space 6943(3点組)》	「集団と個の狭間で 1950～60年代の日本前衛美術」ザヘンタ国立美術館(ポーランド共和国)(11月25日～2022年3月13日)
15	66～69	奥谷博《足摺遠雷》、《鏡の中の自画像と骨》、《ペランダのモンスター》	「奥谷博一無窮へ」高知県立美術館(11月3日～2022年1月16日)
16	70～81	浜田知明《版画集『わたくしのヨーロッパ印象記』 グランプラス》、《版画集『わたくしのヨーロッパ印象記』 ドーバー海峡》、《土方定一童話集『カレバラス国に名高きかの物語』血にまみれた馬達の話》、《『小さな版画集』検査》、《『小さな版画集』女》、《窓から一何もしてないよ(A)》、《窓から一白い手袋》、《カッパドキア追想》、《悩ましい夜》、《誰も知らない》、《風景》、《杖をつく老人》	「浜田知明展 アイロニーとユーモア」茅ヶ崎市美術館(12月11日～2022年2月6日)
17	82,83	蔵本朝美《假像》、海老原喜之助《友よさらば》	「海老原美術研究所設立70周年記念 エビハラがいた時代 1945-1970」熊本県立美術館(2022年2月25日～3月30日)
18	84～89	鏑木清方《お夏清十郎物語》(第1～6図)	「没後50年 鏑木清方展」東京国立近代美術館(2022年3月18日～5月8日) 京都国立近代美術館(2022年5月27日～7月10日)

修復報告 1

伊藤由美

作者：オディロン・ルドン(1840-1916)

作品名：版画集『ゴヤ頌』表紙

制作年：1885年

材料・技法：リトグラフ、紙

寸法(mm)：修復前 465 × 659

修復後 464 × 657

修復前の所見

『ゴヤ頌』の表紙となるページであり、見開きページを二つに折った状態で保管されている。折りたたんだ内側には図柄はなく、左上に鉛筆による記述がある。全体的に紙の酸化が進み、黄変や変色斑がみられる。折りたたんだ状態の周辺部は酸化による黄化や脆弱化が観察される。また上辺近くと中央上方寄りに染みがあり、右辺下方に小さな破損がある。折りたたんだ部分が劣化して分離しそうになっているのを、紙テープで接着し補強している。テープ接着箇所は褐色に変色し、一部剥離している(図1、2)。

修復処置

1. 粉消しゴムを用いてドライクリーニングを施し、表面の汚れを除去した(図3)。
2. 見開き部分の補強紙テープを除去した。また、紙に残った接着剤を、テトラヒドロフランとタルクを用いて除去した。
3. 水酸化マグネシウム水溶液に浸して脱酸処置を行い、水洗を行った(図4)。
4. 水分が抜けるまで、ポリエステル不織布、吸い取り紙、ガラス板に挟んでプレス乾燥を行った。
5. 分離した部分を和紙を用い、メチルセルロースと正麩糊の混合接着剤で接着した。

修復後の所見

脱酸処置により全体の汚れが除去され鑑賞し易くなった。また酸化が進み脆弱化していた紙は、わずかなりとも柔軟性を取り戻した。鑑賞の妨げとなっていた褐色化したテープ痕は除去され、見やすくなった。ただし、裏面は、脱酸処理で全体がきれいになったが、当初の汚れが抜けきらなかった部分があるため、わずかに変色斑が残った(図5、6)。

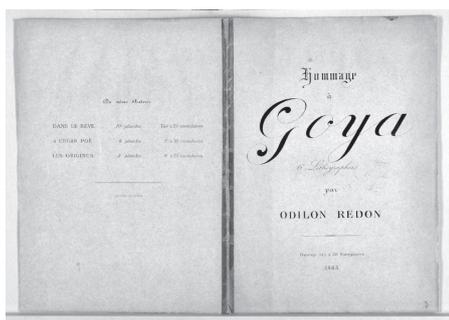


図1 修復前 表 見開き中央を紙テープで接着補強をしている



図2 修復前 裏



図3 修復中 粉消しゴムによる乾式洗浄、下側が洗浄で埃を吸った粉消しゴム



図4 修復中 水酸化マグネシウム水溶液による脱酸処置

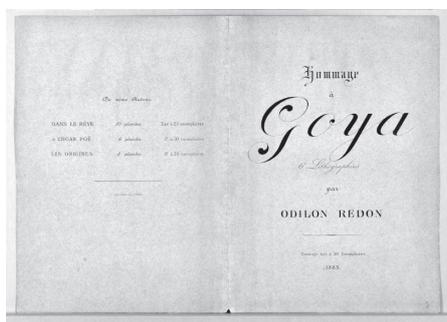


図5 修復後 表

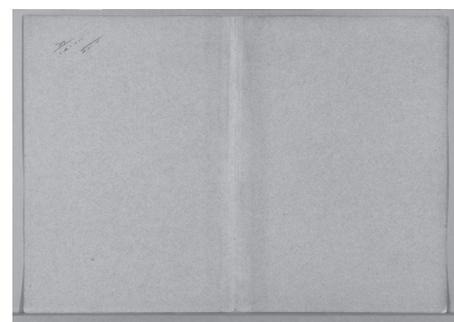


図6 修復後 裏

修復報告 2

橋口由依

作者：大河内信敬（1903-1967）

作品名：静物

制作年：1949-1950年

材料・技法：油彩、カンヴァス

寸法(mm)：修復前 726 × 905

修復後 725 × 905

修復前の所見

画布の張りが弱い。木枠の当たる部分や画面上部の暗色部分に亀裂が多数生じており、亀裂に沿って画布が変形している。画面の右端にはピンで開けたような穴が多数ある。画面左端は特に亀裂や浮き上がりが多くカビ跡や剥落も見られるほか、地塗り層の固着状態も悪い。この部分の裏面に水性の染みや黒色のカビ跡が残っているため、冠水により損傷したと推測される。画面全体に刷毛で塗られた乾性油、あるいはワニスが暗色化しており、垂れ跡が目立っている。また、乾性油やワニスの光沢のむらが生じている。全体に薄っすらと汚れが堆積し、画面が暗くなっている（図1～4）。

修復処置

1. 亀裂や剥落部分の絵具層の浮き上がりや、固着状態の悪い地塗り層を膠水溶液（9%）で接着した。
2. アンモニア水溶液（0.5%）で画面の汚れを洗浄した。また、キシレンを用いて暗色化したワニスの軽減を行った。
3. カンヴァスを木枠から取り外し、画布裏面と木枠の清掃およびエタノールによる殺菌を行った。
4. 画布の裏面から湿気を与え、アイロンで加温しながら加圧して亀裂周辺の変形を可能な限り修正した。
5. 画布の張り代を補強し元の木枠に張り込んだ。
6. 剥落部分に石膏と膠による充填剤を注入し、周囲のマチエールにあわせて整形した。
7. 周囲の色彩にあわせ、充填部分に溶剤型アクリル絵具で補彩を施した。カビ跡など絵具層の光沢が失われている部分にダンマルワニスを薄く塗布して光沢を調整した。

修復後の所見

変形修正と画布の張り直しにより絵具層の状態が安定した。鑑賞の妨げとなっていた亀裂と剥落、乾性油やワニスのむらが目立たなくなり、微妙な色彩の変化が見えるようになった（図5、6）。



図1 修復前 表

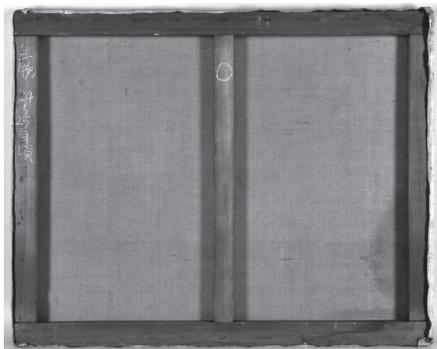


図2 修復前 裏



図3 修復前 部分 亀裂に沿って変形が生じている



図4 修復前 部分 乾性油あるいはワニスに暗色化している



図5 修復後 表

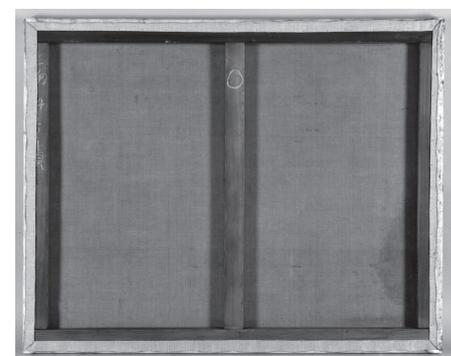


図6 修復後 裏

修復報告 3

有限会社 修復研究所二十一 田中智恵子、宮田順一

作 者：不詳

作 品 名：負翼童子図

制 作 年：不詳

材料・技法：油絵具、麻布

寸法(mm)：作品 修復前 1155 × 680

修復後 1155 × 677

額 修復前 1238 × 765 × 70

修復後 1238 × 765 × 90

修復前の所見

本作品は、明治3(1870)年に駐日イタリア公使として来日したアレッシンドロ・フェ・ドスティアーニ伯爵が所有し、日本の絵師に修理を依頼したが仕上がりがひどく、高橋由一に再修復を依頼したものの、由一自身も適切な修復技術を持ち合わせていないという自覚のもと断ったという経緯がある。しかし、西洋画を学ぶ参考になればとフェ氏が由一に贈っており、明治26(1893)年京橋で開催された洋画沿革展に、本作品と思われる作品が出品されている。¹⁾40年ほど前に青木茂氏が、当時の本作品所蔵者より連絡を受け、歌田真介氏とともに所蔵者宅で調査、撮影を行っている。²⁾近年、本作品は旧所蔵者の手を離れ、2017年に青木茂氏ほかの所蔵するところとなり、調査、修復のため、本修復研究所に運ばれた。修復途中の段階で神奈川県立近代美術館に寄贈されることになり、あらためて館藏品として修復依頼を受け、本研究所にて修復を続けることとなった。

作品の搬入時の状態は、上記の調査時に撮影された写真²⁾との比較では、ほぼ同じであった。全面にはワニス層の強い光沢があり、その下には広範囲に及ぶ粗雑な加筆があるのが認められた。充填剤が露出している箇所や加筆部の剥落、画面の変形、X線画像などからは、充填剤が広範囲に施されていて、下層には絵具層の欠損箇所が多いことも観察された(図1、4)。上方および下方の数センチは左右に亘り帯状にオリジナルの絵具層はなく、充填剤と加筆のみであった。さらにX線画像から負翼童子図の下層にはキリスト降誕図が描かれており、布の上に横たわる乳児キリスト、その周辺に聖母やその他の人物像が描写されていることも観察できた。裏面には非常に粗雑なワックス塗付の跡があり、裏打ちの有無やその材料、旧処置の内容に関する調査が、作品のオリジナルの解明と修復方針の決定のために重要となることが示唆された(図2)。支持体は楔付きの木枠に張り込まれており、木枠には由一の筆跡による墨書がある。由一の手元にあった時代に、上下辺に付け足された充填箇所の部分も含めた寸法であったことがわかる。裏面のワックス塗布は、おそらく2か所ある支持体破損の接着とあて布補強のため、また全体の変形修正のためと思われる(図2、10)。

修復処置

1. 調査：修復前に正常光写真、紫外線蛍光写真、赤外線反射写真、X線写真の撮影を行い、作品の状態を観察した。X線撮影は作業の内容にあわせ、修復途中、修復後も行った(図1、2、3、4)。
2. 縁張り除去：作品周辺部と木枠側面を覆っていた紙の縁張りテープを除去し、絵具層周辺部、地塗り層、支持体、裏打ちの有無などについて観察した。
3. 木枠取り外しおよび仮張り変形修正：洗浄作業を進めるにあたり、支持体を木枠から外し、周辺部に幅の広い麻布の張りしろを接着して、伸張式の仮枠に張り込んだ。こうして作業中の支持体の安定を図るとともに、支持体に生じている巻き皺などの目立つ変形の修正も同時に行った。
4. ワニス及び加筆の除去：近年のものと思われる光沢の強いワニスを除去した。ワニスの下層には、広範囲に及ぶ油絵具による加筆があり、箇所によっては、ワニスの除去と同時に弱い有機溶剤でも溶解するほど耐久性のない加筆があった(図3、5)。また、厚い油絵具の層からなる加筆は、メスなどを使用して剥離させる、または削って除去した。加筆の下層の状態が判然としない背景部や、後世の加筆と分かっていても作品の図柄として重要な箇所、鑑賞の妨げにならない部分は無理に除去しなかった。
5. 旧充填剤の軽減、除去：加筆除去後に露わになった旧充填剤を可能な限り除去した(図6、7)。ただし、X線撮影にて存在が明らかになった下層の「キリスト降誕図」の絵具層や地塗り層を損なわないように、充填剤の除去は慎重に行い、除去の必要がない箇所はそのまま残した(図4)。
6. 洗浄：概ねの加筆除去後、適切な有機溶剤を用いてさらに残った加筆絵具を洗浄し、オリジナルの状況に近づけるよう試みた。マントの部分など下層に当初の繊細な色が残っていることが判明した箇所は、少しずつ確認しながら除去を行った。
7. 裏面のワックス除去：不必要なワックスはナイフで掻き取るようにして除去した(図10)。
8. 支持体破損部のあて布接着補強：裏面のワックスの下に2か所確認された、裏打ち布を伴う支持体の破損部のあて布補強を除去し、新たな麻布とBEVA371フィルムを使用して再接着と補強を行った(図10)。
9. 木枠張り込み：当初の木枠に張り込んだ。欠損していた楔2個も補充した。
10. 充填整形：絵具層の欠損部にポローニャ石膏と膠を用いた充填剤を充填し、周囲の絵具層の表情にあわせて整形した。
11. 補彩：充填箇所及び加筆が除去しきれずに鑑賞の妨げとなっている部分に、また、図柄の欠損部には復元が可能な限りにおいて補彩を行った(図9)。補彩には水彩絵具と溶剤型アクリル絵具を使用した。
12. ワニス塗布：光沢調整のため、ダンマルワニスを塗付した。
13. 額装：当初の額に作品をT字金具で固定した。また画面保護用に低反射アクリルおよび、裏板としてポリカーボネイト製の透明板を装着した。

修復後の所見

本修復は、鑑賞の妨げとなっていたワニスや粗雑、且つ広範囲に及ぶ加筆、充填剤などの旧修復処置の除去が中心であった。下層に存在するキリスト降誕図は、表面からは見えないが本作品の歴史でもあるため、この絵の絵具層も失わないよう十分気を付けながら作業を進める必要があった。また背景部分はほとんどが厚い絵具層で覆われた加筆であるが、元の状態が不明であるのですべては除去しなかった。加筆除去、洗浄の結果、旧修復時の洗浄過多で色彩が失われている箇所も確認され、また、ほとんど隠れていた細密な表現の植物も現れた。オリジナルの再現のため、絵具層の上にも補彩が必要な箇所もあった。いずれにせよ、明確なオリジナルの状態がわからないため、補彩は鑑賞の妨げにならない程度に留めた。

一方、画面周辺部や破損部分の観察から、本作品には裏打ちが施されていることがわかった。過去、張り直した跡がないため、由一により調達された木枠に張られる前に施された裏打ちである。洗浄作業中の観察や材料分析の結果から、充填や加筆の材料が、場所により違いがあるのがわかった。異なる時代や複数の作業者による処置であることは明白であったが、どの時代によるものであるのかは想像の域を出ない。

本修復は、アレサンドロ・フェ伯爵の修復依頼によって由一のもとにたらされ、由一や西洋絵画を学ぼうとした当時の日本人が目にしたであろう実際の油彩画がどのようなものであったのか、その作品に近づけることが目的であった。その意味では当時の「負翼童子図」の画像に近づいたのではないかと考えている。

註記

- 1) 青木茂「油絵諸学明治百十一年 高橋由一の遺作」『油絵初学』筑摩書房、1987年、pp.344-355
- 2) 青木茂「高橋由一・明治十四年」『修復研究所報告』Vol.2、1982年、p.25
歌田真介「啓蒙としての高橋由一」『修復研究所報告』Vol.16、1996年、pp.26-27



図3 修復前 紫外線蛍光写真
黒い部分が加筆



図4 修復前 X線写真



図5 修復中 洗浄途中
下方の明るい部分が洗浄した箇所



図6 修復中 充填剤除去後



図7 修復中 加筆除去で現れた充填剤



図8 修復中 裏面に塗布されたワックスと当て布



図1 修復前 表



図2 修復前 裏



図9 修復後 表



図10 修復後 裏

試料片調査結果

宮田順一

作品の修復に伴い、技法材料検査の一環で、試料片の調査を行った。試料片は損傷箇所近辺から、修復前及び修復作業途中の木枠除去前後に得た。

調査方法は、試料片のクロスセクションを作成して光学顕微鏡で観察した後、X線マイクロアナライザー（EPMA）にて観察し、元素を確認する一方、微小部X線回折装置（MDG）により、試料片を測定して化合物を確認する方法によった。

実験条件を以下に記す。

- EPMA は二機種を使用した。
日本電子(株)社製 JSM-5400（二次電子像と組成像観察用）、及び JSM-6360 に Oxford 社製エネルギー分散型スペクトルメータ INCA x-sight を装着した装置 加速電圧：15kV
- MDG は二機種を使用した。
理学電気(株)社製 RINT2100 に PSPC-MDG2000 を装着した装置、及び RINTrapid（湾曲 IP X線回折装置）線種：CuK α
管電圧：40kV 管電流：30mA コリメータ：100μmφ
計数時間：約 2000 秒、及び 3000 秒
MDG による測定は、試料片の表面に X 線を照射して行った。

調査結果 結果を表にまとめた。

表：試料片調査結果

色	EPMAによる検出元素	MDGによる検出化合物*	推定成分と備考
赤、褐	Mg, Al, Si, K, Fe, Mn Hg, S, Al	SiO ₂ [46-1045]	酸化鉄系顔料、石英、ケイ酸塩化合物 パーミリオン、レーキ顔料
黄	Cd, S, Pb, Sb As, S, Pb, Sn	—	カドミウムイエロー、ネイプルスイエロー オーピメント、鉛錫黄
橙	Pb	Pb ₃ O ₄ [41-1493]	鉛丹
緑	Na, Mg, Al, Si, K, Fe	—	緑土（テルベルト）
青	Cu	2CuCO ₃ ・Cu(OH) ₂ [11-682]	アズライト（岩群青）
黒	Ca, P, Mg, F 以上の原子番号を持つ元素は未検出	—	アイボリーブラック、カーボンブラック
白	Pb, Ca	2PbCO ₃ ・Pb(OH) ₂ [13-131] PbCO ₃ [47-1734] CaCO ₃ [5-586]	鉛白、炭酸カルシウム
現在のキャンバス地塗層	Pb, Ca Si, Al, Fe, Ba, S P, Mg	2PbCO ₃ ・Pb(OH) ₂ [13-131] PbCO ₃ [47-1734] CaCO ₃ [5-586]	鉛白と白亜が主成分（白亜の含む微化石を確認） バライトとケイ酸塩化合物は少量から微量成分、 アイボリーブラックも同様

* []内の No. は照合した JCPDS - ICDD カードの No.

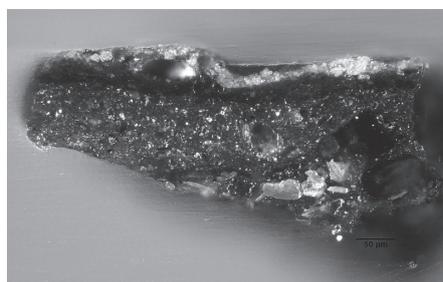
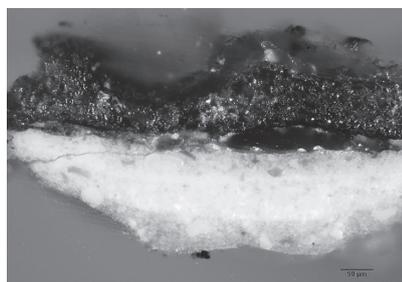
作品は過去の修復で現在のキャンバスに貼り付けられている。現在のキャンバスは鉛白と白亜を主成分とする地塗層が塗布され、高橋由一など、明治初期の油彩画に多くの検出例があるキャンバスである。

現在の作品は負翼童子図であるが、さらに別の作品が下層にある。キリスト降誕図と推定できる。酸化鉄系褐色顔料を主成分とする地塗層、いわゆる有色地に描かれた作品で、現在より大きい画面でもあったようである。

現在の作品の絵具層では、全体に酸化鉄系褐色顔料を主とする背景に、鉛白とパーミリオンなどを使用して、負翼童子が描かれている。右部分、布の近辺ではアズライトの青色が多く使用され、これに対して下部の草花の緑色は、緑土を主として使用、これに鉛錫黄色やアズライトも混合するなど変化に富む。さらに草花の赤色ではレーキ顔料とアズライトも混ぜられて、やや紫を帯びた色調を構成する。パーミリオンと赤色レーキ顔料の混合使用もあって、単にひとつの絵具によらず、細部にも凝った側面を持つ。

オーピメントと鉛丹は下層の作品で使用されたものと推定している。過去の修復時の充填剤は鉛白のほかに、酸化鉄系赤褐色顔料および鉛丹が混合して使用されている。補彩には鉛白の使が顕著な他、少量のカドミウムイエローやネイプルスイエローも使用されている。

光学顕微鏡による試料片断面の観察例



左：作品上部からの試料片
上層の褐色部分が主に元の支持体、元の地塗層や過去の修復で塗布されたワニスなども浸透している。下層の白色が貼付された現在のキャンバス地塗層の2層塗りが確認できる。

右：負翼童子足元付近、草花緑色の試料片
上層の明るい層が草の緑色で鉛白や鉛錫黄色、アズライト、緑土などの混合。この下には2層の酸化鉄系顔料を主とする層がある。最下層は下に描かれた図の絵具層でオーピメントを含む。

修復報告 4

文化財修復工房 明舎 藤原 徹

作 者：清水九兵衛（1922-2006）

作 品 名：BELT

制 作 年：1978 年

材料・技法：アルミニウム、大理石

寸法(mm)：修復前 4800 × 2400 × 1200

修復後 4800 × 2400 × 1200

はじめに

本作品は 1978 年に制作され 40 年以上が経過したものであり、2019 年の強風により前面の湾曲した部分に変形してしまった（図 1）。当初はオリジナル性の保護と大規模な修復作業をさけるため、変形部のみを強制的に元に戻すことを考えたが、アルミ材全体に侵食した腐蝕や曲げ戻しの際に材料の内部応力の発生により亀裂等が生じる可能性を考え最終的に新規のアルミニウム板を使用することとなった。

分解してみてわかったことだが、上下部にある半球部分の内部で長板の 3 部材がステンレス製ボルトにて固定されていた。また半球との接触部分が、半球内部に補強されていたステンレス鋼の隙間に溜まった塵等と湿潤な状態下での金属の電位差により円状に腐食し貫通していた（図 2）。今後の安全性を考えると帯状の部分は新材料にて再制作することが賢明と判断した。

半球体部分はアルミニウムによる鋳造でありその時にできる鋳造巣が多く見られた。巣や気泡をアルミ金属パテで充填し、表面の仕上げにはナイロンヤスリの # 120 番にてヘアーラインをつけ、オリジナルの半球部分との統一感を得るため銀色とクリアーのウレタン系塗料を塗布した。これは取り外した半球部分から塗料の痕跡が認められたので同様に行った（図 3）。

屋外でアルミニウムは腐食しやすいため、表面に保護膜（クリアーのウレタン系塗料）をつけることとした。

今後のアクシデントに備えるため、強風時には前面と中板の間に船舶用フェンダーを入れて予防することとなった（図 11）。

損傷状況と考えられる被害

1. 前面アルミ板の変形

暴風が海から吹き寄せて来た場合にビル風のように手前の建造物から巻き込んで風速は増し、また作品の形状にもより翼のような力が働き変形をまねいた。

2. 大気汚染物の付着による汚れとアルミ板の腐食

現場の状況では浜辺からの砂が作品表面をプラストしたり、樹木の葉や樹脂などが隙間に入り込み湿潤な環境を作り、金属の腐食を助長した（図 4）。

3. 石材表面の腐食

石材に関しては酸性雨が同じ場所を流れ落ちることにより大理石の石灰分を溶かし、大気中の汚れの付着を助長し主に炭素を分子間力で吸着する（図 5）。

4. アルミ板の表面の打痕

アルミニウムは比較的低い硬度なので風で飛んできた物体により傷がつきやすい（図 6）。

5. 表面加工の影響

流痕による腐食が見られた金属表面も石材と同様に水、熱、空気の影響を受けるが作品表面にヘアーライン加工が施されておりその効果が助長される。また、飛沫物質等により表面の酸化アルミニウム膜が損なわれると腐食しやすくなる（図 7）。

修復工程

約 2 年に渡り修復のための調査を行ったが、それでも確信を持てることは少なく作業工程の中で精査して行かざるをえないことは明白であった。

1. 足場の設置と金属部の取り外し

先ずどのように取り付けられているか不明であり、アンカーボルトで固定してあるにせよ、その現状態は不明であった。また、大理石の強度は個体の特徴が天然物であるため、特定はできない。

2. 作品の調査と処置提案

アルミ材の厚みを増して強度を上げるという提案もあったが、作家のイメージと異なるものになるのではとの意見もあった

3. 材料の選択と裁断および穴開け加工

現状の厚みでは強風により再び変形が生じる不安が残ったが、作家の意図を尊重し、オリジナルと同様の 2mm 厚とした。気象が荒れる場合にはその部分のプロテクションをすることとなった（図 11）。

4. 半球部分の研磨とヘアーライン加工

すべて手作業で行うこととし、半球部分はロクロの様な回転機に固定し行った（図 8）。

5. 工場と現場での組み付け作業

組み立てには湾曲部の曲がり具合を見るため 5m 以上もの高さヘクレーンで吊る必要があり、工場で行った（図 9）。

おわりに

屋外彫刻は自然の中に展示されるものであり、保存のためには室内展示とは異なった配慮が必要である。自然災害によるもの、落書きやバンダリズムのような人為的なこと、そのほか考慮すればするほどその対策は長大なものとなりうるので、どこまで行うか常識的なレベルを見出さなくてはならない。

物質は破壊、劣化、消失等の因子から逃れられないものである。過去の記述や写真、絵画、デッサン等から復元されることも多々あるが時間は取り戻せない。その作品の空間の空気感を再現するのであれば材質や技術といったことも、それほど大きな問題とはなり得ないようである。現に誰も見たことのない古い城や古都等の復元が多数行われているが、時の流れとともにその造物の意図も移ろいでいくのは事実であろう。



図1 修復前 強風により前面のアルミ板が変形した



図2

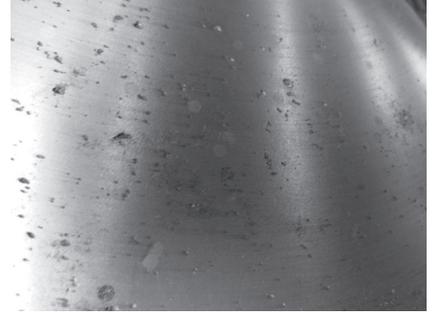


図3



図4



図5



図6

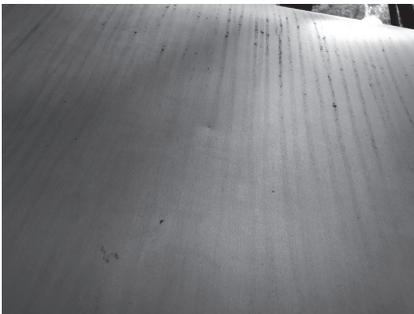


図7



図8



図9



図10 修復後



図11

2021(令和3)年度 修復作品一覧

*記載のあるものは外部委託、ないものは当館修復担当研究員 伊藤由美と修復担当学芸員 橋口由依が行った。

作者	作品名	寸法(cm) 縦・高×横・幅×厚・奥行	制作年	種別	修復担当*
清水九兵衛	BELT	480.0×240.0×120.0	1978	彫刻	文化財修復工房 明舎
村岡三郎	冬眠中	211.3×166.0×61.0	1965	彫刻	
若林 奮	Copper Drawing Sunrise	14.8×10.0	1997	彫刻	
若林 奮	Copper Drawing Sunrise II	14.8×10.0	1998	彫刻	
若林 奮	Copper Drawing Sunrise III	14.8×10.0	2000	彫刻	
若林 奮	Sunrise 眼帯	5.5×29.0	2000	彫刻	
若林 奮	Sunrise マスク	7.5×30.5	2000	彫刻	
山本直彰	Door S-1	201.2×253.4	1995	日本画	
田中 岑	ヴェトナム それからII	55.0×70.5	1966	パステル画	
田中 岑	径(みち)	116.8×91.0	1963	油彩画	
田中 岑	林間	65.8×80.4	1960年代	油彩画	
田中 岑	朝、そして僕は	72.8×53.2	1976-1980	油彩画	
麻生三郎	母子	91.2×65.5	1953	油彩画	
麻生三郎	人	73.0×91.2	1960	油彩画	
大河内信敬	静物	72.5×90.5	1949-1950	油彩画	
荻須高德	ル・ベック	162.0×130.0	1967	油彩画	
荻須高德	Une cour(中庭)	63.5×79.3	1969	油彩画	
奥谷 博	ベランダのモンステラ	180.1×220.8	1967	油彩画	
奥谷 博	鏡の中の自画像と骨	171.5×200.5	1975	油彩画	
蔵本朝美	火脈	112.2×162.1	不詳	油彩画	
蔵本朝美	火華	162.1×112.3	不詳	油彩画	
佐野繁次郎	モナリザ	99.2×80.6	1962	油彩画	
中尾 誠	ヒトはひと I	65.2×91.0	1964	油彩画	
中尾 誠	皮膚に	97.2×130.4	2005	油彩画	
中尾 誠	皮膚に	60.8×72.8	2015	油彩画	
中尾 誠	皮膚に	60.8×72.8	2015	油彩画	
難波田龍起	灰色の街	116.6×90.8	1981	油彩画	
福沢一郎	よき料理人	79.5×115.0	1930	油彩画	
三岸節子	小運河の家	92.3×73.1	1973	油彩画	
吉原治良	作品(黒地に白四角)	162.4×130.5	1971	油彩画	
不詳	負翼童子図	115.5×67.7	不詳	油彩画	有限会社 修復研究所二十一
横山潤之助	波止場	38.4×29.2	1923	水彩画	有限会社 修復研究所二十一
中野和高	フランス人形	27.2×24.1	不詳	素描	
藤田嗣治	絵手紙「もう一度行きたいのは…」	21.9×14.5	1942	素描	
上野 誠	1932年メーデー	32.1×47.9	1948	版画	
エドゥアール・マネ	エドガー・アラン・ポー (ステファヌ・マラルメ仏訳)『大鴉』 2 蔵書票: 飛ぶ鴉	25.6×29.0	1875	版画	有限会社 修復研究所二十一
オディロン・ルドン	『ゴヤ頌』表紙	46.4×65.7	1885	版画	
オディロン・ルドン	『聖アントワヌの誘惑』第1集 表紙一屏絵	45.1×63.5	1888	版画	
オディロン・ルドン	『幽霊屋敷』 1. 私はその上に人間の形をしたぼんやりした輪郭を見た	45.2×31.9	1896	版画	
オディロン・ルドン	『幽霊屋敷』 2. 私は大きく蒼い微光を見た	45.2×31.5	1896	版画	
オディロン・ルドン	『幽霊屋敷』 3. 彼はきわめて奇妙な顔つきでじっと私を眺めた	45.1×31.9	1896	版画	
オディロン・ルドン	『幽霊屋敷』 4. よく見るとそれは私の手と同様肉と血を持った手であった	45.2×31.7	1896	版画	
オディロン・ルドン	『幽霊屋敷』 5. みにくき怨霊	45.1×31.8	1896	版画	
オディロン・ルドン	『幽霊屋敷』 6. 広い平たい額の骨	45.3×31.5	1896	版画	
郷 野夫	連環画『水災』(一)洪水	16.7×21.5	1932	版画	
郷 野夫	連環画『水災』(十五)請願	16.6×22.5	1932	版画	
浜田知明	初年兵哀歌(歩哨)	30.4×21.5	1951	版画	
浜田知明	初年兵哀歌(山を行く砲兵隊)	24.1×17.1	1953	版画	
李 樺	真夜中の恐怖	24.4×36.3	1947	版画	
汪 刃鋒	嘉陵江の舟曳き	34.9×23.1	不詳	版画	
王 樹藝	老人	36.7×28.8	1947	版画	
王 麥桿	麦打ち場	28.6×51.5	1946	版画	
若江漢字	見ることと視えること“Distance”	24.5×29.4; 24.4×29.4	1972	写真	

美術館資料の保存と活用

—2021(令和3)年度のアーカイブ事業について

長門佐季・西澤晴美

2017年度から取り組んでいる当館の「美術館アーカイブ」は、鎌倉別館のリニューアルと時期をあわせた2019年度以降、美術館ウェブサイトにおいてデータベースの一部公開を行い、資料の検索を可能としている。2019年度、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、以前に比べて外部からの問い合わせや閲覧希望が少なかったが、その間にもデータベースの充実を図り公開件数を増やし、また展覧会で特集展示を行うなど活用促進につとめてきた。

2021年度から日本学術振興会の研究成果公開促進助成を受けて、当館のアーカイブの重要なカテゴリーのひとつである「作家資料」のうち、斎藤義重旧蔵図書(和書、洋書あわせて約4,000冊、和雑誌11タイトル)のウェブ公開を実施したほか、2021年度に新たに受贈した彫刻家・堀内正和(1911-2001)の旧蔵資料123件をデータベース登録し、ウェブサイトに公開した。

今年度、新規受贈のアーカイブ資料のリストは本稿の末尾にまとめているが、堀内正和旧蔵資料には1940年から1951年までの日記をはじめ、堀内が師と仰いだ歌人で哲学者の児山敬一(1902-1972)や彫刻家の辻晋堂(1910-1981)など親交のあった人物から堀内に宛てた1940年代の書簡、手稿など貴重な資料が含まれている。また、堀内の旧蔵書約4,000件は2016年度に美術図書館に寄贈されており、それらについても今後ウェブ公開を順次行っていく予定である。

今年度の外部研究者によるアーカイブ資料のおもな活用の事例としては次のものが挙げられる。

- ・久米民十郎旧蔵資料の調査

2000年度に遺族から寄贈を受けた久米民十郎(1893-1923)の手帳、書簡、写真などの資料の調査、撮影

- ・児童生徒作品展関連資料、美術造形講座関連資料の調査

1953年から1974年まで開催した児童生徒作品展、1964年から1981年まで開催した美術造形講座の関連資料の調査

- ・美術館アーカイブの運営、資料整理方法などについての調査

過去の展覧会資料の整理、保管方法、利用者への対応などアーカイブ運営についての聞き取り調査、情報提供

- ・展覧会資料の調査

パウル・クレー展(1969年)、エドワルド・ムンク展(1970年)、ボルドー美術館名作展(1971年)など7本の海外展に関する資料の調査

- ・斎藤義重アーカイブ資料の調査

2002年度に遺族から寄贈を受けた斎藤義重(1904-2001)のノート、書簡などの資料の調査

このほか、館内においては、開館70周年を記念して開催された「空間の中のフォルム—アルベルト・ジャコメッティから桑山忠明まで」展の『報告書』に、当館学芸員の菊川亜騎が本アーカイブ事業によって整理された過去の展覧会資料を活用して「展覧会にみる彫刻史—神奈川県立近代美術館 草創期の活動から」を発表している。今後も引き続きデータ・画像ともに公開件数の増加につとめていくとともに、当館が公開するアーカイブ資料が一層広く研究に活用されることを期待する。

堀内冬彦氏寄贈 堀内正和旧蔵資料リスト

・■は判読不能/困難文字を示す。

資料名	形状等	備考
「日記 昭和十五年八月から昭和十六年八月まで」	冊子	
「日誌 昭和十九年一月から昭和廿年七月まで」	冊子	
「日誌 昭和廿年七月」	冊子	昭和26年まで
ノート	冊子	
ノート	冊子	
ノート「十六世紀哲学史 児山敬一先生 第一冊」	冊子	
ノート「十六世紀哲学史 児山敬一先生 第二冊」	冊子	
ノート「ルネ グルセ 東洋哲学史 一」	冊子	
ノート「ルネ グルセ 東洋哲学史 二」	冊子	
ノート「ルネ グルセ 東洋哲学史 三」	冊子	
「西洋彫刻史」	一式	
原稿「伊太利亚文学概観」	原稿用紙 綴じ83枚	
原稿「生涯」	7枚	
原稿「序論(一九二三年版の)」	原稿用紙 綴じ27枚	
原稿[No.14 …しているが、さういふ女性的な本質のなかに…]	原稿用紙 70枚	
原稿「科学と美 ガブリエル セアイユ」	原稿用紙 9枚	
原稿「ローマと学校」	原稿用紙 34枚	
原稿「フィレンツェ 光と影」	原稿用紙 8枚	

資料名	形状等	備考
原稿「西洋美術史 ケールベからシュルレアリスムまで」	一式	
原稿「美の世界 レオン ブランシュヴィック」	一式	
原稿(無題)「人間は物に細工することをこのむ…」	原稿用紙 7枚	
原稿「第二章 人文主義と十五世紀拉典語文學」	原稿用紙 12枚	
原稿「シャンドル・ケーメリ著 ブルデルの面影」	原稿用紙 2枚	
原稿「美術の起源と運命」	16枚	
原稿「烈しすぎるために…」	原稿用紙 32枚	
原稿「ギリシヤの美術」	6枚	
原稿「作品の題名」	原稿用紙 3枚	
原稿「制作ノート」	原稿用紙 2枚	
原稿「へっこみましかく十二面体」	原稿用紙 1枚	
原稿「三つの四角枠」	原稿用紙 2枚	
原稿「かみはさみのり」	原稿用紙 2枚	
原稿「紙・鉄・糊」	原稿用紙 1枚	
原稿「紙・鉄・糊」	原稿用紙 1枚	
原稿「…ですね」	原稿用紙 2枚	
原稿「正二十面体一割引き」	原稿用紙 2枚	
原稿「水平垂直に犯された卵形」	原稿用紙 1枚	
原稿「二十七番目の立方体O」ほか	原稿用紙 2枚	
原稿「二十七番目の立方体D」	原稿用紙 1枚	
原稿「生まれた日」	原稿用紙 3枚	
原稿「僕は作家個人の臭をただよわせているような…」ほか	原稿用紙 2枚	
原稿「渡辺行夫『風待ち』について」コピー	コピー用紙 1枚	
メモ「僕の彫刻歴」	原稿用紙 4枚	
メモ「1912年頃最初のデッサン…」コピー	コピー用紙 10枚	
メモ「NAUM GABO, A.Himmler」ほか	一式	
メモ「Marcel Duchamp 1887.7月28…」	コピー用紙 綴じ18枚	
メモ「題名『エヴァからもらった大きなリンゴ』」	原稿用紙 1枚	
メモ「最近の検証はいちばんはじめ…」	7枚	和・仏
メモ「この作品は三つの同じ大きさの…」	原稿用紙 1枚	
メモ「作品リスト(線a…)」	2枚	
メモ「作品リスト(男の顔首(M表の首)…)」	6枚	
メモ「摩止詞俱天狗」ほか	原稿用紙 1枚	
メモ「彼は旅行嫌いなので…」	2枚	
メモ「ひだりなわひだりぎっちょ…」	原稿用紙 1枚	
メモ「稜線による三点連結立方体群」ほか	一式	
書簡(飯島三四二から堀内正和宛[1935年10月14日付])	はがき	消印: 10年10月14日
書簡(飯島三四二から堀内正和宛[1935年11月10日付])	はがき	消印: 10年11月10日
書簡(辻晉堂から堀内正和宛[1940年12月11日付])	はがき	消印: 15年12月11日
書簡(辻晉堂から堀内正和宛[1942年6月12日付])	はがき	消印: 17年6月12日
書簡(辻晉堂から堀内正和宛[1942年6月13日付])	はがき	消印: 17年6月13日
書簡(辻晉堂から堀内正和宛[1942年9月])	はがき	消印: 17年9月■日
書簡(辻晉堂から堀内正和宛[1943年6月7日付])	はがき	消印: 18年6月7日
書簡(辻晉堂から堀内正和宛[1943年10月26日付])	はがき	消印: 18年10月26日
書簡(辻晉堂から堀内正和宛)	はがき	消印: ■年5月■日
書簡(辰野隆からアテネ・フランセ宛[1943年9月9日付])	はがき	消印: 18年9月9日
書簡(田畑一作から堀内正和宛[1944年3月24日付])	はがき	消印: 19年3月24日
書簡(田畑一作から堀内正和宛[1944年9月27日付])	はがき	消印: 19年9月27日
書簡(津軽照子から堀内正和宛[1944年9月11日])	はがき	消印: 19年9月11日
書簡(津軽照子から堀内正和宛[1947年6月5日付])	はがき	消印: 22年6月5日
書簡(津軽照子から堀内正和宛)	手紙	消印: ■年8月8日
書簡(津軽照子から堀内正和宛)	手紙(書簡2通)	消印不詳
書簡(津軽照子から堀内正和宛)	はがき	消印: ■年3月19日
書簡(津軽照子から堀内正和宛)	はがき	消印: 2■年■月30日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1941年1月8日付])	はがき	消印: 16年1月8日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1941年4月9日付])	はがき	消印: 16年4月9日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1941年5月6日付])	はがき	消印: 16年5月6日

資料名	形状等	備考
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1941年7月9日付])	はがき	消印:16年7月9日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1942年10月31日付])	はがき	消印:17年10月31日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1943年])	はがき	消印:18年■月■日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1943年6月19日付])	はがき	消印:18年6月19日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1943年10月5日付])	はがき	消印:18年10月5日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1943年11月5日付])	はがき	消印:18年11月5日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1943年12月29日付])	はがき	消印:18年12月29日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1944年3月31日付])	はがき	消印:19年3月31日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1944年4月10日付])	はがき	消印:19年4月10日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1944年5月29日付])	はがき	消印:19年5月29日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1944年8月12日付])	はがき	消印:19年8月12日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1944年9月8日付])	はがき	消印:19年9月8日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1944年12月11日付])	はがき	消印:19年12月11日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1945年1月15日付])	はがき	消印:20年1月15日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1945年4月30日付])	はがき	消印:20年4月30日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1946年1月7日付])	はがき	消印:21年1月7日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1946年4月28日付])	はがき	消印:21年4月28日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1946年10月19日付])	はがき	消印:21年10月19日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1947年2月8日付])	はがき	消印:22年2月8日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1947年6月3日付])	はがき	消印:22年6月3日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1947年7月4日付])	はがき	消印:22年7月4日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1948年1月8日付])	はがき	消印:23年1月8日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1948年4月8日付])	はがき	消印:23年4月8日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1948年6月5日付])	はがき	消印:23年6月5日
書簡(児山敬一から堀内正和宛[1948年9月26日付])	はがき	消印:23年9月26日
書簡(児山敬一から堀内正和宛)	はがき	消印:■年2月28日
書簡(児山敬一から堀内正和宛)	はがき	消印:■年5月23日
書簡(児山敬一から堀内正和宛)	はがき	消印:■年6月7日
書簡(児山敬一から堀内正和宛)	はがき	消印:■年11月15日
書簡(児山敬一から堀内正和宛)	はがき	消印:■年■月10日
書簡(児山敬一から堀内正和宛)	手紙	消印:■年■月21日
書簡(児山敬一から堀内正和宛)	はがき	消印不詳
書簡(児山敬一から堀内正和宛)	はがき	消印不詳
書簡(児山敬一から堀内正和宛)	はがき	消印不詳
書簡(須賀野チイから堀内正和宛[1951年年賀状])	はがき	
書簡(堀内淳子から堀内正和宛[1951年1月12日])	はがき	消印:26年1月12日
書簡(好川博から堀内正和宛[1951年1月付])	はがき	消印:26年1月■日
書簡(佐野賢から堀内正和宛[1951年8月30日付])	はがき	消印:26年8月30日
書簡(野水信から堀内正和宛[1951年年賀状])	はがき	消印不詳
書簡(土方定一から堀内正和宛[1962年])	手紙	消印不詳、内容から1962年と推定される。
新制作派協会展覧会招待状	案内状	
[来訪者記名帳]	冊子	
坐忘庵印譜	冊子	
コピー(G.de Pawlowski./ Voyage au pays de la quatrième dimension)	冊子	
印刷物(新聞雑誌のスクラップ、コピー等)	一式	
図面	一式	
書籍	2冊	

調査研究活動

調査研究の発表・執筆等

- 1) 当館開催展覧会にともなう調査研究・発表
展覧会図録への発表：計1件 (pp.5-21 参照)
外部媒体への発表：計1件
- 2) そのほかの調査研究・発表
羽山昌夫「ワシーリー・ヴェレシチャーギン(1842-1904) 画家・軍人・旅人」、長塚英雄編『新・日露異色の群像 30：文化・相互理解に尽くした人々』生活ジャーナル、2021年、pp.26-44
西澤晴美「[口頭発表] 山口勝弘日記から見えてくるもの」「[シンポジウム] 戦後日本の前衛美術の新たな研究にむけて」東京国立近代美術館 2021年11月14日
西澤晴美「福島秀子の1950年代の創作活動について」『筑波大学アート・コレクション 石井コレクション 美をめぐる饗宴』筑波大学出版会、2021年、pp.323-345

外部資金の活用

- 1) 外部資金を活用した調査研究
「日本の抽象彫刻をめぐる批評基準の研究—近代美術館設立と展覧会の再考から」令和3年度科学研究費助成事業(若手研究:研究代表者 菊川亜騎)
「日欧シュルレアリスムの交流と共同制作の展開:瀧口修造とジュアン・ミロの書簡研究」令和3年度科学研究費助成事業(基盤研究C:研究代表者 朝木由香)
「戦後日本の前衛美術のクロス・レファレンスの研究 1945-1955」令和3年度科学研究費助成事業(基盤研究C:研究分担者 西澤晴美)
「画家・朝倉摂の基礎的調査研究」公益財団法人ポーラ美術振興財団、令和3年度調査研究助成金(研究代表者 西澤晴美)
- 2) 外部資金を活用した展覧会・事業
「町田市立博物館所蔵 岩田ガラスの世界展—岩田藤七・久利・糸子—」日本芸術文化振興会、令和3年度芸術文化振興基金助成金
「フィリアー今 道子」公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団、令和3年度<美術部門>助成金
「神奈川県立近代美術館アーカイブ事業」令和3年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費:代表者 長門佐季)

講師派遣・外部委員等就任

- 1) 講演会講師等派遣(当館主催の学校連携プログラム以外の講師等派遣)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により派遣実績なし

- 2) 外部委員等就任

職員名	団体名	職名
水沢 勉	葉山町	葉山町教育委員会委員
	群馬県	群馬県立館林美術館作品収集委員会委員
	独立行政法人国際交流基金	「集団と個の狭間で—1950-1960年代の日本前衛美術」展企画委員
	神奈川県女流美術家協会	「神奈川県女流美術家展」審査員
羽山昌夫	平塚市	平塚市美術館協議会委員
	湯河原町	美術品等選定委員会委員
	独立行政法人国際交流基金	「集団と個の狭間で—1950-1960年代の日本前衛美術」展企画委員
長門佐季	東京都	東京都現代美術館美術資料収集委員会委員
	平塚市	美術品等選定評価委員会委員
	横須賀市	横須賀美術館美術品評価委員会委員
	世田谷区	世田谷美術館美術品等収集委員会委員
	宮城県	宮城県美術館協議会美術品収集専門部会委員
	宇都宮市	宇都宮美術館美術品等収集評価委員
	神奈川県	「神奈川県美術展 平面立体部門」審査員
三本松倫代	茅ヶ崎市	美術品審査委員会委員
	神奈川県	「神奈川県美術展 中高生特別企画展」審査員

運営・管理報告

概況

1) 沿革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館（鎌倉館）
昭和41年3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年3月31日	学芸員室を増設
昭和49年8月1日	神奈川県立近代美術館組織規則（昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号）により、管理課、学芸課の2課を置く
昭和59年7月28日	別館を開館
平成3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年7月5日	PFI事業契約の締結
平成15年6月1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる
平成15年10月11日	葉山館を開館
平成28年3月31日	鎌倉館を閉館
平成28年12月22日	鎌倉館の建物を（宗）鶴岡八幡宮に譲渡
平成29年9月4日	鎌倉別館を改修工事のため一時休館
令和元年10月12日	鎌倉別館の改修工事完了による再開館
令和元年12月26日	葉山館を改修工事のため一時休館
令和2年4月11日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため鎌倉別館を臨時休館
令和2年6月9日	感染状況良化に伴い鎌倉別館を再開館
令和2年7月6日	鎌倉別館を改修工事のため一時休館
令和2年7月31日	葉山館の改修工事完了し再開館
令和3年1月12日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
令和3年3月23日	感染状況良化に伴い再開館
令和3年10月1日	鎌倉別館の改修工事が完了し再開館

2) 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

3) 施設の状況

令和4年3月31日現在

ア 土地	面積	
県有	(葉山館分)	15,034.86㎡
	※生涯学習課管理	
	(鎌倉別館分)	4,937.00㎡
イ 建物	延床面積	
	(鎌倉別館分)	1,902.93㎡
借用	(葉山館分)	(有償分) 7,111.51㎡

PFI事業の概要

1) 事業内容

- 鎌倉の地における開館以来半世紀が経過する中で不足してきた機能を補うため、既設館と連携する新館を葉山町に建設し連携することで、これまでの高い企画力を受け継ぎ、展示・収蔵機能の充実など、生涯学習時代にふさわしい機能を備えた美術館を整備することとした。その整備に当たっては、PFI法に基づき事業者が新たに葉山町に新館を建設・所有し、維持管理業務・美術館支援業務・備品等整備業務を行うとともに、既設館についても維持管理業務を行うこととした。事業者は、平成15(2003)年4月に開始した維持管理業務・美術館支援業務が終了する30年後の令和15(2033)年3月末をもって県に施設を無償譲渡する。事業者の主な業務は次のとおり。
- ア 葉山館建設業務：葉山館 新築工事、バスベイ・歩道整備工事など
 - イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理（修理を含む）、清掃、警備、受付・監視など
鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守管理（修理を含まない）、清掃、警備、受付・監視など
※鎌倉館の業務は借地期限の平成27年度までとする。
 - ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設（レストラン、ミュージアムショップ、駐車場）運営

2) 事業者

株式会社 モマ神奈川パートナーズ
所在地：横浜市西区みなとみらい2-2-1

収入・支出の状況

収入		令和3年度実績
科目	金額(円)	内訳
教育総務費使用料	80,158	鎌倉別館電柱等 土地・建物使用料
社会教育費使用料	25,405,210	観覧料収入
社会教育費事業収入	6,267,359	図録等売払収入
社会教育費受講料収入	0	
社会教育費立替収入	1,439,039	レストラン他光熱水費等
教育費雑入	1,857,890	図書館複写料金、 助成金
計	35,049,656	
支出(人件費含まず)		
科目	金額(円)	内訳
維持運営費	25,729,905	維持管理
美術館事業費	59,270,562	展覧会開催費、教育普及事業、 調査研究事業
美術作品整備費	6,753,600	美術作品購入・修復
特定事業費	399,852,562	PFI事業費
県立社会教育施設公開講座事業費	0	
計	491,606,629	

※収入・支出とも近代美術館執行分のみ

関係法規

神奈川県立近代美術館条例

昭和42年3月20日
条例第6号
(最終改正)平成28年10月21日
条例第77号

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立近代美術館(以下「美術館」という。)の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色2,208番地の1に設置する。

(職員)

第3条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付等)

第4条 美術館に展示している美術館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度別に定めることができる。

3 教育委員会は、第1項本文及び前項に規定する観覧料を収めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考2に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附則

1 この条例は、昭和42年4月1日から施行する。

2 神奈川県立近代美術館条例(昭和26年神奈川県条例第46号)は、廃止する。

<略>

附則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

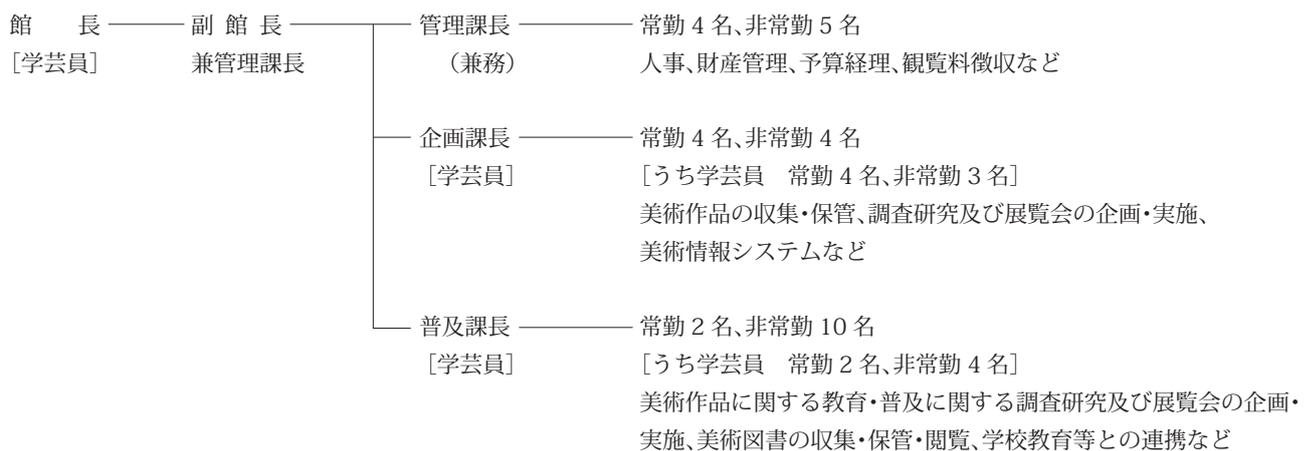
別表(第4条関係)

区 分	個 人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 250円	1人につき 150円
20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 150円	同 100円
65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

- 備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。
2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。令和4年3月31日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 33名
常勤 13名(再任用 1名、臨任 1名含む)、非常勤 20名(短時間勤務再任用 1名を含む)
[うち学芸員 常勤 8名(臨任 1名含む)、非常勤 8名]

館別配置状況

葉山館 常勤 10名(臨任 1名含む)、非常勤 16名(短時間勤務再任用 1名を含む)
[うち学芸員 常勤 6名(臨任 1名含む)、非常勤 6名]
鎌倉別館 常勤 3名(再任用 1名含む)、非常勤 4名
[うち学芸員 常勤 2名、非常勤 2名]

職員一覽

館長(非常勤)	水沢 勉		
副館長	齋藤 基幸		
管理課	課長(兼)	齋藤 基幸	
	副主幹	木内 久美子	
	主事	瀬尾 直人	
	主事	伊藤 朗	
	管理業務主任専門員	児玉 祐一郎	
	非常勤事務補助員	二藤部 映	
	非常勤事務補助員	原田 裕子	
	非常勤事務補助員	菊池 広美	
	非常勤事務補助員	伊藤 智子	
	非常勤事務補助員	大平 容子	
企画課	課長	長門 佐季	
	主任学芸員	西澤 晴美	
	学芸員	菊川 亜騎	
	学芸員	橋口 由依	
	臨時学芸員	朝木 由香	
	非常勤研究員	伊藤 由美	
	非常勤学芸員	荒木 和	
	非常勤学芸員	岩井 智子	
	非常勤事務嘱託	本田 秀行	
普及課	課長	靱山 昌夫	
	主任学芸員	三本松 倫代	
	主任学芸員	高嶋 雄一郎	
	非常勤学芸員	鈴木 敬子	
	非常勤学芸員	八木 めぐみ	
	非常勤学芸員	吉田 有璃子	
	非常勤学芸員	鈴木 彩乃	
	[美術図書室]		
	図書業務専門員	篠崎 淑子	
	非常勤司書	藤代 知子	
	非常勤司書	大野 寿子	
	非常勤司書	和田 明子	
	非常勤司書	山中 久美子	
	非常勤司書	阿部 尚子	令和4年3月15日から

神奈川県立近代美術館
年報 2021(令和3)年

発行日：2023年2月10日

編集：神奈川県立近代美術館

葉山館 〒240-0111 三浦郡葉山町一色 2208-1 電話 046-875-2800

鎌倉別館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下 2-8-1 電話 0467-22-5000

制作：有限会社リーザル

ANNUAL REPORT 2021

Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2023.2

Produced by Livre

© 2023 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

